

11 麻 酔 科 状 況

分 類 ・ 年度	診療科	診療科																計
		一 般 外 科	心 臓 外 科	形 成 外 科	放 射 線 科	精 神 科	脳 外 科	整 形 外 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	産 科 ・ 婦 人 科	眼 科	耳 鼻 科	歯 科 口 腔 外 科	循 環 器 科	麻 酔 科	救 急 科	
麻酔科 管理	22	878	78	74	12	110	145	1,046	6	371	1,206	7	206	37	4			4,191
	23	854	75	78	22	71	178	1,153	9	294	1,139	2	251	56	14	2		4,198
	24	799	84	88	82	198	133	1,317	11	309	1,186	2	227	70	21	21		4,548
	25	923	39	85	83	121	96	1,145	13	368	1,206	3	215	72	6	4	5	4,384

(1) 麻酔科臨床工学室

医療機器が多用される最近の医療現場では、医師や看護師のみでは効率的かつ安全な医療の遂行が難しくなり、医学的な知識のみならず工学的な知識と技術を持つ専門家として、1988年に誕生したのが臨床工学技士です。臨床工学技士は医療技術者の一つで、厚生労働大臣の免許を受けて『医師の指示の下に呼吸、循環、代謝に関わる生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする』（臨床工学技士法第2条）とされています。

業務体制としては、手術室部門・人工呼吸器部門・血液浄化部門・心臓カテーテル部門・ペースメーカー部門・ME機器部門など多岐に分かれます。

臨床業務実績

年度	急 性 血 液 浄 化 療 法										体外循環		オベ心カテ		ペースメーカー				呼 吸 器		ペースメーカー電池交換
	浄化総件数	C H D F	P M X	P E X	出 張 H D	L C A P	E C U M	ビリルビン吸着	腹水濾過量	人工心臓	P C P S	セルセーバー	心臓カテーテル検査	心臓カテーテル治療	ペースメーカー植込み	ペースメーカーカテック	一時的ペースメーカー操作	ペースメーカー術中管理	人工呼吸器ラウンド	RST総合ラウンド (N P V)	
22	422	549	35	28	0	32	0	4	1	72	3	132	308	221	41	422	9	45	3,535	713	
23	295	239	4	14	23	9	3	3	0	65	10	109	349	229	44	464	13	21	3,888 (257)	778	
24	498	343	25	39	87	0	0	4	0	67	10	124	394	261	43	459		21	443	786	
25	204	148	6	3	35	0	2	6	4	34	8	50	565	338	9	424	46	19	2,594	473	28

点検業務実績

年度	P C A ポンプ	電 気 メ ス	D	A E D	一時的ペースメーカー	人工呼吸器	加温マット	人工心肺	P C P S	血ガス装置	麻酔器	オベ室対応	透析室業務	閉鎖式保育器	シリンジポンプ	輸液ポンプ
22						743		72	3	240	239					
23	30	10	64	49	92	957	3	65	10	511	2,443	35				
24	85	19	190	86	218	1,020	6	67	10	492	2,438	76				
25	93	26	204	84	294	879	4	34	8	488	2,452	96	96	290	214	310

12 内視鏡室利用状況

分 類	件 数		
	平成23年度	平成24年度	平成25年度
上部消化管内視鏡	5,650	5,511	5,837
超音波内視鏡	1	18	7
食道・胃粘膜切除術	54	53	52
(食道粘膜切除術)	27(ESD20)	30(ESD18)	20(ESD13)
(胃粘膜切除術)	27(ESD20)	21(ESD17)	32(ESD29)
中・下咽頭粘膜切除術	2	6	10
上部消化管静脈瘤治療	52	32	16
(E V L)	(45)	(31)	16
(E I S)	(7)	(1)	0
胃静脈瘤硬化療法 (S O S)		0	0
狭窄拡張術	189	104	79
止血術	181	131	155
人工食道挿入		1	1
胃ろう造設 (P T E G)	43	53	76
イレウス管挿入	9	5	9
異物除去	37	22	17
下部消化管内視鏡	2,274	2,234	2,256
大腸粘膜切除術	210(ESD4)	226(ESD7)	186(ESD1)
大腸ポリペクトミー	301	293	215
吻合部拡張術		2	3
止血術	3	12	14
カプセル内視鏡			19
気管支鏡	318	294	242
経気管支肺生検	97	130	69
膵・胆道内視鏡	171	284	264
逆行性膵・胆管造影	171	193	183
超音波内視鏡		86	81
E U S - F N A		5	9
乳頭括約筋切開術	76	65	71
乳頭バルーン拡張術	25	7	24
胆管結石探石・砕石術	40	59	71
経鼻胆道ドレナージ術	42	44	46
胆管ステント挿入術	45	31	44
膵管ステント挿入術	8	3	0
乳頭切除術	1	0	0
細胞診	22	18	32
組織診	15	20	11
計	8,510	8,453	8,687

13 クリニカルパス使用件数

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
14N	2	2	5	5	8	4	5	3	7	3	2	3	49
14S	5	9	3	6	3	6	6	2	3	7	7	4	61
13N	47	41	37	50	42	43	42	35	30	35	50	40	492
13S	7	2	6	6	5	6	3	4	3	3	5	4	54
12N	76	83	90	87	91	83	90	92	81	83	91	89	1,036
12S	16	9	10	10	7	9	16	4	8	10	9	9	117
11N	55	50	54	60	47	44	44	47	39	42	47	44	573
11S	42	47	45	50	54	40	39	51	49	37	43	49	546
10N	52	65	63	64	73	64	81	67	59	54	67	63	772
10S	82	67	90	105	111	106	96	104	88	78	103	92	1,122
9N	2	6	4	5	7	6	7	4	2			1	44
9S													
9W		3	1	2	3	1	2	2	2	2			18
8N	143	122	150	141	150	150	153	130	135	145	124	147	1,690
8S	9	5	12	12	14	9	16	12	16	20	23	21	169
8W													
ICU	2	2	2	2	1	1				1		2	13
OPE	199	225	258	268	278	247	226	219	207	205	193	221	2,746
合計	739	738	830	873	894	819	826	776	729	725	764	789	9,502

14 外来治療センター利用状況

外来治療センターにおける治療患者数（平成25年度）

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大腸	63	74	67	71	66	60	71	52	56	62	63	54	759
胃	14	10	7	8	9	7	1	6	2	8	6	7	85
肝胆脾	23	22	26	31	33	32	23	26	25	35	28	18	322
乳腺	74	46	40	41	38	40	43	48	41	54	37	39	541
呼吸器	21	22	18	14	15	12	15	23	14	18	25	28	225
造血器	21	29	31	18	45	22	36	32	17	25	22	34	332
婦人科	15	13	11	15	14	14	14	9	8	9	6	10	138
脳神経	4	9	5	14	12	12	15	10	14	23	12	7	137
泌尿器	7	7	7	5	7	7	7	8	4	7	5	7	78
頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	2	4	1	0	0	7
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
生物学的製剤	31	35	26	34	32	30	40	29	37	34	31	34	393
合計	273	267	238	251	271	236	265	245	222	276	236	238	3,018
診療日数	21	21	20	22	22	19	22	20	19	19	19	20	244
1日あたり	13.0	12.7	11.9	11.4	12.3	12.4	12.0	12.3	11.7	14.5	12.4	11.9	12.3
骨吸収抑制剤	4	3	11	22	13	20	26	12	23	15	14	11	174
ホルモン製剤	103	56	69	107	79	92	93	85	95	83	76	95	1,033

15 薬剤部業務状況

薬剤部の業務は調剤・注射薬調製、薬剤管理指導、薬品管理、製剤の4部門に大別され、その内容は以下に示すとおりです。病院の機能分化が進む中、当院では外来患者数の減少に伴い、平成25年度の院外処方箋枚数は1日平均70枚以上減少しました。一方では、DPC導入病院として持参薬の活用を推進したことにより、薬剤部における持参薬の確認・鑑別業務は大幅に増加しました。薬品管理部門では、前年度に引き続き後発医薬品への切り替えを積極的に行い、後発品使用率（数量ベース）は50%近くまで引き上げられ、薬品使用金額も昨年度に比べ約8000万円減少しました。

(1) 調剤・注射薬調製業務

アに科別、病棟別の外来・入院処方箋枚数を示しました。外来患者数が減少したことにより、外来院外処方箋枚数は昨年度より約17,000枚減少し、外来院内処方箋枚数は昨年度より約2,000枚減少しました。入院処方箋枚数は昨年度とほぼ同じでした。イに月別の外来処方箋枚数と院外処方箋発行率を示しましたが、院外処方箋発行率は昨年度とほぼ同じでした。ウに持参薬確認件数を示しましたが、対象患者を拡大したことにより、昨年度より約2,200件増加しました。エに月別、病棟別TPN調製件数を示しました。TPN調製については、昨年度より一般病棟における調製件数が約270件増加し、NICUの調製件数も約200件増加しました。オに化学療法調製件数を示しました。外来は昨年度とほぼ同じで、入院は約200件減少しました。カに月別注射箋枚数を示しました。注射箋枚数は昨年度に比べ月平均約740枚減少しました。

ア 診療科別外来（院外・院内）処方・病棟別入院処方年間総処方箋枚数及び1日平均処方箋枚数

診療科	外来院外処方箋枚数		外来院内処方箋枚数		病棟	入院処方箋枚数	
	年間	1日平均	年間	1日平均		年間	1日平均
内科	62,992	258.1	7,168	29.3	8N	3,740	10.2
精神・神経科	23,069	94.5	433	1.7	8S	3,382	9.3
小児科	18,123	74.2	3,978	16.3	8W	1,093	3.0
外科	11,561	47.3	1,186	4.8	9N	7,217	19.8
心臓血管外科	2,438	9.9	3	0.0	9S	3,645	10.0
脳神経外科	3,716	15.2	315	1.2	9W	500	1.4
整形外科	19,607	80.3	1,308	5.3	10N	6,152	16.9
形成外科	1,051	4.3	247	1.0	10S	7,037	19.3
皮膚科	17,306	70.9	226	0.9	11N	7,202	19.7
泌尿器科	7,874	32.2	291	1.1	11S	7,555	20.7
産婦人科	7,481	30.6	94	0.3	12N	5,870	16.1
眼耳鼻咽喉科	4,807	19.7	53	0.2	12S	7,411	20.3
放射線科	6,835	28.0	283	1.1	13N	7,614	20.9
リハビリテーション科	386	1.5	23	0.0	13S	7,857	21.5
口腔外科	40	0.1	2	0.0	14N	6,592	18.1
救命救急センター	3,947	16.1	28	0.1	14S	7,533	20.6
	1,103	4.5	1,173	4.8	ICU	1,291	3.5
計	192,336	788	16,811	68	計	91,691	251

稼働日数 外来院外 244日

外来院内 244日

入院 365日

イ 月間外来（院外・院内）処方箋枚数及び院外処方箋発行率

年 月	外 来 処 方 箋 枚 数						院外処方箋発行率（注2）		
	院外処方箋枚数	院内処方箋枚数（注1）				計	計	（Ⅰ）	（Ⅱ）
		（A）	（B）	（C）	計				
平成25年 4 月	16,579	317	588	476	1,381	17,960	92%	95%	98%
5 月	16,721	346	656	455	1,457	18,178	92%	94%	98%
6 月	15,266	306	630	404	1,340	16,606	92%	94%	98%
7 月	17,474	312	694	486	1,492	18,966	92%	95%	98%
8 月	16,293	316	625	436	1,377	17,670	92%	95%	98%
9 月	15,391	316	582	404	1,302	16,693	92%	94%	98%
10月	16,499	293	566	453	1,312	17,811	93%	95%	98%
11月	15,343	289	594	427	1,310	16,653	92%	95%	98%
12月	16,489	263	866	424	1,553	18,042	91%	94%	98%
平成26年 1 月	16,099	264	912	407	1,583	17,682	91%	93%	98%
2 月	14,700	286	700	350	1,336	16,036	92%	94%	98%
3 月	15,533	277	685	406	1,368	16,901	92%	94%	98%
計	192,387	3,585	8,098	5,128	16,811	209,198	92%	94%	98%

注1）（A）：労災、自賠責扱い患者の処方、院内製剤、麻薬、治験を含む処方、特に必要と認めた患者の処方等

（B）：救急外来処方（主に夜間）

（C）：検査薬、糖尿病血糖測定紙、穿刺針、消毒綿、インスリン注入器等の処方

注2）（Ⅰ）：院内処方せん枚数に（A）、（B）、（C）を含む

（Ⅱ）：院内処方せん枚数に（A）、（B）を含む

（Ⅲ）：院内処方せん枚数に（A）を含む

ウ 持参薬確認件数

年月 病棟	平成25年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	平成26年 1 月	2 月	3 月	合計
14N	19	27	28	26	39	29	32	27	22	25	18	24	316
14S	35	38	22	43	30	27	43	30	32	35	31	36	402
13N	58	43	44	70	63	56	61	57	41	59	55	53	660
13S	33	38	29	49	47	45	34	37	29	46	32	26	445
12N	12	27	43	74	87	82	89	96	70	91	99	78	848
12S	11	22	27	44	38	55	56	39	44	44	36	35	451
11N	50	56	57	65	64	56	48	56	39	61	63	52	667
11S	57	52	55	68	66	74	60	67	48	82	55	65	749
10N	36	50	47	50	45	51	56	52	37	40	45	45	554
10S	51	52	46	57	66	50	44	52	41	56	56	56	627
9N	0	3	3	3	5	0	0	5	5	4	5	3	36
9S	0	0	1	0	1	6	8	7	5	6	6	4	44
9W	0	0	1	1	1	1	0	2	2	2	1	0	11
8N	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
1CU	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	362	409	403	550	552	532	532	527	415	551	502	477	5,812

エ 月別、病棟別TPN調製件数

年月 病棟	平成25年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	平成26年 1 月	2 月	3 月	合計
8 S													0
9 N													0
10N				18	14								32
10S													0
11N			7	2	20	9	26	3	33	41	22	8	171
11S			18	12	1	8				22	1		62
12N										5			5
12S				4	22	9	19		2				56
13N				1	1	3							5
13S	30	16		7	8	6	23	1	8			6	105
14N				5			34		2				41
14S					6	12	56	37	4				115
TPN小計	30	16	25	49	72	47	158	41	49	68	23	14	592
NICU	62	36	130	130	56	39	75	40	68	48	50	72	806
合計	92	52	155	179	128	86	233	81	117	116	73	86	1,398

オ 月別、外来（診療科）・入院（診療科・臓器別）化学療法調製件数

診療科・入院（臓器別）	年月 平成25年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	平成26年 1 月	2 月	3 月	平成25年度 合計
内科	73	82	70	75	94	73	96	93	72	81	76	87	972
外科	171	152	138	138	137	137	132	123	122	154	135	126	1,665
脳神経外科	0	0	0	2	5	3	5	6	6	4	2	0	33
産婦人科	14	13	13	15	14	14	14	8	9	10	6	7	137
泌尿器科	7	7	7	6	6	7	6	8	6	7	5	7	79
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	2	4	1	0	0	7
ゾマ	1	3	18	19	4	1	3	1	1	2	1	2	56
エンドキサンパルス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
外来合計	266	257	246	255	260	235	256	241	221	259	225	229	2,950
造血器	32	14	38	32	14	11	25	9	6	12	15	7	215
肺	35	42	37	39	47	48	53	38	19	48	28	28	462
食道	25	30	16	22	16	22	26	22	14	31	40	25	289
胃	5	6	3	6	4	5	9	10	6	9	8	7	78
脾	0	3	4	40	1	1	9	20	13	2	18	22	133
乳腺	0	1	0	0	0	0	2	2	0	2	3	3	13
大腸	6	5	1	4	3	4	3	0	3	2	4	2	37
脳外	5	4	1	2	4	9	4	3	7	8	5	1	53
皮膚科	2	0	0	5	3	4	0	0	0	0	0	0	14
産婦人科	5	5	5	10	7	5	7	11	7	14	12	9	97
泌尿器科	6	4	15	11	18	16	20	3	0	5	10	16	124
耳鼻科	13	16	9	10	8	7	1	12	2	15	4	14	111
歯科	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
その他	1	0	1	1	1	1	0	1	0	0	3	1	10
入院合計	137	130	130	182	126	133	159	131	77	148	150	135	1,638
総合計	403	387	376	437	386	368	415	372	298	407	375	364	4,588

カ 月別注射箋枚数（入院）

年月	平成25年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	合計
注射箋 枚 数	10,818	12,503	11,406	11,216	11,034	10,111	10,763	10,779	10,039	11,259	10,751	10,531	131,210

(2) 薬剤管理指導業務

平成25年度は、指導患者数で約2,000人、指導件数で約2,400件の減少となりました。退職などに伴う薬剤師の人員減や、持参薬鑑別業務の拡充など部内の業務比率の変動が影響を及ぼしているものと思われます。全体的に指導件数は減少いたしましたが、眼科など一部の科で大幅に増加したものも認められます。

診療科別・病棟別年間指導対象患者数及び薬剤管理指導件数

診 療 科	患 者 数	薬剤管理 指導件数	病 棟	患 者 数	薬剤管理 指導件数
内 科	1,485	1,585	8 N	7	8
精 神 ・ 神 経 科	29	31	8 S	7	7
小 児 科	2	2	8 W	1	1
外 科	137	154	9 N	29	31
心 臓 血 管 外 科	34	37	9 S	5	5
脳 神 経 外 科	18	18	9 W	1	1
整 形 外 科	421	445	10 N	298	315
形 成 外 科	6	6	10 S	240	253
皮 膚 科	99	103	11 N	90	100
泌 尿 器 科	257	267	11 S	66	75
産 婦 人 科	64	66	12 N	758	1,028
眼 科	172	410	12 S	199	205
耳 鼻 咽 喉 科	180	192	13 N	501	526
リハビリテーション科	1	1	13 S	393	415
歯 科 口 腔 外 科	58	61	14 N	173	194
救 急 科	15	15	14 S	206	224
			ICU	4	5
計	2,978	3,393	計	2,978	3,393

(3) 薬品管理業務

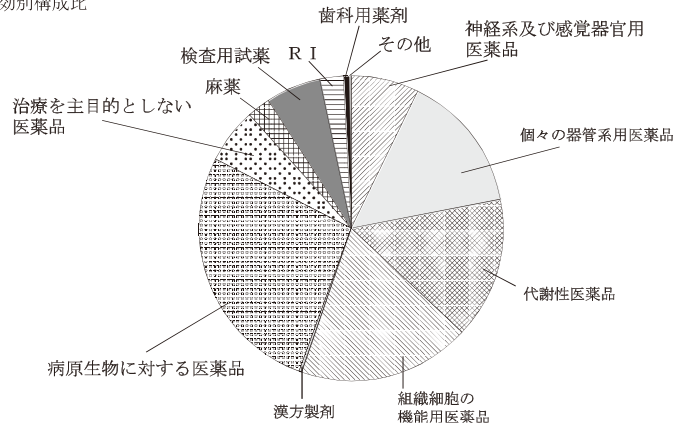
薬品使用金額は昨年度に比べ約4%、金額にして約8300万円の減少となりました。減少の理由は先発医薬品から後発医薬品への変更による減額効果によるものと思われます。

薬品使用状況

ア 用途別消費比率

区 分	比 率 (%)	区 分	比 率 (%)
内 服 用 薬 品	16.69	そ の 他 薬 品	1.09
注 射 用 薬 品	66.58	麻 薬	1.03
外 用 薬 品	2.70	血 液	5.00
検 査 薬 品	4.84	放 射 性 薬 品	1.80

イ 薬効別構成比



区 分	比率(%)
神経系及び感覚器官用医薬品 (麻酔剤、解熱鎮痛剤、抗てんかん剤、精神神経用材等)	5.91
個々の器官系用医薬品 (循環器官、呼吸器官、消化器官用薬等)	13.16
代謝性医薬品 (ビタミン剤、滋養強壮薬、人工透析用薬等)	15.07
組織細胞の機能用医薬品 (主要、アレルギー用医薬品等)	21.92
漢方製剤	0.09
病原生物に対する医薬品	30.41

区 分	比率(%)
治療を主目的としない医薬品	5.30
麻薬	1.03
検査用試薬	4.84
R I	1.80
歯科用薬剤	0.02
その他	0.45
合 計	100

ウ 採用医薬品における後発医薬品の割合

平成25年度末時点での、後発医薬品採用率（新算定法による）は下表のとおりでした。

採用薬品数	先発医薬品	後発医薬品	合計	後発医薬品 採用率 (品目シェア)
	1,177	265	1,442	18.38%
購入数量 (薬価単位)	先発医薬品 (後発の発売が あるもの)	後発医薬品	合計	後発医薬品 採用率 (数量シェア)
	1,567,024	1,490,718	3,057,742	48.75%
購入金額 (円)	先発医薬品 (後発の発売が あるもの)	後発医薬品	合計	後発医薬品 採用率 (金額シェア)
	275,381,597	160,843,647	436,225,244	36.87%

(4) 製剤業務

昨年度と比べ、注射剤が2倍となり、点眼薬・点鼻薬等が2.7倍、内・外用液剤が25%減、軟膏剤が1.3倍となりました。硫酸亜鉛カプセルを10%硫酸亜鉛散へと剤形を年度途中に変更しました。

主な製剤総量(平成25年4月～平成26年3月)

薬品名	規格	数量	薬品名	規格	数量
3%亜硝酸ナトリウム注射剤	10ml	5	強酸性水	1000ml	14
パテントブルー注射液	5ml	62	2%グリセリンカリ石鹸洗腸	3000ml	10
8倍イソジン洗眼液	100ml	353	2.5%酢酸	100ml	45
塩酸エピネフリン0.03%	50ml	675	2.5%酢酸	500ml	37
滅菌エピネ・キシロ1:1	50ml	60	30%酢酸	8000ml	45
滅菌オリーブ油	20ml	30	耳垢水	10ml	140
滅菌グリセリン	30ml	30	3%硝酸銀液	10ml	9
脱気水	1000ml	63	20%硝酸銀液	30ml	2
滅菌ハイアミン0.025%	100ml	335	精製水	3000ml	45
滅菌ハイアミン0.01%	100ml	25	精製水	10000ml	20
滅菌ハイアミン0.01%	500ml	70	生理食塩水	10000ml	90
滅菌ビオクタニン2%	10ml	421	皮膚インキ	120ml	1
滅菌ベルカミン液0.2%	50ml	40	2%ホルマリンアルコール	500ml	4
滅菌ベルカ・エピネ1:1	50ml	62	ホワイトローション	50ml	30
歯科用3000倍ボスミン液	50ml	5	5%内服用ルゴール	500ml	9
リン酸内服液	10ml	168	1%内服用ルゴール	100ml	4
1.2%口腔外科用ルゴール	100ml	18	1.2%ルゴール液	500ml	8
0.5%硫酸アトロピン点眼液	5ml	17	0.8%ルゴール液	500ml	20
0.25%硫酸アトロピン点眼液	5ml	15	アクリノール分包	5g	25
20倍希釈イソジン点耳液	10ml	119	水性ゲル	450ml	48
1%塩酸点眼液	5ml	4	5%チンクレスタミンクリーム	100g	4
4%キシロカイン点眼液 分注	5ml	96	2%ハイドロキノロン	10g	134
4倍希釈デスマプレシン点鼻液	4.8ml	4	5%ハイドロキノロン	10g	83
ナシピン点鼻液 分注	10ml	72	パッチテスト	5g	1
ブリピナ点鼻液 分注	10ml	2	0.2%ポリミキシン軟膏	300g	8
1%SADBEアセトン	60ml	1	0.8%メトロニダゾールゲル	100g	231
0.1%SADBEアセトン	60ml	4	モース氏ペースト	100g	1
0.01%SADBEアセトン	60ml	4	0.1%レチノイン酸	10g	129
0.001%SADBEアセトン	60ml	2	0.2%レチノイン酸	10g	78
0.0005%SADBEアセトン	60ml	2	チラーゼンS坐薬	個	61
ZENTEL	30ml	3	硫酸亜鉛カプセル	100mg/Cap	1,651
アクネローション	50ml	28	10%硫酸亜鉛散	100mg/包	941

年間製剤総数量

滅菌、無菌を要する製剤

注 射 剤	0.40	そ の 他	2210
点 眼 薬・点鼻薬等	329本		

滅菌を要しない製剤

内・外用液剤	1,6880	軟 膏 剤	51.9kg
坐薬	61個		
カ プ セ ル 剤	1651個	内用散剤	941包

16 放射線科業務状況

今年度は平成3年導入のX線透視装置と、骨塩定量装置が更新されました。4年前に多軌道型のX線透視装置が更新され、今回の透視装置の更新で、2台のX線IVがF P D (平面検出器) (フラットパネルディテクタ) となり透視検査に於いても診断能力が高い高画質な画像の提供が可能になりました。また、骨塩定量検査は、腰椎正面と股関節の2部位計測に変更し、数値の信頼性を高めると共に、検査時間が短縮され、被検査者の負担が軽減されました。

X線業務では、回診撮影が減少し、X線単純撮影全体も3%程度減少しています。放射線診断科全般の業務も5%程度の減少を示しています。

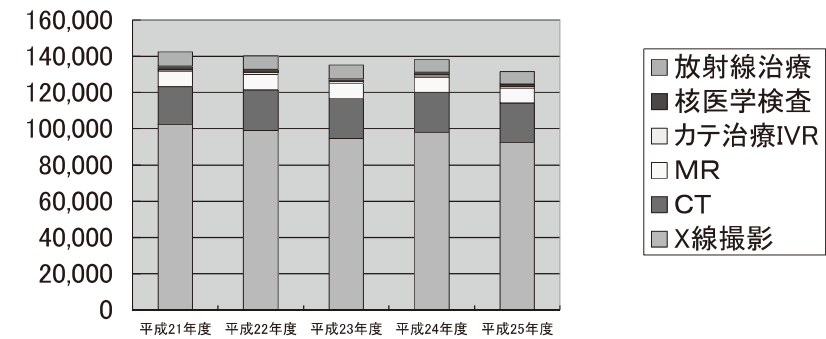
放射線治療は、小線源治療が平成25年12月を以て終了となりました。今後の高齢者社会を踏まえ、2台目の外照射高精度治療装置の導入が望まれます。

今後の課題として、PET-CTや3テスラMR、320列マルチスライスCT等の最新医療機器や、救命救急用“カテ治療IVR”装置導入が検討されます。

放射線診断科・治療科 患者数比較表 年度推移

部 門	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	件数	前年度比
X線撮影	102,302	99,120	94,671	98,133	92,483	0.94	163,093	0.97
C T	20,998	22,253	21,952	21,952	21,432	0.98	21,787	0.97
M R	8,570	8,664	8,474	8,537	8,228	0.96	12,590	
カテ治療IVR	966	1,094	1,116	1,135	1,063	0.94	1,063	0.94
核医学検査	1,648	1,530	1,380	1,421	1,150	0.81	1,150	0.81
放射線治療	8,003	9,600	7,659	6,977	6,857	0.98	7,656	1.00
合 計	142,487	142,261	135,252	138,564	131,213	0.95	207,339	0.99

放射線科業務患者数年度別推移(人数)



(1) 撮影部門

検査種別	部位分類	区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
一般単純撮影	頭部・頸部系	単純	120	8	78	37	728	4	19	106	3
	胸部系	単純	25,313	312	2,038	8,282	328	2,792	1,260	186	333
	腹部系	単純	2,749	234	337	8,505	98	15	16		12
	椎体系	単純	872	22	35	96	142	17	16,265	6	14
	胸部系	単純	355	12	11	32	5		4,717	2	4
	骨盤系	単純	155	9	11	40	1		3,963	3	4
	上肢系	単純	1,585	10	153	36	10		11,061	16	3
	下肢系	単純	1,854	49	53	119	4		18,027	56	86
	歯科	単純									
	一般単純撮影集計		33,003	656	2,716	17,147	1,316	2,828	55,328	375	459
ボータブル	頭・頸部系(P)	単純	2				5				
	胸部系(P)	単純	5,393	147	993	1,917	195	426	110	11	25
	腹部系(P)	単純	492	46	21	1,240	21	41	14	9	1
	椎体系(P)	単純	27		2			2	12		
	胸部系(P)	単純	8						5		
	骨盤系(P)	単純	8	2		2			69		
	上肢系(P)	単純	11	7	50	4	2		11		
	下肢系(P)	単純	21	2	3	4			67		
	その他(P)	単純	1								
	ボータブル集計		5,963	204	1,069	3,167	223	469	288	20	26
手術室 ボータブル	頭部・頸部系(O)	単純					1				
	胸部系(O)	単純	16			226	3	64	8		
	躯幹系(O)	単純	12	5		5			640		
	腹部系(O)	単純	9	1		425	4	4			
		造影	1			24					
	椎体系(O)	単純							397		
	上肢系(O)	単純	3						475		
	下肢系(O)	単純	2	3		6			603		2
手術室ボータブル集計			43	9		686	8	68	2,123		2
乳房撮影		単純	2			1,616	1				
	一般造影撮影	造影	1			5					
	外科系	造影									
	泌尿器科系	造影			3	1					
一般造影撮影	婦人科系	造影									
	一般造影撮影集計		1		3	6					
透視検査	上部消化管	造影	325	8	9	156	11	16	4		3
	下部消化管	造影	13	1		24					
	消化管その他	造影	46			133					1
	肝・胆道・脾臓	造影	21			42					
	腎臓	造影	15			2					
	膀胱、尿道、その他	造影	4		1	2			1		
	婦人科	造影									
	脊椎、椎体	造影	1			1			125		
	整形外科その他	造影							36		
	小児科	造影			57						
	その他	造影	4			7	1				1
透視検査集計			429	9	67	367	12	16	166		5
透視下内視鏡	呼吸器系	単純	154			35	1				
	上部消化管系	単純	1			2					
	肝臓・胆嚢・膵臓系	造影	186			80					
透視下内視鏡集計			341			117	1				
骨塩定量集計			75		12	62	2		379	1	
結石破碎集計											
救急室 単純撮影	頭部・頸部系(ER)	単純	30		29		35		25	9	
	胸部系(ER)	単純	2,112	4	939	142	14		64		10
	腹部系(ER)	単純	1,309	2	355	202	4		8		2
	椎体系(ER)	単純	22		3	4	4		273		
	胸部系(ER)	単純	12	1	1		6		267	2	
	骨盤系(ER)	単純	12	2	2	2	1		109		
	上肢系(ER)	単純	4		1	8	4		738	6	
	下肢系(ER)	単純	24		14		8		890		4
救急室単純撮影集計			3,525	9	1,344	358	76		2,374	17	16
合 計			43,382	887	5,211	23,526	1,639	3,381	60,658	413	508

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	正常新生児科	体検	総件数	外来人数	入院人数	総人数
	1		234	1,832	2		36	2		3,210	2,072	348	2,420
923	1,346	38	635	139	72		163		2,132	46,292	22,085	8,756	30,841
2,806	121		18	1	6		12			14,930	3,924	4,128	8,052
8	14	2	68	3	5		53	2		17,624	5,263	398	5,661
11	3			8			77			5,237	2,209	180	2,389
	79		1	8	4		48			4,326	1,728	589	2,317
6	3		8		1		92	4		12,988	4,487	236	4,723
11	6	8	6		15	16	173	6		20,489	5,171	752	5,923
				1						1	1		1
3,765	1,573	48	970	1,992	105	16	654	14	2,132	125,097	46,940	15,387	62,327
				4			5			16		10	10
90	129		20	17			774	9		10,256	87	10,163	10,250
64	8		9				84			2,050	3	2,043	2,046
	2						6			51		25	25
							8			21		17	17
2	1			1			16			101	1	87	88
							11			96		51	51
1	4						23	3		128	1	69	70
				1						2		2	2
157	144		29	23			927	12		12,721	92	12,467	12,559
				10						11		6	6
19	4		10				2			352	2	350	352
							21			683		471	471
74	506		4				1			1,028	4	1,023	1,027
64										89		89	89
							2			399		261	261
							25			503	16	236	252
							44			660	2	327	329
157	510		14	10			95			3,725	24	2,763	2,787
2	4				2				975	2,602	1,319	9	1,328
										6		5	5
30	1				1					36	33	3	36
	13									13	10	3	13
30	14				1					55	43	11	54
			6	1	1	24	36		110	710	157	553	710
										38	26	12	38
5	6						2			193	12	181	193
										63		63	63
126	4						10			157	61	55	116
43							1			52	7	45	52
	37									37	37		37
										127	56	58	114
										48	35	11	46
							12			57	41	16	57
							2			15	4	11	15
174	47		6	1	1	24	63		110	1,497	436	1,005	1,441
										190	31	159	190
										3		3	3
										266	49	217	266
										459	80	379	459
1	63								30	625	558	19	577
79										79		79	79
				10			122			260	141		141
4	33		11	1	1		3,871			7,206	6,355	103	6,458
9	23						602			2,516	1,617	24	1,641
4			2				423			735	325	3	328
							436			725	343	2	345
	4						582			714	528	4	532
							930			1,691	644	4	648
							1,446			2,386	777	2	779
17	60		23	1	1		8,412			16,233	10,730	142	10,872
4,382	2,415	48	1,042	2,027	110	40	10,151	26	3,247	163,093	60,222	32,261	92,483

(2)CT部門

CT		内科	精神科	小児科	外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
頭部系	単純	1,148	109	55	70	1,808	23	12	19	1	6	3
	造影	9		1	7	28					3	
	単純＋造影	26			13	2	2	1		7	1	
頸部系	単純	9		3				1	3	1		
	造影	8		2	1					2		
	単純＋造影	12			2					1		
胸部系	単純	1,931	3	6	641	2	80	14	3	13	190	44
	造影	852		8	1,476	10	20	9	3	23	261	320
	単純＋造影	192			697	3	3	2		4	97	21
腹部系	単純	274	3	4	76	3		3		1	201	2
	造影	123		7	180	1		1		1	67	15
	単純＋造影	667	3	1	184	2		2			195	10
骨盤系	単純	2			1			97	1		1	
	造影	2			1							5
	単純＋造影	1			4					1		2
脊椎系	単純	6			3	2		228			2	
	造影	4	2					387	3	1		
	単純＋造影	1			1							
血管系	単純	101	12		376	26	48	17		2		9
	造影	143	2		47	224	22	1				
	単純＋造影	3,374	117	68	791	1,815	103	742	29	17	400	49
小計	造影	1,099	12	18	2,041	65	68	27	3	31	331	349
	単純＋造影	1,042	5	1	948	231	27	6		12	294	33
合 計		5,515	134	87	3,780	2,111	198	775	32	60	1,025	431

救急室CT		内科	精神科	小児科	外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
頭部系	単純	541	4	96	16	66	4	11	3		1	2
	造影	3				1						
	単純＋造影	2				2						
胸部系	単純	165		1	7			5				
	造影	23			4			2		1		
	単純＋造影	10										
腹部系	単純	126		2	9			7		1	1	
	造影	19		8	7						1	
	単純＋造影	301	1	11	30			1			2	2
骨盤系	単純											
	造影							1				
	単純＋造影										1	
四肢系	単純	1						16		1		
	造影	3			8							
	単純＋造影	12			3		1					
血管系	単純	37	1		3							3
	造影	3			1			1				
	単純＋造影	28			16							1
小計	単純	870	5	99	35	66	4	40	3	2	3	5
	造影	51		8	20	1		3		1	1	
	単純＋造影	353	1	11	49	2	1	1			2	3
合 計		1,274	6	118	104	69	5	44	3	3	6	8

CT＋救急室CT		内科	精神科	小児科	外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
合 計		6,789	140	205	3,884	2,180	203	819	35	63	1,031	439

(3)MR部門

		内科	精神科	小児科	外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
頭部系	単純	3,645	416	308	49	1,573	38	29	2	6	8	5
	造影	440	5	8	48	461				2		2
	単純＋造影	4		6		2		5	10	1		
顔面頸部	単純	1						1	2	1		
	造影	12			15	1	2	5	2	7		
	単純＋造影	9			273					1		1
腹部系	単純	286	1	2	144					3	19	2
	造影	164			64					1	14	1
	単純＋造影	15	1	6	15			6	1	3	94	599
骨盤系	単純	3			11			5			40	166
	造影	12		1				379	3	1		
	単純＋造影	7						6				
上肢系	単純	38	1	2	6			500	5	3		
	造影	2		2	3			8		2		
	単純＋造影	187		6	14	51		1,426	1	1	3	
下肢系	単純	18		1		13		24				
	造影	18			58	5	2	7	2	7		
	単純＋造影	4			4			2				1
合 計		4,865	424	342	704	2,106	42	2,403	28	39	178	777

眼科	耳鼻咽喉科	歯科	口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	正常新生児	体検	総件数	合計	外来人数	入院人数	総人数	合計
16	271		587	19	1	155			4,303	4,437	2,747	1,256	4,003	4,135
	5		17						70		37	32	69	
	4		8						64		37	26	63	
	31		11						59	292	51	7	58	289
	82		78	1					174		155	18	173	
	34		10						59		51	7	58	
1	19		58	91		12		5	3,113	7,266	2,595	517	3,112	7,265
	90		6	12		3			3,093		2,772	321	3,093	
1	12			16		12			1,060		897	163	1,060	
				25		10			602	2,094	443	159	602	2,093
	1			1		10			407		312	95	407	
				4		17			1,085		914	170	1,084	
				2		3			107	125	67	35	102	120
						9			9		6	3	9	
						1			9		7	2	9	
				2		1			244	244	158	85	243	243
				1		18			416		306	80	386	
									6		1	4	5	
						2			2	424	1	1	2	393
				2		5			598		414	182	596	
	1			1		3			444		380	60	440	
17	321		656	140	1	199		5	8,844	15,924	6,367	2,139	8,506	15,574
	178		101	16		18			4,357		3,697	655	4,352	
1	51		18	21		33			2,723		2,287	429	2,716	
18	550		775	177	1	250		5	15,924	15,924	12,351	3,223	15,574	15,574

眼科	耳鼻咽喉科	歯科	口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	正常新生児	体検	総件数	合計	外来人数	入院人数	総人数	合計
5	12		1	2		2,307			3,071	3,126	2,954	116	3,070	3,125
						8			12		12			
1						38			43		42	1	43	
	1					368			547	645	524	23	547	644
						45			75		64	10	74	
						13			23		19	4	23	
						325			471	1,169	452	19	471	1,169
						25			60		56	4	60	
				1		289			638		612	26	638	
						1			1	1	1		1	1
						30			32	32	31	1	32	32
						62			80	80	74	3	77	77
						6			17	99	9	8	17	99
						66			82		78	4	82	
						377			421		411	10	421	
						24			29	711	27	2	29	711
						216			261		249	12	261	
5	13		1	2	0	3,470			4,623	5,863	4,447	172	4,619	5,858
						108			193		168	24	192	
1				1		622			1,047		1,000	470	1,047	
6	13		1	3		4,200			5,863	5,863	5,615	243	5,858	5,858

眼科	耳鼻咽喉科	歯科	口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	正常新生児	体検	総件数	合計	外来人数	入院人数	総人数	合計
24	563		776	180	1	4,450		5	21,787	21,787	17,966	3,466	21,432	21,432

眼科	耳鼻咽喉科	歯科	口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	正常新生児	体検	総件数	合計	外来人数	入院人数	総人数	合計
13	137		2	80	10	165			6,486	7,469	2,286	701	2,987	3,813
	10			3		4			983		676	150	826	
5	26		9						68	131	56	8	64	124
6	26		26						63		56	4	60	
				1					45	341	37	4	41	204
				10				2	296		161	2	163	
				7					464	708	328	59	387	561
									244		159	15	174	
									766	993	733	33	766	984
				26							205	13	218	
				1		1			227	441	412	11	423	436
				32					428		13		13	
									13	581	486	45	531	547
				8		1			564		13	3	16	
									17	1,814	1,259	144	1,403	1,453
						32			1,758		32	18	50	
									56	112	90	5	95	106
				2					101		9	2	11	
									11					
24	199		37	207	10	203		2	12,590	12,590	7,011	1,217	8,228	8,228

(4) 核医学部門

検査種別	部位分類	内科	精神科	小児科	外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
核医学	脳	50	57	3		79						
	甲状腺	10		6								
	副甲状腺	5										
	副腎	8			1						7	
	肺	6			3							
	循環器	73	10		16	1	6				1	
	唾液腺	7										
	消化管	4		3								
	腎			6							6	
	骨	282			183	7		5	2	1	95	1
	腫瘍	42		4		1						
	リンパ				74							
合 計		487	67	22	277	88	6	5	2	1	109	1

(5)カテーテル治療・IVR部門

		内 科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	放射線科	その他	合計
心臓系	心カテ	339						339
	PCI	222						222
	経皮的心筋焼灼術							
	ペースメーカー	4		36				40
	その他	2		5				7
	心臓系 小 計	567		41				608
頭頸部 一般血管	脳血管診断				45			45
	脳血管IVR				37			37
	頭頸部血管 小 計				82			82
	胸・腹部診断					10		10
	四肢・血管系診断		11			9		20
	一般血管診断 小 計		11			19		30
	胸・腹部IVR		19			113		132
	四肢・血管系IVR		70			56		126
	一般血管IVR 小 計		89			169		258
	血管以外の検査・治療					56		56
	その他		15		11		3	29
合 計		567	115	41	93	244	3	1,063
単発撮影	静脈撮影(VG)		99					99

(6) 画像データ・フィルム画像の入出力件数

	入出力デバイス名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比
		件数	件数	件数	
入 力	フィルム	2,012	1,848	2,001	1.08
	CD(医事課)	1,758	2,867	2,537	0.88
	入力合計	3,770	4,715	4,538	0.96
出 力	フィルム	3,374	1,355	1,196	0.88
	CD-R	1,742	2,540	2,399	0.94
	DVD			129	
	出力合計	5,116	3,895	3,724	0.96
総合計		8,886	8,610	8,262	0.96

眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	正常新生児	体检	総件数	外来人数	入院人数	総人数
33			1		1			224	123	101	224
4								20	13	7	20
1								6	6		6
								16	16		16
								9	6	3	9
					1			108	84	24	108
2								9	9		9
								7		7	7
								12	10	2	12
3		8	26					613	537	76	613
5								52	32	20	52
								74		74	74
48		8	27		2			1,150	836	314	1,150

(7) 放射線治療部門

リニアック部位件数

部位	件数
脳	361
眼窩	17
副鼻腔	58
口腔・舌	1
頸部	1,227
その他	33
肺	514
食道	215
乳房	1,713
鎖骨部	424
腋窩・胸壁	136
その他	66
縦隔	224
腹部	162
その他	17
全骨盤	285
小骨盤	1,364
鼠径・臀・外陰部	
その他	139
上肢(軟部)	1
下肢(軟部)	15
その他	
頭部骨	13
胸部骨	10
腹部・骨盤部骨	129
脊椎	455
上肢骨	20
下肢骨	39
その他	
上肢関節	
下肢関節	12
全身	
リンパ節	6
その他	
合 計	7,656

リニアック特殊放射線治療件数

区 分	件数
強度変調放射線治療 (IMRT)	238
前立腺	862
画像誘導放射線治療 (IGRT)	1,297
脳定位放射線治療	88
肺定位放射線治療	48
合 計	2,533

治療計画CT件数

		外来	入院	合計
		単純	造影	
頭部	単純	12	28	40
	造影	3	23	26
頭部集計		15	51	66
頸部	単純	26	7	33
	造影	11	4	15
頸部集計		37	11	48
肺・縦隔	単純	41	21	62
	造影	5	3	8
肺・縦隔集計		46	24	70
乳房	単純	51		51
	造影			
乳房集計		51		51
上腹部	単純	3	1	4
	造影	4		4
上腹部集計		7	1	8
骨盤腔	単純	54	12	66
	造影	2		2
骨盤集計		56	12	68
股関節	単純	1	1	2
	造影			
股関節集計		1	1	2
頸椎	単純	3	3	6
	造影			
頸椎集計		3	3	6
胸椎	単純	8	6	14
	造影			
胸椎集計		8	6	14
腰椎	単純	1	8	9
	造影			
腰椎集計		1	8	9
上肢	単純		1	1
	造影			
上肢集計			1	1
下肢	単純	2	3	5
	造影			
下肢集計		2	3	5
小計	単純	202	91	293
	造影	25	30	55
合 計		227	121	348

小線源部位件数

部位	件数
脳	
眼窩	
副鼻腔	
口腔・舌	
頸部	
その他	
肺	
食道	
乳房	
鎖骨部	
腋窩・胸壁	
その他	
縦隔	
腹部	
その他	
全骨盤	
小骨盤	14
鼠径・臀・外陰部	
その他	
上肢(軟部)	
下肢(軟部)	
その他	
合 計	14

腔内用位置決め撮影件数

	外来	入院	合計
子宮頸部	7	2	9
その他	5		5
合 計	12	2	14

放射線治療管理料件数

区 分	件数
1門照射・対向2門照射	68
非対向2門・3門照射	110
4門照射以上	140
強度変調放射線治療 (IMRT)	35
放射線治療専任加算	284
合 計	637

(8) 使用造影剤

造影剤	規格	平成24年度	平成25年度	前年度比
オムニパーク300注シリンジ	80ml	827	935	1.13
	100ml	3,140	3,645	1.16
	150ml	200	160	0.80
イオパミロン注300シリンジ	50ml	183	180	0.98
	100ml	2,409	2,045	0.85
イオパミロン注370シリンジ	100ml	550	455	0.83
オイパロミン300注シリンジ	100ml	1,148	1,200	1.05
	20ml	12	30	2.50
イオパミロン注370	50ml	129	30	0.23
	100ml	803	614	0.76
	50ml	169	155	0.92
イオパミロン注300	100ml	144	133	0.92
	50ml	198	295	1.49
イオメロン300注	100ml	150	200	1.33
	50ml	267	50	0.19
バイステージ注370	100ml	397	450	1.13
	50ml		50	
オムニパーク140注	220ml	63	45	0.71
	10ml	167	178	1.07
オムニパーク300注	10ml	167	178	1.07
コンレイ注	20ml	456	900	1.97
ガストログラフィン	100ml	261	287	1.10
リビオドール480注	10ml	108	110	1.02
ネオダルムソル	400ml	18	30	1.67
バリテスターA240散	350g	316	150	0.47
EOB・ブリモビスト注シリンジ	10ml	144	140	0.97
オムニスキャンシリンジ	10ml	312	250	0.80
ホーステル	250ml	259	313	1.21
マグネビストシリンジ	15ml	1,172	1,115	0.95
リソビスト注	1.6ml	2	3	1.50

(9) 放射性医薬品

	平成24年度	平成25年度	前年度比
	入荷量 (MBq)	入荷量 (MBq)	
⁹⁹ Mo- ^{99m} Tc generator	133,037	19,758	0.15
^{99m} Tc-pertechnetate		20,720	
^{99m} Tc-HSA-D	740	3,700	5.00
^{99m} Tc-ECD	132,000	98,400	0.75
^{99m} Tc-MAG ₃	2,442	1,998	0.82
^{99m} Tc-MDP	535,760	453,620	0.84
^{99m} Tc-PMT	185		
^{99m} Tc-MIBI	2,220	2,220	1.00
^{99m} Tc-tetrofosmin		87,024	
^{99m} Tc-MAA		740	
²⁰¹ Tl-Cl	3,256	3,885	1.19
⁶⁷ Ga-citrate	7,030	5,661	0.81
¹²³ I-MIBG	6,771	5,106	0.75
¹²³ I-BMIPP	777	555	0.71
¹²³ I-capsule	11.1	55.5	5.00
¹³¹ I-adosterol		37	
¹¹¹ In-DTPA	1,702	1,406	0.83

(10) 宿日直状況

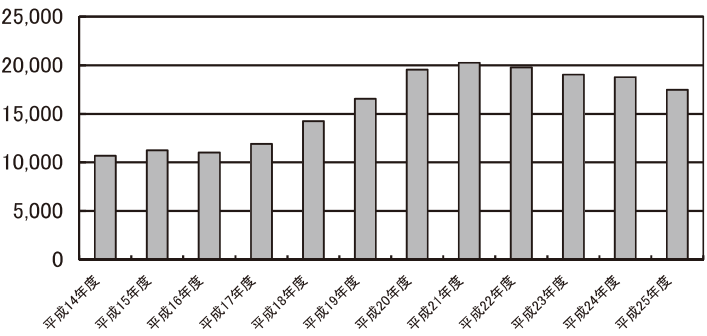
ア 月別宿日直患者数

日付	平成25年度(人)		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比
	宿直(人)(夜勤)	土日祝(人)(日勤)	合計(人)	合計(人)	合計(人)	合計(人)	
平成25年4月	965	469	1,657	1,602	1,571	1,434	0.91
5月	1,052	532	2,060	1,635	1,638	1,584	0.97
6月	1,003	493	1,537	1,381	1,554	1,496	0.96
7月	1,030	405	1,744	1,684	1,667	1,435	0.86
8月	1,002	428	1,477	1,465	1,623	1,430	0.88
9月	979	442	1,539	1,495	1,559	1,421	0.91
10月	905	397	1,716	1,568	1,499	1,302	0.87
11月	985	453	1,553	1,577	1,490	1,438	0.97
12月	969	647	1,793	1,797	1,646	1,616	0.98
平成26年1月	1,037	632	1,789	1,718	1,721	1,669	0.97
2月	901	418	1,466	1,520	1,361	1,319	0.97
3月	872	475	1,435	1,575	1,444	1,347	0.93
合計	11,700	5,791	19,766	19,017	18,773	17,491	0.93
月平均	975.0	482.6	1,647.2	1,584.8	1,564.4	1,457.6	0.93
一日平均	32.1	47.9	54.2	52.1	51.4	47.9	0.93

イ 宿日直業務内容別患者数

業務項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比
	合計(人)	合計(人)	合計(人)	合計(人)	合計(人)	
1)単純撮影	12,090	10,015	9,202	8,665	9,108	1.05
2)回診撮影	3,633	4,867	4,876	5,070	3,299	0.65
3)造影撮影	70	79	89	114	138	1.21
4)カテーテル治療 IVR	77	153	115	100	154	1.54
5)CT検査	4,385	4,652	4,735	4,824	4,785	0.99
合計	28,420	39,532	38,034	37,546	17,484	0.99

日当直年度別患者数推移



17 リハビリテーション科業務状況

2013年度リハビリテーション科業務実績

(単位：件)

日付	2013年4月			2013年5月			2013年6月			2013年7月			2013年8月			2013年9月			2013年10月		
月末施日数	21			21			20			22			22			19			22		
項目	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
理学療法合計	2,220	16	2,236	2,258	27	2,285	2,123	21	2,144	2,355	40	2,395	2,129	80	2,159	1,765	29	1,794	2,078	42	2,120
作業療法合計	834	178	1,010	813	212	1,025	1,010	220	1,230	1,137	171	1,308	1,233	184	1,397	1,041	191	1,232	1,130	263	1,393
言語聴覚療法合計	305	14	319	248	13	261	232	14	246	178	23	201	220	10	230	178	16	194	223	20	243
年間筋誘発電図実施人数																					
年間筋電図実施人数																					
年間嚥下造影実施人数																					
総合計	3,359	206	3,565	3,319	252	3,571	3,365	255	3,620	3,670	234	3,904	3,592	204	3,796	2,984	236	3,220	3,431	325	3,756
総合実施計画書			142			164			134			171			153			127			160

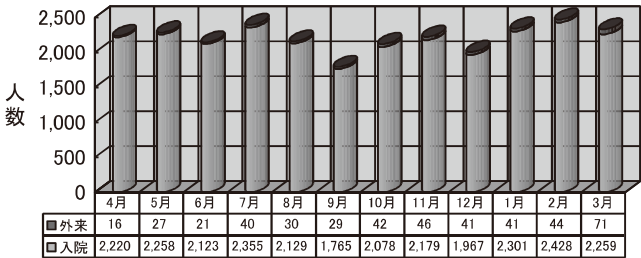
2013年11月			2013年12月			2014年1月			2014年2月			2014年3月			年間合計			月平均		
20			19			19			19			20			244			20.3		
入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
2,179	46	2,225	1,967	41	2,008	2,301	41	2,342	2,428	44	2,472	2,259	71	2,330	26,062	449	26,510	2,172	37	2,209
1,304	247	1,551	1,182	183	1,365	1,378	163	1,541	1,255	201	1,456	1,135	212	1,347	13,452	2,403	15,855	1,121	200	1,321
265	20	285	227	23	250	198	14	212	220	12	232	228	13	239	2,720	192	2,912	227	16	243
																642				54
																426				36
																499				42
3,748	313	4,061	3,376	247	3,623	3,877	218	4,095	3,903	257	4,160	3,620	286	3,916	42,234	3,043	45,277	3,520	254	3,773
		148			131			160			157			158			1,805			150

- * 1人のセラピストが、1日に受け持てる患者数は18～24名、かつ、1週間で108名と決められています。
- * 早期加算とは、発症から、脳血管・運動器・呼吸器に加算されます（厚生大臣が別に定めた患者が対象）。
- * 消炎鎮痛処置・介連牽引は、一般病床200床以上の病院では、外来診療科に包括されます。
- * 算定日数は、それぞれ脳血管180日、運動器150日、呼吸器90日となります。

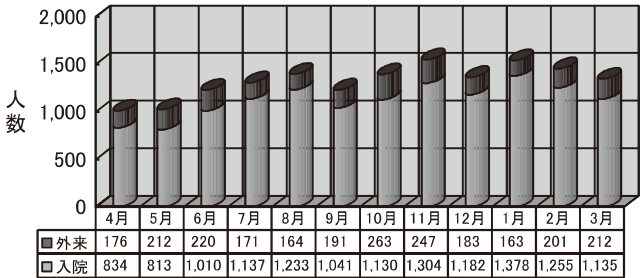
2013年度リハビリテーション科業務実績

	項目	人数(件数)
1	年間筋誘発電図実施人数	642
2	年間筋電図実施人数	426
3	年間嚥下造影実施人数	499
4	理学療法合計	26,510
5	作業療法合計	15,855
6	言語聴覚療法合計	2,912
7	総合計	45,277

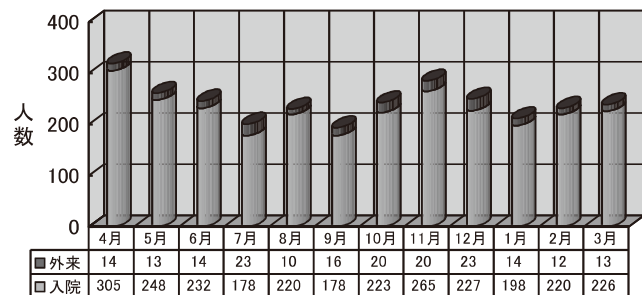
2013年度 理学療法 施行述べ患者数 推移



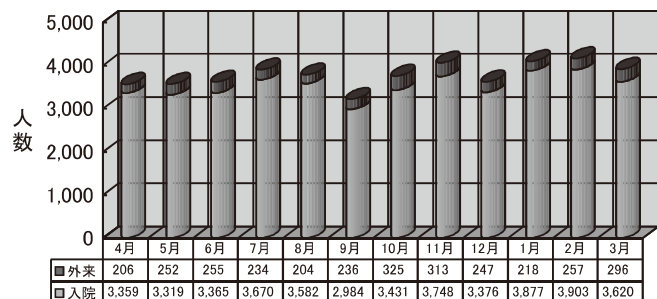
2013年度 作業療法 施行述べ患者数 推移



2013年度 言語聴覚療法 施行述べ患者数 推移



2013年度 リハビリテーション科 施行述べ患者数 推移



18 検査科業務状況

業務実績概要は資料に示したとおりです。全体では6%弱の減少となりました。

人事については、職員1名の中途退職、産休・育休3名と厳しい状況変化はありましたが、各部署の頑張りで乗り切ることができました。

特記すべきは、人材育成が順調に進んだことです。今年度も認定輸血検査技師1名、超音波検査士（消化器領域、循環器領域各1名）の資格取得の成果を挙げました。学術発表および神奈川県検査技師会の役員や研究班活動に意欲的に関わるなど成長は著しく、高い検査技術提供の基盤となっています。

病理部門では、免疫染色で診断精度の向上に貢献できました。生理部門は、術中モニタリングや最新の超音波技術で、さらに輸血の安全性や院内感染症対策など例年以上の活動成果、役割を果たすことができました。また、検体検査（SRL）は、アンケート調査で得られた臨床の要望に対応、万全なバックアップ体制の下、標準化と検査水準の強化を図ることができました。今後も胎児エコー・ポータブル心電図・糖尿病療養指導など充実した臨床支援の継続に努めます。

(1) 生理検査

項 目	平成24年度			平成25年度		
	外 来	入 院	総件数	外 来	入 院	総件数
心 電 図	17,350	1,879	19,229	16,771	2,070	18,841
C V R R	178	36	214	48	9	57
運 動 負 荷	254	6	260	174	9	183
起 立 負 荷	31	1	32	28	3	31
ホ ル タ ー	497	67	564	459	25	484
ト レ ッ ド ミ ル	257	12	269	154	6	160
負 荷 心 肺 機 能 検 査	3	8	11	5	3	8
A B I	1,483	151	1,634	1,281	164	1,445
S P P	11	9	20	2	6	8
T B I	23	1	24	21	0	21
一 般 肺 機 能 (S V C)	1,668	256	1,924	1,708	290	1,998
一 般 肺 機 能 (F V C)	1,668	256	1,924	1,708	290	1,998
機 能 的 残 気 量	108	19	127	96	8	104
肺 拡 散 能 力	108	19	127	96	8	104
C ・ ポ リ ュ ー ム	108	19	127	90	8	98
薬 剤 吸 入 試 験	11	12	23	5	3	8
筋 電 図	645	45	690	410	43	453
神 経 伝 導 検 査	2,118	414	2,532	1,619	381	2,000
脳 波	869	329	1,198	686	289	975
脳 波 (眠 剤 使 用)	66	38	104	72	40	112
A B R						
V E P	51	49	100	42	22	64
S E P						
心 エ コ ー	1,905	647	2,552	1,664	660	2,324
経 食 道 心 エ コ ー	1	1	2	1	0	1
腹 部 エ コ ー	4,148	637	4,785	3,560	671	4,231
体 表 エ コ ー	2,684	104	2,788	2,622	149	2,771
血 管 エ コ ー	381	299	680	294	269	563
エ コ ー 下 生 検 ・ 穿 刺	118	39	157	56	42	98
モ ニ タ リ ン グ	0	12	12	0	19	19
合 計	36,774	5,365	42,109	33,672	5,487	39,159

(2) 病理検査部門

ア 病理・細胞診検査

項 目	平 成 24 年 度			平 成 25 年 度		
	外来件数	入院件数	総件数	外来件数	入院件数	総件数
病 理 組 織 検 査	3,546	4,851	8,397	3,324	4,869	8,193
病 理 術 中 迅 速 検 査	3	198	201	5	250	255
免 疫 染 色	521	896	1,417	460	809	1,269
特 殊 染 色	111	399	510	104	323	427
電 子 顕 微 鏡 検 査	0	14	14	0	21	21
細 胞 診 検 査	10,352	1,240	11,592	10,474	1,230	11,704
細 胞 診 術 中 迅 速 検 査	1	41	42	0	27	27
病 理 解 剖	0	17	17	0	12	12
合 計	14,534	7,656	22,190	14,367	7,541	21,908

イ 剖検状況

科別剖検状況	平 成 24 年 度				平 成 25 年 度			
	実入院	死亡数	剖検数	剖検率	実入院	死亡数	剖検数	剖検率
内 科	4,748	330	13	3.94	4,325	331	7	2.11
神 経 科								
小 児 科	1,410	1			1,447			
外 科	1,733	102	2	1.96	1,903	87	2	2.30
脳 神 経 外 科	267	13	1	7.69	270	4		
整 形 外 科	1,264	3			1,151	4		
形 成 外 科	75				88			
心 臓 血 管 外 科	108	10			90	6		
皮 膚 科	184	1			203	3		
泌 尿 器 科	546	3			633	9	1	11.11
産科・婦人科（死産児）	2,542	1			2,376	2		
眼 科	63				173			
耳 鼻 咽 喉 科	454	12			408	4		
リハビリテーション科								
放 射 線 科	4				12			
歯 科 口 腔 外 科	87				95	3		
救命救急センター	622	135	1	0.74	701	133	2	1.50
感 染 内 科								
感 染 小 児 科								
精 神 科	319				342			
計	14,426	611	17	2.82	14,217	586	12	2.05

ウ 臨床支援業務

項 目	平 成 24 年 度			平 成 25 年 度		
	外来件数	入院件数	外来件数	外来件数	入院件数	総件数
産科エコー（胎児計測）	3,009		3,009	2,740		2,740

(3) 細菌検査

項目	年度	平 成 24 年 度			平 成 25 年 度		
		外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
塗 抹 鏡 検		3,015	4,713	7,728	3,009	3,865	6,874
培養 同定	口 腔 ・ 呼 吸 器	1,653	2,538	4,191	1,699	2,164	3,863
	消 化 器	321	937	1,258	375	936	1,311
	泌 尿 器 ・ 生 殖 器	1,630	974	2,604	1,657	917	2,574
	血 液 ・ 穿 刺 液	2,356	3,269	5,625	2,558	2,805	5,363
	そ の 他	1,562	1,548	3,110	1,448	1,186	2,634
嫌 気 性 培 養		3,265	5,349	8,614	3,533	4,503	8,036
薬剤 感受性	1 菌 種	2,149	1,878	4,027	2,043	1,636	3,679
	2 菌 種	395	689	1,084	445	518	963
	3 菌 種 以 上	133	247	380	122	217	339
大 腸 菌 抗 原		258	358	616	301	327	628
大腸菌ペロトキシン		1	3	4	2	1	3
肺 炎 球 菌 抗 原		0	2	2	0	3	3
ヘモフィルス抗原		0	2	2	0	3	3
カ ン ジ ダ		6	0	6	0	0	0
ト リ コ モ ナ ス		9	0	9	2	0	2
ク ラ ミ ジ ア		0	0	0	0	2	2
インフルエンザ		1,031	144	1,175	1,069	142	1,211
アデノウィルス		362	201	563	505	200	705
R S ウィルス		256	205	461	261	152	413
抗 酸 菌 塗 抹 至 急		143	529	672	113	406	519
合 計		18,545	23,586	42,131	19,142	19,983	39,125

*抗酸菌塗抹至急検査は、平成23年度より細菌検査で実施

(4) 血液センター

ア 検査件数

	平成 24 年 度			平成 25 年 度		
	外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
血液型ＡＢＯ式及びRh式	7,652	1,507	9,159	7,270	1,530	8,880
抗体スクリーニング 含む抗D i a 抗体検査	6,049	1,161	7,210	5,864	1,115	6,979
ＡＢＯ式亜型の同定	5	0	5	2	2	4
その他の血液検査	0	0	0	2	2	4
抗体価	7	5	12	5	4	9
交差試験	712	4,420	5,132	688	3,232	3,920
直接クームス	122	192	314	97	266	363
間接クームス	40	44	84	53	59	112
出血時間	7	3	10	4	3	7
合 計	14,594	7,332	21,926	13,985	6,213	20,198

イ 血液使用数量

			平 成 24 年 度				平 成 25 年 度			
製 剤			単 位	外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計	
自 己 血			1	0	3	3	0	26	26	
			2	0	261	261	0	199	199	
成 分	赤 血 球 剤	R C C - L R	2	0	16	16	0	0	0	
		院 内 照 射	1	0	13	13	0	5	5	
		R C C - L R	2	556	3,134	3,690	568	2,295	2,863	
		日 赤 照 射	1	0	0	0	0	4	4	
		R C C - L R	2	7	102	109	5	51	56	
		院内照射WRC-LR	2	0	1	1	0	0	0	
		合 計	1	0	13	13	0	9	9	
	新 鮮 凍 血 漿	F F P - L R	120ml	0	5	5	0	1	1	
			240ml	144	1,266	1,410	112	782	894	
			480ml				0	20	20	
	製 剤	濃 厚 血 小 板	FFP-LR-Ap	5	0	344	344	0	6	6
院 内 照 射			5	0	0	0	0	0	0	
			10	9	80	89	43	56	99	
			15	0	4	4	1	6	7	
			20	0	3	3	2	5	7	
日 赤 照 射			5	0	11	11	0	8	8	
			10	11	204	215	19	82	101	
			15	2	86	88	5	48	53	
			20	3	102	105	13	65	78	
院 内 照 射			10	0	5	5	0	9	9	
			15	0	2	2	0	0	0	
			20	0	2	2	0	0	0	
			日赤照射PC-HLA-LR	10	0	3	3	0	0	0

注：単位 1 は200mℓ由来、単位 2 は400mℓ由来

注：平成25年9月供給分よりFFP-LR-ApはFFP-LR480に変更

ウ 自己血貯血

	単位	平成 24 年 度			平成 25 年 度		
		外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
液 状 保 存	1	4	0	4	35	1	36
	2	357	5	362	339	5	344
合 計		361	5	366	374	6	380

*単位 1 は200mℓ、単位 2 は400mℓ

(5) 院内委託検査

検査項目	平成 24 年 度			平成 25 年 度		
	外 来	入 院	総件数	外 来	入 院	総件数
(尿 検 査)						
尿 定 性	58,143	11,238	69,381	53,233	10,663	63,896
尿 沈 渣	27,367	7,352	34,719	24,710	6,717	31,427
尿 定 量 検 査	4,360	11,047	15,407	4,858	8,739	13,597
髄 液 検 査	702	1,558	2,260	912	1,572	2,484
穿 刺 液 検 査	199	670	869	194	613	807
そ の 他	3,448	8	3,456	3,305	13	3,318
小 計	94,219	31,873	126,092	87,212	28,317	115,529
(血 液 検 査)						
血 算	90,872	50,241	141,113	83,426	47,621	131,083
血 液 像	45,107	25,937	71,044	42,872	24,680	67,552
網 状 赤 血 球	3,619	2,786	6,405	4,126	3,962	8,088
凝固関連検査	59,951	46,121	106,072	54,826	39,386	94,212
血 液 ガ ス	1,647	2,841	4,488	1,695	2,869	4,564
赤 沈	6,013	584	6,597	6,291	476	6,767
そ の 他	22	7	29	3	10	13
小 計	207,231	128,517	335,748	193,275	119,004	312,279
(血 清 検 査)						
感染症関連検査	48,431	4,137	52,568	46,945	4,053	50,998
薬物関連検査	3,985	1,143	5,128	3,216	893	4,109
腫瘍関連検査	26,229	1,751	27,980	25,283	1,535	26,818
そ の 他	19,062	2,732	21,794	16,338	3,463	19,801
小 計	97,707	9,763	107,470	91,782	9,944	101,726
(生化学検査)	1,478,582	734,451	2,213,033	1,452,259	755,939	2,208,198
合 計	1, 877, 739	904, 604	2, 782, 343	1, 824, 528	913, 204	2, 737, 732

(6) 院外外注検査

検 査 項 目	平成 24 年 度			平成 25 年 度		
	外 来	入 院	総件数	外 来	入 院	総件数
内 分 泌 学 的 検 査	10,256	2,182	12,438	8,991	2,591	11,582
腫 瘍 関 連 検 査	17,811	2,014	19,825	17,652	1,972	19,624
細 胞 性 免 疫 検 査	2,184	350	2,534	2,223	314	2,537
薬 物 検 査	899	424	1,323	1,172	349	1,521
生 化 学 的 検 査	7,459	2,405	9,864	7,742	2,280	10,022
免 疫 学 的 検 査	32,813	5,351	38,164	37,283	5,670	42,953
感染症・ウイルス検査	13,911	3,940	17,851	17,564	4,015	21,579
血 液 学 的 検 査	357	360	717	296	295	591
遺 伝 子 関 連 検 査	142	153	295	177	209	386
微 生 物 学 的 検 査	3,156	4,170	7,326	3,219	3,617	6,836
病 理 学 的 検 査	419	26	445	316	89	405
尿 検 査 ・ 他	2,566	555	3,121	2,826	506	3,332
合 計	91, 973	21, 930	113, 903	99, 461	21, 907	121, 368

(7) 宿日直検査

項 目	平成 24 年 度		平成 25 年 度	
	件 数	月 平 均	件 数	月 平 均
血 液 型 検 査	1,653	137.8	1,681	140.1
交 差 適 合 試 験	1,804	150.3	1,284	107.0
血 液 製 剤 払 い 出 し	1,352	112.7	942	78.5
心 電 図 検 査	4,401	366.8	4,450	382.5
合 計	9, 210	767. 5	8, 357	696. 4

19 給食業務状況

給食総数は病床数の変更により、平成24年度より21,089食の減少となりました。平成25年度も引き続き特別食の増加を目標に掲げ、医療スタッフ勉強会や特別食早見表の配布を行いました。また腎疾患用の濃厚流動食を特別食に分類しました。平成24年度より特別食比率は0.7%減少しました。小児アレルギー負荷試験食（10月開始）、嚥下調整食の見直しとやわらか食の提供（2月開始）など病態にあわせた食事の提供に努めています。

(1) 年度別給食状況

年 度	一 般 食				特別食	計	1 回 の 食 数	特別食 比率%
	常 食	軟 食	流動食	計				
平成21年度	238,919	92,344	55,350	386,613	125,950	512,563	468	24.6
平成22年度	227,780	109,532	66,935	404,247	123,823	528,070	482	23.4
平成23年度	205,478	106,162	62,067	373,707	117,241	490,948	447	23.9
平成24年度	198,266	88,293	61,874	348,433	136,209	484,642	443	28.1
平成25年度	190,869	86,117	59,635	336,621	126,932	463,553	423	27.4

(2) 食種別給食数

総 数	463,553 食	100 %		
一 般 食	336,621 食	72.6 %	— 常食	190,869 食 41.2 %
			— 軟食	48,910 食
			— 嚥下調整食	37,207 食
			— 流動食	4,639 食
			— 調乳	17,536 食
			— 濃厚流動食	37,460 食
特 別 食	126,932 食	27.4%	— 蛋白コントロール 食	46,171 食
			— 脂質コントロール 食	11,135 食
			— カロリーコントロール 食	54,350 食
			— 術後・潰瘍食	11,996 食
			— 注腸食	114 食
			— 濃厚流動食	3,166 食
な ご み 食	7,754 食	(常食として計上)		
フ リ ー オ ー ダ ー 食	1,072 食	(常食として計上)		
負 荷 試 験 食	70 食	(軟食として計上)		
検 食	4,380 食	(常食として計上)		

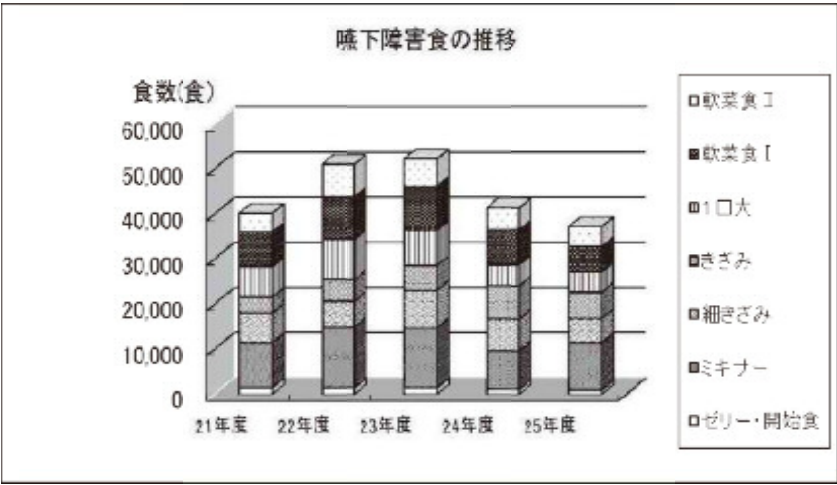
(3) 月別給食数（平成25年度）

月 別	一 般 食				特別食	計	1 回 の 食 数
	常 食	軟 食	流動食	計			
4 月	16,147	6,984	5,463	28,594	10,020	38,614	429
5 月	15,422	7,181	5,750	28,353	11,319	39,672	427
6 月	17,153	6,290	5,256	28,699	11,352	40,051	445
7 月	16,654	7,333	5,156	29,143	11,043	40,186	432
8 月	15,880	7,979	4,996	28,825	10,877	39,702	427
9 月	16,712	6,817	4,493	28,022	10,311	38,333	426
10 月	16,730	7,131	4,265	28,126	10,008	38,134	410
11 月	15,281	7,157	4,373	26,811	10,046	36,857	410
12 月	14,279	7,821	4,539	26,639	9,420	36,059	388
1 月	15,171	7,462	4,921	27,554	10,813	38,367	413
2 月	15,868	6,349	5,068	27,285	10,344	37,629	448
3 月	15,572	7,613	5,385	28,570	11,379	39,949	430
計	190,869	86,117	59,635	336,621	126,932	463,553	423

(4) 嚥下調整食数

「日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013」に合わせ2月より嚥下障害食を嚥下調整食に改めました。同時にミキサー食のボリュームを少なくする、一口大食ときざみ食をまとめ6段階としました。栄養サポートチームの早期介入により嚥下調整食をステップに全粥軟菜食、全粥食、常食などに移行し、平成24年度に引き続き更に嚥下調整食は減少しています。

年 度	ゼリー開始食	ミキサー	細きざみ	きざみ	1 口大	軟菜食Ⅰ	軟菜食Ⅱ	計
平成21年度	1,444	10,006	6,531	3,569	6,707	7,693	4,221	40,171
平成22年度	1,451	13,447	5,695	4,837	8,959	9,401	7,204	50,994
平成23年度	1,392	13,373	8,263	5,470	7,935	9,656	6,129	52,218
平成24年度	1,095	8,531	7,072	7,301	4,711	7,742	4,923	41,375
平成25年度	913	10,525	5,340	5,869	4,486	5,637	4,437	37,207



20 栄養指導・NST業務状況

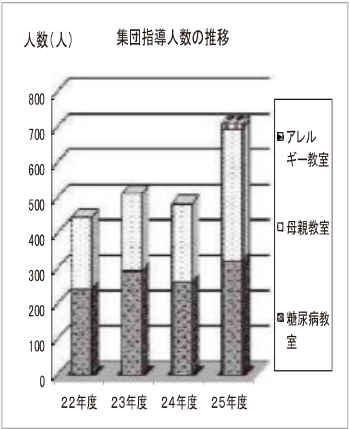
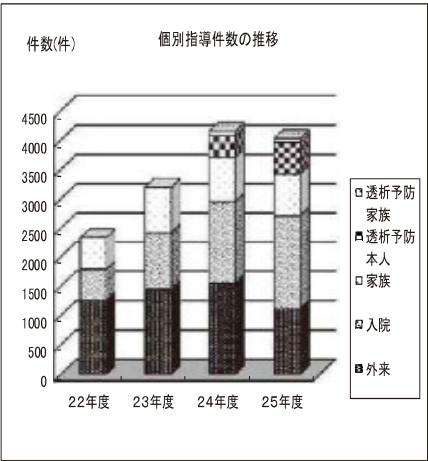
(1) 栄養指導状況

個別指導は外来件数が減少しましたが、栄養指導に繋げる電子カルテシステムの変更の取り組みや病棟担当栄養士が医師へ働きかけを行った結果、入院患者への指導件数が増加したため昨年並みとなりました。集団指導は糖尿病教室、母親教室の参加者が大幅に増加しました。11月より小児科のアレルギー教室で栄養指導を開始しました。糖尿病透析予防指導は合併症予防のために医師、看護師、管理栄養士によるチームが早期からの介入指導を行っています。平成23年より開始、月～金曜日予約制で毎日実施しています。

		個 別 指 導			集 団 指 導								
		個別指導	透析予防指導	糖尿病教室		母親教室	アレルギー教室	イベント					
				基礎	応用								
回数	総数	2,718	537	11	11	12	17	4					
	月平均	226.5	44.8	0.9	0.9	1	(11月～開始)						
指導人数	総数	3,429	600	173	149	372	17	174					
	月平均	285.8	50	14.4	12.4	31							
内 訳	総数	外来	1,116	外来	537	外来	41	48	外来	372	外来	17	5月看護の日 14名
		入院	1,602			入院	92	82					
		家族他	711	家族	63	家族他	40	19		(家族)	17		
	月平均	外 来	93		44.8	外 来	3.4	4.0	外 来	31			8・10・3月 糖尿病 公開講座
		入院	133.5			入院	7.7	6.8					
		家族他	59.3		5.3	家族他	3.3	1.6					
時間	総時間	1,359	268.5	11.0	11.0	12.0		160名					
	1回	30分	30分	1時間	1時間	1時間							

個別栄養指導(内訳) (件)

糖尿病	腎臓病	糖尿病腎症	脂質異常症	高血圧	心臓病	肝臓病	胃潰瘍	その他	計
1,109	175	537	232	181	526	85	156	254	3,255



(2) NST回診状況

NST（栄養サポートチーム）は食事だけでなく、経管栄養、静脈栄養など総合的かつ専門的な栄養管理を目指し、医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、言語聴覚士など、多職種が連携して活動を行っています。平成22年の診療報酬改訂にて、栄養サポートチーム加算（200点／週／人）が新設され、平成23年3月より施設基準を満たし算定を行なっています。平成25年度は回診人数は2,636人と若干減少しましたが、算定件数は2,267件から2,341件へ増加しました。（算定率82.5%→88.8%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間(人)
平成21年度	29	76	70	53	140	65	47	54	35	21	43	47	680
平成22年度	77	80	60	35	68	39	43	81	89	71	92	74	809
平成23年度	146	165	288	221	254	320	275	295	197	245	307	239	2952
平成24年度	256	212	218	225	300	207	278	217	213	198	214	207	2745
平成25年度	256	191	200	288	197	218	188	212	215	204	215	252	2636

※回診回数：平成22年度週1回、平成23年度週4回、平成24年度より週3回

介入状況

NST発足当時は、経腸栄養開始に伴う下痢の相談が多く寄せられ、ポンプの使用や経腸栄養剤の内容等についての対応を行っていましたが、徐々に食種や補助食、嚥下評価などの相談が増加しました。昨年度は輸液内容やRefeeding症候群などについての介入も増加しています。平成25年度はより効率の良い回診を目指し、NSTとしてのゴールを設定し活動を行った結果、改善終了者が増加しました。

	ポンプ使用	経管栄養 (下痢含む)	褥瘡	嚥下障害	食種・補助食	輸液	その他	合計(人)
平成21年度	47 (44.3%)	40 (37.7%)	4 (3.8%)				15 (14.2%)	106
平成22年度	16 (10.7%)	35 (23.3%)	6 (4.0%)				93 (62.0%)	150
平成23年度	7 (1.3%)	72 (13.6%)	13 (2.4%)	304 (57.3%)	125 (23.5%)		12 (2.3%)	533
平成24年度	0	94 (14.6%)	12 (1.9%)	318 (49.5%)	205 (31.9%)		13 (2.0%)	642
平成25年度	0	65 (10.5%)	8 (1.3%)	316 (51.3%)	166 (26.9%)	10 (1.6%)	52 (8.4%)	617

	退院	転院	改善	不変	死亡	悪化 (ターミナルなど)	合計(人)
平成21年度	48 (43.6%)		24 (21.8%)	3 (2.7%)	28 (25.5%)	7 (6.4%)	110
平成22年度	58 (41.4%)		48 (34.2%)	5 (3.6%)	28 (20.0%)	1 (0.7%)	140
平成23年度	203 (40.0%)	117 (23.1%)	104 (20.5%)	6 (1.2%)	63 (12.4%)	14 (2.8%)	507
平成24年度	258 (39.9%)	95 (14.7%)	173 (26.8%)	7 (1.1%)	65 (10.1%)	48 (7.1%)	646
平成25年度	206 (32.4%)	104 (16.3%)	225 (35.3%)	7 (1.1%)	56 (8.8%)	39 (6.1%)	637

入院期間と介入期間

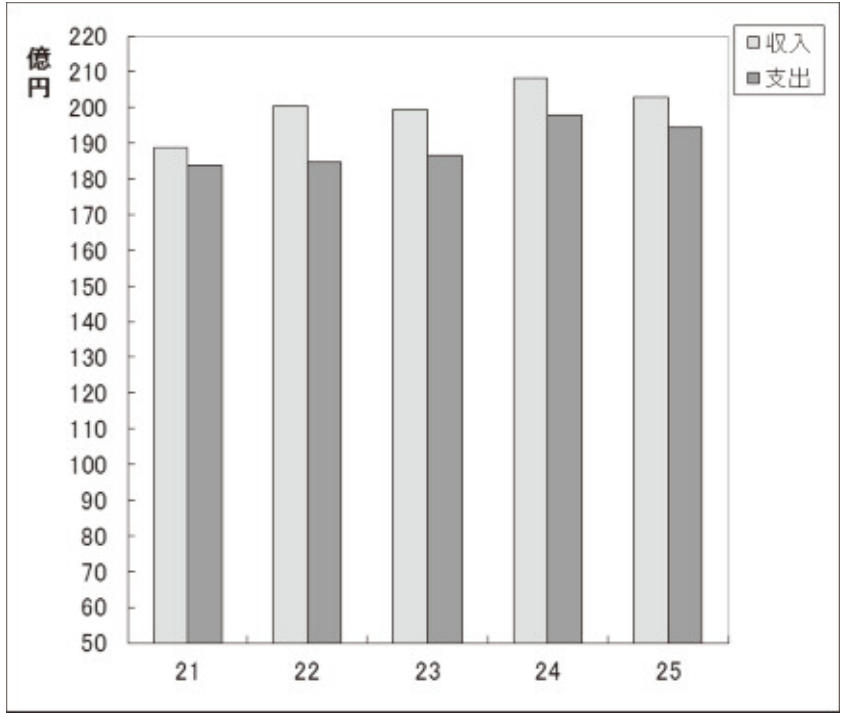
病院全体として入院期間短縮に取り組む中で、NST介入者の入院期間と介入期間は下記のとおりです。介入者の高齢化が進むなかで入院期間、介入期間の短縮を目指しています。平成25年度は入院期間の短縮はできなかったものの介入期間が短縮し、効率の良い介入ができました。

中央値	年齢(歳)	入院期間(日)	介入期間(日)
平成22年度	74.5	64.0	22.0
平成23年度	75.0	45.0	24.0
平成24年度	76.0	44.0	20.0
平成25年度	76.0	44.0	18.0

IV 経 理 概 要

1 年度別経営収支状況 (単位：千円)

年 度	収 入		支 出		損 益
	決 算 額	指 数	決 算 額	指 数	
21	18,891,869	100	18,362,445	100	529,424
22	20,036,247	106	18,455,868	101	1,580,379
23	19,950,349	106	18,655,377	102	1,294,972
24	20,808,593	110	19,794,924	108	1,013,668
25 (見込)	20,290,579	107	19,432,171	106	858,408



2 収入・支出状況

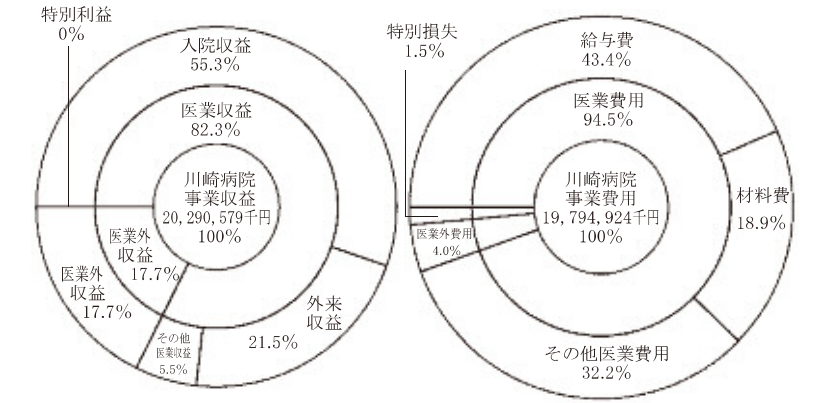
(1) 収益的収入及び支出

収 入 (単位：千円)

科 目	平 成 24 年 度		平 成 25 年 度	
	決算額	構成比率 (%)	決算見込額	構成比率 (%)
川崎病院事業収益	20,808,593	100.0	20,290,579	100.0
医 業 収 益	17,241,774	82.9	16,707,035	82.3
入 院 収 益	11,613,252	55.8	11,224,555	55.3
外 来 収 益	4,369,959	21.0	4,358,608	21.5
そ の 他	1,258,563	6.0	1,123,872	5.5
医 業 外 収 益	3,564,233	17.1	3,582,493	17.7
他 会 計 補 助 金	1,392,661	6.7	1,359,096	6.7
補 助 金	58,659	0.3	44,620	0.2
負 担 金 交 付 金	1,874,342	9.0	1,909,978	9.4
そ の 他	237,393	1.1	267,781	1.3
特 別 利 益	2,586	0.0	1,051	0.0

支 出 (単位：千円)

科 目	平 成 24 年 度		平 成 25 年 度	
	決算額	構成比率 (%)	決算見込額	構成比率 (%)
川崎病院事業費用	19,794,924	100.0	19,432,171	100.0
医 業 費 用	18,782,352	94.9	18,363,711	94.5
給 与 費	8,739,063	44.1	8,441,610	43.4
材 料 費	3,835,290	19.4	3,673,358	18.9
経 費	4,034,803	20.4	4,040,977	20.8
減 価 償 却 費	2,124,077	10.7	2,089,515	10.8
資 産 減 耗 費	3,400	0.0	61,040	0.3
研 究 研 修 費	45,719	0.2	57,211	0.3
医 業 外 費 用	815,238	4.1	778,833	4.0
特 別 損 失	197,334	1.0	289,627	1.5



(2) 資本の収入及び支出

収 入 (単位：千円)				
科 目	平 成 24 年 度		平 成 25 年 度	
	決算額	構成比率 (%)	決算見込額	構成比率 (%)
川崎病院事業資本の収入	278,636	100.0	314,467	100.0
企 業 債	278,000	99.8	305,000	97.0
出 資 金	0	0.0	0	0.0
固定資産売却代金	9	0.0	0	0.0
補 助 金	627	0.2	9,069	2.9
負 担 金	0	0.0	398	0.1

支 出 (単位：千円)

科 目	平 成 24 年 度		平 成 25 年 度	
	決算額	構成比率 (%)	決算見込額	構成比率 (%)
川崎病院事業資本の支出	2,623,334	100.0	2,594,497	100.0
建 設 改 良 費	498,315	19.0	539,834	20.8
企 業 債 償 還 金	2,125,019	81.0	2,054,663	79.2
長期借入金償還金	0	0.0	0	0.0

3 年度別一般会計繰入金及び出資金

(単位：千円)

種 別 \ 年 度	22	23	24	25 (見込)
収 益 的 収 入 他会計負担金、他会計補助金、 負担金交付金	4,048,161	4,036,732	4,173,146	4,077,339
資 本 的 収 入 (出 資 金)	0	0	0	0

4 比較貸借対照表

(単位：千円)

科 目	平成24年度 決算額	平成25年度 決算見込額	増 減	前年度比 (%)	構成比率 (%)	
					平 成 24年度	平 成 25年度
固定資産	20,582,608	18,969,559	△ 1,613,049	92.2	71.2	68.4
有形固定資産	20,579,953	18,969,210	△ 1,610,743	92.2	71.2	68.4
土地	426,224	426,224	0	100.0	1.5	1.5
建物	17,452,863	16,273,335	△ 1,179,528	93.2	60.3	58.7
構築物	238,756	187,605	△ 51,151	78.6	0.8	0.7
器械備品	2,421,859	2,042,711	△ 379,148	84.3	8.4	7.4
車両	362	1851	1,489	511.3	0.0	0.0
放射線同位元素	0	0	0	—	0.0	0.0
その他	37,054	35,646	△ 1,408	96.2	0.1	0.1
建設仮勘定	2,835	1,838	△ 997	64.8	0.0	0.0
無形固定資産	2,655	349	△ 2,306	13.1	0.0	0.0
施設利用権	2,655	349	△ 2,306	13.1	0.0	0.0
流動資産	8,341,315	8,775,483	434,168	105.2	28.8	31.6
現金預金	5,302,275	5,879,169	576,894	110.9	18.3	21.2
未収金	2,924,194	2,798,000	△ 126,194	95.7	10.1	10.1
貯蔵品	109,946	93,414	△ 16,532	85.0	0.4	0.3
前払費用	0	0	0	—	0.0	0.0
その他	4,900	4,900	0	100.0	0.0	0.0
資産合計	28,923,923	27,745,042	△ 1,178,881	95.9	100.0	100.0

(単位：千円)

科 目	平成24年度 決算額	平成25年度 決算見込額	増 減	前年度比 (%)	構成比率 (%)	
					平 成 24年度	平 成 25年度
固定負債	0	0	0	0.0	0.0	0.0
他会計借入金	0	0	0	0.0	0.0	0.0
流動負債	3,297,671	3,117,016	△ 180,655	94.5	9.9	9.7
一時借入金	0	0	0	0.0	0.0	0.0
未払金	2,542,909	2,730,076	187,167	107.4	7.6	8.5
未払費用	652,565	281,146	△ 371,419	43.1	2.0	0.9
その他	102,197	105,794	3,597	103.5	0.3	0.3
負債合計	3,297,671	3,117,016	△ 180,655	94.5	9.9	9.7
資本金	34,907,379	33,157,716	△ 1,749,663	95.0	104.7	102.7
自己資本	8,750,047	8,750,047	0	100.0	26.2	27.1
借入資本	26,157,332	24,407,669	△ 1,749,663	93.3	78.4	75.6
企業債	26,157,332	24,407,669	△ 1,749,663	93.3	78.4	75.6
剰余金	△ 4,854,024	△ 3,984,989	869,035	82.1	△ 14.6	△ 12.3
資本剰余金	454,366	464,994	10,628	102.3	1.4	1.4
受贈財産評価額	39,274	40,718	1,444	103.7	0.1	0.1
補助金	409,401	418,187	8,786	102.1	1.2	1.3
負担金	5,691	6,089	398	107.0	0.0	0.0
欠損金	5,308,390	4,449,983	△ 858,407	83.8	△ 15.9	△ 13.8
当年度未処理決算金	5,308,390	4,449,983	△ 858,407	83.8	△ 15.9	△ 13.8
資本合計	30,053,355	29,172,727	△ 880,628	97.1	90.1	90.3
負債・資本合計	33,351,026	32,289,743	△ 1,061,283	96.8	100.0	100.0

※ 各表の数値については、端数処理の関係から合計値が一致しない場合があります。

5 主な経営分析

項 目	平成24年度	平成25年度 (見込)
(1) 病床利用率 (%)		
一 般 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	79.7	76.5
精 神 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	76.2	68.9
感 染 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	0.0	0.0
(2) 一日平均患者数 (人)		
入 院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診療日数}}$	563.1	533.6
外 来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診療日数}}$	1,739.7	1643.6
(3) 外来入院患者比率 (%) = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	207.4	205.9
(4) 職員1人当たり患者数 (人)		
医 師 $\left\{ \begin{array}{l} \text{入 院} = \frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延医師数}} \\ \text{外 来} = \frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延医師数}} \end{array} \right.$	4.4 13.7	4.3 13.3
看護部門 $\left\{ \begin{array}{l} \text{入 院} = \frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延看護部門職員数}} \\ \text{外 来} = \frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延看護部門職員数}} \end{array} \right.$	1.0 3.1	1.0 2.9
(5) 患者1人1日当たり診療収入 (円)		
入 院 = $\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$	56,501	57,635
外 来 = $\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$	10,252	10,868
(6) 患者1人1日 当たり薬品費 (円) = $\frac{\text{薬品費 (投薬・注射)}}{\text{年延患者総数}}$	2,043	2,224
(7) 入院患者1人1日当たり給食材料費 (円)		
= $\frac{\text{給食材料費}}{\text{年延入院患者数}}$	537	550

項 目	平成24年度	平成25年度 (見込)
(8) 薬品使用効率 (%) = $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{薬品費}} \times 100$	60.9	65.4
(9) 診療収入に対する割合 (%)		
投薬注射収入 $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	8.1	8.5
検 査 収 入 $\frac{\text{検査収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	8.2	8.3
放 射 線 収 入 $\frac{\text{放射線収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	4.8	4.7
(10) 医業収益に対する割合 (%)		
薬 品 費 $\frac{\text{薬品費}}{\text{医業収益}} \times 100$	12.3	12.1
診 療 材 料 費 $\frac{\text{診療材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	9.3	9.1
給 与 費 $\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	50.7	50.5

V 研究・研修及び実習・講師派遣

1 診療関係研究

C.P.C開催内容

	開催番号	年 月 日	剖検番号	症例事項名	主 治 医	病理担当
通 常 型	第364回 (合同第81回)	H25.6.19	S-1961	ANCA関連血管炎・腎炎	吉 岡 政 洋	清 水 與 一
	第365回	H25.7.17	A-5992	悪性リンパ腫 + de novo B型肝炎	井 上 典 子	北 川 雅 浩 杉 浦 仁
	第366回	H25.9.18	A-5986	膠芽腫 + 壊死性筋膜炎	片 山 真	尾 原 健 太 郎 杉 浦 仁
	第367回 (合同第82回)	H25.11.20	A-5996	関節リウマチ + 悪性リ ンパ腫	安 部 涼 平	西 村 瑤 子 杉 浦 仁
	第368回	H26.1.22	A-5874	尿管癌 + 精巣腫瘍	楠 芳 恵	入 江 理 恵

各診療科カンファレンス状況

各 科	検討会	抄読会	研究会	各カンファレンス内容
内 科	週 1 回	週 1 回	月 1 回	内科 (週 1 回) 循環器 (週 1 回) 内視鏡 (週 1 回) リウマチ (週 1 回) 腎臓 (週 1 回) 神経 (週 1 回) 呼吸器 (週 1 回) 総診 (週 1 回) 消化器 (週 1 回)
精 神 科	週 1 回			病棟カンファレンス (週 1 回)
小 児 科 新生児内科	週 1 回	週 1 回		神奈川県下10病院合同症例検討会 (年 1 回) 川崎市小児科医学会症例検討会 (年 2 回) 病棟回診 (週 2 回) カルテ回診 (週 1 回) 抄読会 (週 1 回) X線画像カンファレンス (週 1 回) 症例検討会 (月 2 回)
外 科	週 1 回	月 1 回		部長回診 (週 1 回) 術前・術後カンファレンス (各週 1 回) 消化器カンファレンス (隔週) 救急外科カンファレンス (不定期) 合併症カンファレンス (不定期)
脳神経外科	週 4 回	適宜		脳神経カンファレンス (週 1 回) カルテ回診 (週 1 回) 術前カンファレンス (週 1 回) 病棟カンファレンス (週 1 回)
整 形 外 科	週 1 回	月 2 回	年 2 回	X線画像カンファレンス (週 5 回) 入院患者カンファレンス (週 1 回) 全体カンファレンス (月 1 回)
形 成 外 科	週 1 回	月 1 回	年 2 回	術前カンファレンス (週 1 回) 抄読会(月 1 回) 同門会 (年 2 回)
心 臓 血 管 外 科	週 1 回			循環器合同 (週 1 回) 術前カンファレンス (週 1 回)
皮 膚 科	週 1 回	月 1 回		皮膚病理 (週 1 回)
泌 尿 器 科	週 2 回			術前カンファレンス (週 1 回) 病棟カンファレンス (週 1 回)
産 科 ・ 婦 人 科		週 1 回	年 2 回	ハイリスク症例検討 (週 1 回) 手術症例検討会 (週 1 回) 勉強会 (月 2 回) カルテ回診 (週 1 回) 放射線カンファレンス (月 1 回)
眼 科	週 1 回	月 1 回		術前カンファレンス (週 1 回)
耳 鼻 咽 喉 科	週 4 回	週 1 回		術前カンファレンス (週 1 回) 病棟カンファレンス (週 1 回) 癌治療カンファレンス (週 1 回) 耳鼻科・放射線合同カンファレンス (週 1 回) 抄読会(週 1 回)
放 射 線 診 断 科	月 1 回		月 1 回	放射線科画像カンファレンス (週 1 回) 消化器画像カンファレンス (月 2 回) 小児科画像カンファレンス (週 1 回) 産婦人科画像カンファレンス (月 1 回) 呼吸器画像カンファレンス (週 1 回) 脳神経カンファレンス (週 1 回)
放 射 線 治 療 科	週 1 回			耳鼻科・放射線治療科合同カンファレンス
麻 酔 科	毎日	月 2 回		術前カンファレンス (週 5 回) 症例検討会 (月 1 回)
リ ハ ビ リ テーション科	週 1 回	月 1 回		リハビリテーション下肢カンファレンス (月 2 回) リハビリテーション上肢カンファレンス (月 2 回) SCU部会 (月 2 回) NSTカンファレンス (週 1 回) NST部会(月1回) 神経カンファレンス (週 1 回) 整形外科カンファレンス (週 1 回)
歯科・口腔外科	週 1 回	適宜	年 3 回	カンファレンス (週 1 回) 川崎病院症例検討会 (年 3 回)
救 急 科	週14回	月 4 回		総合カンファレンス (週 1 回)、研修医症例レビュー (週 1.4 回)

2 院内研究交流会 平成26年2月10日(金) 17:30～20:00

演 題	演 者	所 属
政令指定都市である川崎市におけるPET/CT導入の効果 ー自治体病院としての役割をはたすためにー	南 雅 之 小 野 欽 也 齋 藤 敦 子 川 野 保 夫	放射線診断科
病棟ポータブル撮影業務の改善	小 林 翔 放射線診断科一同	放射線診断科
髄液検体における当院での取り組みー免疫染色の有用性	坂 井 瞳 病理検査室一同	検査科 病理検査室
電子カルテの操作・運用に関するアンケート結果（看護部編）	栗 田 勝 子 臼 田 美奈子 舘 山 奈緒子 山 根 順 子	システム運用検 討部会 看護部
電子カルテの操作・運用に関するアンケート結果 医師・各部門・クラーク編	檜 林 敦	システム運用検 討部会
当院における心臓リハビリテーションの現状と課題	田 中 靖 弘 嶋 川 元 帥 西 澤 健 也	看護部 (ICU・CCU 病棟) 冠疾患集中治療室
多職種での連携を図るために ～今、わたしたちにできること～	高 橋 美 樹 14階南病棟看護 師一同	看護部 (14階南病棟)
整形外科 手の外科医と作業療法部門の連携	久 永 希 佐 藤 直 人 中 村 優 太 日 景 歩 河 原 由紀子 上江田 裕 子 リハビリテーシ ョン科医師一同 整形外科医師一同	リハビリテーシ ョン科作業療法 部門 リハビリテーシ ョン科 整形外科
集中治療診療支援システムのICU導入について	田 中 靖 弘 佐久間 祐 樹 濱 谷 恵里子 藤 原 実 香 高 山 涉 彦 森 田 慶 久	看護部 (ICU・CCU 病棟) 麻酔科
調理従事者のノロウイルス陽性結果から感染対策を考える	駒 場 瑠美子 感染対策室一同	感染対策室
「優しいだけじゃ人は救えない」 ～救急医療派遣チームの中の看護師～	塚 田 千 代 牧 野 弘 美 神 山 由美子	救命救急センタ ー
患者の安全と看護師の安全を守る、コールB (ワイヤレス型緊急 コールシステム)の導入	吉 崎 弘 之 9階北病棟看護 師一同	看護部 (9 階北病 棟)

患者の安全と尊厳を両立した看護	柴 田 洸 介 14階北病棟看護 師一同	看護部 (14階北病 棟)
後発医薬品への切り替えについて	丸 本 かおり 薬 剤 部 一 同	薬剤部
糖尿病透析予防指導の実態調査	猪野瀬 美 樹 土 屋 千恵子 駒 野 久 恵 加 藤 理賀子 江 限 妙 香 津 村 和 大	看護部 (内 科 外 来) 看護部 (14階南病 棟) 内科 (糖尿病内分 泌内科)
難治性糖尿病性足潰瘍患者の下肢救済事例報告	牛 込 志 乃 加 藤 理賀子 佐 藤 江利子 畑 野 麻 子	看護部 (外来) 看護部 (13 階北病 棟) 形成外科
医療機器不具合・破損連絡用紙を導入して	門 馬 栄 菜 菊 地 寿 人 山 下 絵 里 今 井 康 典 井 汲 修 平 高 森 和 哉 山 口 俊 一 中 尾 一 久 菅 規 慶 子 森 田 久 一 増 田 純 一	MEセンター 麻酔科
静脈用カテーテルアダプタの比較検討	井 汲 康 典 菊 地 寿 人 山 下 絵 里 今 井 康 典 門 馬 栄 菜 高 森 修 平 山 口 和 哉 中 尾 俊 一 菅 規 久 一 森 田 慶 子 増 田 純 一	MEセンター 麻酔科
非脱色性二酸化炭素吸収剤の従来品との性能比較	高 森 修 平 菊 地 寿 人 山 下 絵 里 今 井 康 典 門 馬 栄 菜 井 汲 修 平 山 口 和 哉 中 尾 俊 一 菅 規 久 一 森 田 慶 子 増 田 純 一	MEセンター 麻酔科
管理栄養士の病棟配置業務について	長 澤 恵理子 食 養 科 一 同	食養科
NST回診での栄養投与量について	清水谷 弘 美 栄養サポートチ ーム一同	食養科 栄養サポートチ ーム

血液培養コンタミネーション率の推移から見える医療現場ヒューマンエラー	橋本麻実 安東孝樹 加留部博一 北原博一 高山聖淵 郡山川琴絵 白川和宏 竹原朋宏 花田亮太 廣瀬太恵 淵田幹太 前田裕斗 坂本光男 津村和大	臨床研修医(2013 年度入職) 内科 教育指導部 臨床研究支援室
当院の初期臨床研修が研修医の共感性向上にもたらす影響についての検討	江藤美菜実 赤羽宏基 鎌田泰裕 河内大輔 木村祐美子 倉持智洋 鈴木詔子 田中資 森田覚 山田万里恵 津村和 大	初期臨床研修医 (2012年度入職) 内科 教育指導部 臨床研究支援室

3 看護部研究

(1) 事例研究

第16回 院内発表会

平成25年11月30日（土） 9：00～17:00

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
隔離病棟の個室に入院した患者の不安に対する関わり ～感染症病棟に入院した患者の一事例を通して～	上 地 碧	9 階 南 病 棟
自然な形で逝きたいと言うエンドステージ患者に対する看護	寺 谷 はる菜	9 階 南 病 棟
術後ICU入室患者の離床実施場面の振り返り	長 田 真 理	ICU・CCU病棟
人工呼吸器装着中患者との関わりで学んだこと	城 戸 佐 姫	ICU・CCU病棟
麻酔覚醒直後にせん妄がみられる高齢者への看護 ～強度の不安の患者への関わりを考える～	尾 崎 加 菜	手術室
患者に合った術前訪問の関わり方 ～10代後半で手術を受ける患者に対して～	佐久間 仁 美	手術室
パニック障害を持つ手術患者の不安を軽減させる関わり	永 田 修 一	手術室
高齢者の術前看護	元 麻 季	手術室
統合失調症患者の服薬指導を通して学んだこと ～個別性を考えた服薬指導～	関 口 優 子	9 階 北 病 棟
手術をひかえたA氏への対応を振り返る ～限られた時間の中での関わり～	緒 方 悠	11 階 南 病 棟
術後せん妄を発症した患者に対する身体損傷を予防した看護	清 野 詩 織	11 階 南 病 棟
ストーマ受容過程における関わり方を考える	早 坂 美 鈴	11 階 南 病 棟
医療用麻薬に対して抵抗を示す患者との関わり ～痛み日記を使用して～	印 南 靖 子	11 階 南 病 棟
患者に寄り添う看護とは ～言語表出の困難な患者との関わりを通して～	植 松 里 美	11 階 南 病 棟
看護師の感情が患者-看護師関係に及ぼす影響 ～問題行動を繰り返す患者との関わりを振り返って～	大 木 智 佳	10 階 北 病 棟
人工股関節全置換術後、脱臼予防について ～個別性を考えた患者指導～	川久保 怜	10 階 北 病 棟
患者が望む退院を目指すための看護師の役割とは ～患者との関わりを振り返って～	小 泉 香 菜	10 階 南 病 棟
腰椎圧迫骨折患者のコルセット装着への関わり ～コルセット装着の自立に向けて～	榊 原 友 美	10 階 南 病 棟
早産流産・死産をした母親への支援 ～当院におけるグリーフケアの取り組みに向けて～	倉 原 愛 未	8 階 北 病 棟
産婦が満足感を持つ出産に取り組むためのケア ～緊急帝王切開になった事例を通して～	丸 山 由 紀	8 階 北 病 棟
双子の母への退院後の生活を見据えた授乳指導	阿 部 真由美	8 階 北 病 棟

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
早産・低出生体重で生まれた児をもつ母の不安を軽減する為の関わりを振り返って	佐 藤 奈々加	8 階 西 病 棟
糖尿病をコントロールできず、再入院を繰り返す患者に必要な援助 ～行動変容ステージに合わせた看護～	大 平 麻 紀	13 階 北 病 棟
誤嚥の危険性がある患者の看護 ～食事中に誤嚥し、気管内挿管を経験した患者との関わりを振り返る～	上 野 僚	13 階 北 病 棟
在宅介護をする家族の不安に対する指導のあり方 ～吸引指導を振り返りわかったこと～	旭 真 央	13 階 北 病 棟
初めての介護となる患者家族の指導を通して ～患者家族の希望に寄り添う看護～	加 藤 梨 子	13 階 北 病 棟
見通しの見えない不安を抱える成人期患者への看護	河 野 彩 夏	13 階 北 病 棟
退院に向けた家族指導 ～看護師と多職種連携の大切さ～	石 井 義 治	12 階 南 病 棟
患者の障害に対する心理状況を捉えた援助 ～高次脳機能障害を持ちながら生活する患者との関わりを通して	波多野 くるみ	12 階 南 病 棟

平成25年12月7日（土） 9：00～17：00

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
ターミナル患者の希望を支える看護	戸 高 美 紀	11 階 北 病 棟
人工肛門の自己管理に抵抗を示した患者の振り返り ～腎ろうを持ちながら人工肛門を受入れるまでの過程～	中 濱 奈津子	11 階 北 病 棟
進行癌を告知された夫婦への援助 ～危機的状況乗り越えた過程～	柴 田 桜	11 階 北 病 棟
低出生体重児への看護を通して学んだこと ～ストレスの少ないケアについて考える～	山 口 美 咲	8 階 西 病 棟
生後1ヶ月より入院している乳児と家族間の愛着形成を促す看護	新 堀 彩 美	8 階 南 病 棟
幼児後期の子どもが意欲的に内服をするための看護	横 山 かおり	8 階 南 病 棟
乳児アトピー性皮膚炎のある患児と家族への看護	高 岡 由 季	8 階 南 病 棟
抑制が必要な患者との関わりを通して ～その人に感心を持つということ～	佐々木 望	9 階 南 病 棟
疼痛を訴える患者の心理状態と介入	山 崎 真 子	9 階 南 病 棟
患者との信頼関係を築くために ～口腔ケアを拒否した患者との関わりを通して～	藤 島 諒	9 階 南 病 棟
乳がんを告知された患者の心境の変化	田 中 美 沙	9 階 南 病 棟
肺がん患者の呼吸困難緩和のための関わり ～プロセスレコードを用いた患者とのコミュニケーション場面の振り返り～	稲 葉 咲	9 階 南 病 棟
救命救急センターにおける看取りの場面について	石 井 沙 織	9 階 南 病 棟

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
会話でコミュニケーションが図れない患者との関わり ～タッチングを活用し安心感を与える看護～	荒 町 幸 恵	9 階 南 病 棟
体位交換を拒否する患者に対する看護 ～患者に寄り添う大切さ～	高 柳 優 花	13 階 南 病 棟
終末期にある患者の看護 ～最後までその人らしくいられるためにできる関わり～	飯 田 裕 美	13 階 南 病 棟
呼吸苦を訴える患者に対して看護師ができることとは	岩 村 利恵子	13 階 南 病 棟
認知症で不穏症状のある高齢者の看護	青 木 恵理佳	13 階 南 病 棟
患者の安全と尊厳を両立した看護	柴 田 洸 介	14 階 北 病 棟
透析導入となった患者の看護 ～受容過程に合わせた看護を考える～	北 田 美 希	14 階 北 病 棟
透析導入期にある患者さんとの関わり ～治療拒否・抑うつ状態 透析導入の不安のある患者と看護師の関わりの振り返り～	青 木 恵里子	14 階 北 病 棟
高齢者夫婦二人暮らしの患者家族に対する在宅療養に向けての看護～介護者の不安を軽減するために～	山 田 玲 香	14 階 南 病 棟
寄り添うことへの大切さ ～ターミナル期の患者との関わりを振り返って～	相 川 真里奈	14 階 南 病 棟
看護師の関わりや糖尿病教室に参加することによる患者の行動変容	福 島 由美子	14 階 南 病 棟
病識の変化による疾患の自己管理能力への影響 ～2型糖尿病患者との関わりから学ぶ～	大 松 玲 奈	14 階 南 病 棟
意志疎通が図れない患者との関わりを通して学んだこと	野 間 美智子	14 階 南 病 棟
初めての科学療法・放射線療法を行なう患者との関わりを通して学んだこと	吉 田 美 由	12 階 北 病 棟
初回の化学両んほうを行なうがん患者の不安とは ～患者との関わりを振り返る～	石 川 詩 織	12 階 北 病 棟

(2) 看護研究

第68回院内発表会

平成26年1月25日（土） 9:00～15:30

研 究 テ ー マ	所 属	発表者名	共同研究者名
産褥クリニカルパスのバリエーション分析による産褥ケアの検討	8階北病棟	上 島 正 恵	谷 澤 祥 子 松 本 志 保
行動変容ステージモデルを利用したスタッフの支援のあり方 ～退院支援に対する実態調査～	13階南病棟	小 野 幸 子	丸 山 幸 子 釋 屋 正 美 武 極 寿 子
人工呼吸器管理に関するスタッフへの意識調査から見えたもの	14階北病棟	吉 田 優 作	
サブリーダーの目標設定と目標設定活動に対する評価の実態	12階北病棟	平 戸 景 子	永 堀 三七子 渡 邊 いづみ 岩 本 祥 子
エンゼルケアにおける体液漏出予防	緩和ケアチーム	塩 津 未 季	高 橋 澄 江 緩和ケアチーム
エンゼルケアにおける遺体冷却に対する救命救急センターの認識	9階南病棟	枝 寿 俊	後 藤 真 紀 柳 沼 沙弥香
口腔ケアの手段の確立	12階南病棟	本 田 小百合	中 村 静 江 石 羽 楓 路 留 堀 永 歩 実
外科病棟における術後患者への先取り看護の有効性 ～ナースコールからみえる患者のニーズを分析し、看護実践をしてみてわかったこと～	11階南病棟	椎 名 美 雪	修 本 奈津子 堀 内 まさ子 武 田 明日香
クレームの内容分析から見た小児患者家族の思い	8階南・小児科外来	森 沙 織	佐 竹 仁 美 関 口 愛 実 大 川 八千代
救命救急センターにおける注射のインシデントに対するスタッフの認識の実態	9階南病棟	大 塚 優 子	友 野 一 枝 関 光 光 小 久 代 大 川 やよい 牧 野 弘 美
p-m SHELLモデルを活用したインシデント分析	ICU・CCU	小 澤 康 子	
A病院内科外来看護師による糖尿病透析予防指導が糖尿病患者に及ぼしている影響の実態調査 ～腎症ステージ別検査データを比較して～	内 科 外 来	猪 野 瀬美樹	土 屋 千恵子 江 隆 妙 香 駒 野 久 恵
急性期病院において看取りを体験した看護師にとっての看護レビューの意義	11階北病棟	花 房 香 織	田 所 みき子

人工呼吸器管理中における非言語的コミュニケーション方法の検討	ICU・CCU	北 島 愛 子	
CAM-ICU導入に向けての活用の実態 ～せん妄評価を考える～	ICU・CCU	蘭 賀 芽 衣	青 木 夏 代 濱 谷 恵里子
手術材料の適正管理における意識改革への取り組み ～変革理論を用いたアプローチ～	手 術 室	山 野 美智子	円 谷 博 宣 仙 道 祐 美
精神科病棟に個人用TVを導入して ～個人用TV導入前後の看護師の反応と医療保護入院患者の変化～	9階北病棟	望 月 光 子	荒 井 典 子 吉 崎 弘 之
記録の標準化がもたらす医療用薬品の副作用対策の改善 ～看護師の予測的かわりの有用性～	11階南病棟	三 好 涼 士	高 橋 笑美子 堀 津 未 季

(3) 院外看護研究派遣者

平成25年度

	演 題 名	氏 名	学 会 名	発表日
1	行動制限最小化への取り組み	石田 直樹	第38回日本精神科看護学会	6月1日
2	患者から暴行行為を受けた看護師の援助要請と精神的健康	西森 春江	第44回日本看護学会 -精神看護-	6月3日
3	NICUにおける騒音調査	田中 礼子	第52回全国自治体病院学会 看護・看護教育分科会 小児看護2	10月17日
4	救命救急センター看護師が語る救急看護	塚田 千代	第15回日本救急看護学会学術集会	10月20日
5	救急救命センター看護師心肺停止状態で搬送された患者家族へのケア	尾崎 文人	第44回日本看護学会 -成人看護1-	10月25日
6	希死念慮のある患者の精神的変化	吉崎 弘之	平成25年度日本精神科看護 技術協会神奈川県支部看護 研究発表会	10月23日
7	インホームドコンセントツールにおける患者用クリニカルパスの有用性と活用の実態	坂本 利恵子	第14回日本クリニカルパス 学会学術集会	11月1日
8	自然な形で逝きたいと言うエンドステージ患者に対する看護	寺谷 はる菜	公益社団法人川崎市看護 協会看護研究・活動報告会	2月21日
9	早期流産・死産をした母親への支援 ～当院におけるグリーフケアの取り組みに向けて～	倉原 愛未	公益社団法人川崎市看護 協会看護研究・活動報告会	2月21日
10	進行癌を告知された夫婦への援助 ～危機的状況を乗り越えた過程～	柴田 桜	神奈川県看護協会川崎支部 看護研究発表会・活動報告 会	2月21日

4 研 修

(1) 看護部院内研修実施状況

No.	研 修 名	研 修 内 容	実施年月日	参加者 人 数	会 場	講 師
1	新人看護職員入職 ガイダンス（4月）	病院長あいさつ 副院長兼看護部長講話 看護部概要・看護部組織活動 電子カルテ基本操作 三役紹介 事務連絡 防災、勤務管理、職員衛生 BLS	2013/4/1 （半日） 2013/4/12 （1日）	4月採用者 54名	7階 講堂	増田院長 綱島副院長兼看護 部長 中原副看護部長 庶務課：麻賀、前田、 斉藤、宮下、柴田 管理係：毛利 救急部会 研修担当者
2	新人看護職員研修 安全な看護を提供する ために	薬剤管理の基礎知識 安全な薬方法 院内感染防止と清潔操作 インシデント教訓事例からの 学び 安全な看護を提供するという こと（グループワーク）	2013/5/17 （1日）	4月新採用者 54名	7階 講堂	阿部副薬剤長 武田担当課長 森田主任 田所副主任 研修担当者
3	看護助手研修	病院概要 看護補助業務 医療安全に関すること 感染に関すること	2013/4/18 2013/4/19 14:00-16:00	37名 欠席 3名	7階 大会議室	篠山師長 駒場担当課長 小林師長 加藤師長 田中師長 研修担当者
4	新人看護職員 静脈注射技術テスト	静脈注射に関する 技術チェック	2013/5/23まで （期間内で 実施）	44名（1名病 欠）	各部署	新人教育担当 副主任会
5	新人看護職員 静脈注射筆記テスト	解剖整理及び実施上の注意 薬理作用と投与方法の注意点	2013/5/24	44名（1名病 欠）	7階 講堂	研修担当者
6	新人看護職員 静脈注射筆記テスト 追試	解剖整理及び実施上の注意 薬理作用と投与方法の注意点	2013/6/3	22名	10階、11階 カンファレンスルーム	研修担当者
7	新人看護職員 夜勤体験研修	教育担当者とペアで 夜勤体験をする	2013/6月～7月	44名	各部署	新人教育担当
8	7月採用者研修	病院概要 看護部概要 安全 管理 感染管理 接遇について 事務連絡 病棟オリエン テーション	2013/7/1 （1日）	3名	4階会議室	綱島副院長 武田担当課長 駒場担当課長 菅師長 研修担当
9	看護助手研修	移乗、体位変換 技術研修	2013/7/22 （1.5時間）	4名	7階看護実 習室	森認定看護師 研修担当
10	新人実地指導者フォ ローアップ研修①	自部署における現状から課題 を見出し対策を考えOJTでの 取り組み方法を考える（KJ法 使用しグループディスカッ ション）	2013/7/5 （3時間）	30名	7階会議室	研修担当
11	新人実地指導者フォ ローアップ研修②	自部署における新人指導の取 り組み課題について発表	2013/12/6 （3時間）	27名	7階会議室	研修担当
12	新人研修－フィジカ ルアセスメント	呼吸不全、意識障害 講義 及びグループワーク	2013/9/20 （半日）	40名	7階 講堂	集中ケア認定看護師 小澤、大山 研修担当

13	新人看護職員臨床研 修（院内留学）	1週間、希望する病棟で看護 を体験する	2013/10～11月	36名	各部署	各部署担当者
14	看護記録研修③	各部署別対面指導形式	2013/5/11	82名	7階 会議室	永田 明先生
15	看護記録研修④	各部署別対面指導形式	2013/9/14	75名	7階 会議室	永田 明先生
16	新人同期会 I	茶話会形式で自由に語り合う	2013/9/20 16:30-17:30	43名	7階 講堂	副主任会
17	BLS講習会	BLS技術の習得	2ヶ月1回 （7,9,11月）	各回 15—10名	7階講堂	研修担当者 院内救急部会の医 師・看護師
18	認定看護師による講 演（感染管理）	針刺し予防技術	2013/5/1 17:30～18:30	90名	7階講堂	駒場担当課長
19	認定看護師による講 演（集中ケア）	心不全の看護	2013/6/5 17:30～18:30	120名	7階講堂	小澤 康子
20	認定看護師による講 演（うつ病看護）	言葉の贈り物	2013/7/3 17:30～18:30	96名	7階講堂	吉崎 主任
21	認定看護師による講 演（緩和ケア）	死が差しせまった時のケ ア	2013/8/7 17:30～18:30	71名	7階講堂	塩津 未季
22	認定看護師による講 演（救急看護）	急変時の備え	2013/9/4 17:30～18:30	118名	7階講堂	神山 主任 金田 由美子
23	認定看護師による講 演（皮膚排泄ケア）	褥瘡に使用する外用薬と 最新被覆材の特徴	2013/10/2 17:30～18:30	105名	7階講堂	佐藤副主任 牛込副主任
24	認定看護師による講 演（がん化学療法）	抗がん剤の安全な取り扱 いと管理	2013/11/6 17:30～18:30	84名	7階講堂	伊東副主任
25	認定看護師による講 演	周産期から始まる子ども の虐待対応	2013/12/4 17:30～18:30	76名	7階講堂	白田 主任 吉川副主任 須貝 美弥
26	認定看護師による講 演	早期リハビリテーション の必要性	2014/1/15	61名	7階講堂	森 亜沙美
27	認定看護師による講 演	安全な食事介助 食事時間を楽しくするために	2014/2/5	75名	7階講堂	古瀬 美穂
28	認定看護師による講 演	インスリンの最近の事情	2014/3/5	63名	7階講堂	加藤 里賀子
29	キャリアアップニュ ース	認定看護師教育コース参加者 研修報告会	2013/10/31 17:30-18:30	73名	7階講堂	認定看護師コース 終了者 吉川 紀子 古瀬 美穂 松下貴代子 森亜紗美 吉田龍也
30	キャリアアップニュ ース	臨地実習指導者研修、多職種連 携推進課程研修参加者研修報 告会	2014 /2/5 18:00-19:00	75名	7階講堂	成田 貴子 中久 泰樹 高橋 美樹 石井 和子

31	看護必要度研修Ⅰ	看護必要度の必要性と評価方法を理解する(新人対象)	2013/8/23 17:30～18:00	50名	7階講堂	記録委員会
32	看護必要度研修Ⅱ	看護必要度の評価の視点とB項目の記録方法	2013/12/13 17:30～19:00	103名	7階講堂	記録委員会
33	事例研究ガイダンス	事例研究の目的・取り組み方	2014/3/24 13:00～15:00	35名	7階 大会議室	川崎市立看護短期大学 武内 和子教授
34	担当看護師研修～2年目に向けて	看護経験を振り返り自己の看護観を考察する2年目の役割と責任を考え、課題を明確にする	2014/03/24 15:15～17:00	35名	7階 大会議室	綱嶋たかえ副院長
35	新人同期会Ⅱ	茶話会形式で自由に語り合う	2014/03/24 17:00～18:00	37名	7階 大会議室	副主任会

(2) 検査科 院内研修会実施状況

No.	研修会名	研 修 内 容	実施年月日	参加者数	会 場	講 師
1	検査科勉強会	感染対策マニュアル等について	H25.5.14	18名	4階会議室	内 田 理 絵
2	検査科勉強会	解剖について	H25.6.11	18名	4階会議室	横 屋 瀬 里 香
3	検査科勉強会	輸血後鉄過剰症について	H25.7.9	17名	4階会議室	三 津 田 太 郎
4	検査科勉強会	聴性脳幹反応検査	H25.10.8	18名	4階会議室	永 塚 育 江
5	検査科勉強会	感染症の迅速検査について	H25.11.12	17名	4階会議室	工 藤 美 樹
6	検査科勉強会	悪性リンパ腫について	H26.2.12	18名	4階会議室	杉 山 早 絵
7	検査科勉強会	輸血の安全性・輸血による感染症について	H26.3.11	10名	4階会議室	西 久 坊 泰 子
8	糖尿病診療連携委員会	生活習慣病を考える	H25.10.23	34名	7 F 大会議室	守 屋 久 子
9	B L S 講習会	救急時の対応と救命講習	H25.11.13	5名	3Fリハビリ室	救急科土井賢治
10	B L S 講習会	救急時の対応と救命講習	H25.12.2	5名	3Fリハビリ室	救急科土井賢治
11	B L S 講習会	救急時の対応と救命講習	H25.12.11	5名	3Fリハビリ室	救急科土井賢治
12	B L S 講習会	救急時の対応と救命講習	H26.1.8	4名	3Fリハビリ室	救急科土井賢治
13	B L S 講習会	救急時の対応と救命講習	H26.1.29	6名	3Fリハビリ室	救急科土井賢治
14	交流勉強会	感染症患者の対応	H25.9.6	7名	7階大会議室	駒 場 瑠 美 子
15	交流勉強会	COPDの診断から治療まで	H25.10.29	11名	2階放射線科読影室	佐山宏一 木田貴子 安部さやか
16	交流勉強会	虚血性心疾患の診断と治療	H26.2.26	7名	2階放射線科読影室	高橋賢至 小切孝洋 坪田結香 永塚育江

※25年度の交流勉強会・BLS講習会は、他科の講師を招いて実施

(3) 放射線診断科・放射線治療科 院内研修会実施状況

No.	研修会名	研修内容	実施年月日	参加者数	会場	講師
1	科内勉強会	位置照合時におけるX線撮影画像と再構成画像(DRR)との不一致について	平成25年7月23日	20名	放射線科読影室	小林 裕介
2	科内勉強会	間接変換型FPDにおける解像特性の検討(CslとGoSの比較)	平成25年7月23日	20名	放射線科読影室	桂 嶽 亮
3	科内勉強会	ワイヤレスFPD「CALNEO flex」の使用経験と無線化	平成25年7月23日	20名	放射線科読影室	小林 翔
4	科内勉強会	福島県飯館村多数傷病者対応訓練 居住制限区域における訓練時の空間線量評価	平成25年7月23日	20名	放射線科読影室	小野 欽也
5	放射線診断科 検査科 交流勉強会	虚血性心疾患の診断と治療	平成26年2月26日	34名	放射線科読影室	小切 孝洋

(4) 院外派遣研修実施状況

分野	研 修 名	研修機関	研修期間	職員氏名
看 護 管 理	セカンドレベル	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	10月3日～3月7日 44日間	竹 内 由 香
	セカンドレベル	公益社団法人神奈川県看護協会	10月3日～3月7日 33日間	小 海 照 美
	セカンドレベル	国際医療福祉大学生涯学習 センター	10月3日～3月8日 週2日	藤 原 実 香
	ファーストレベル	聖路加国際大学看護実践開 発研究センター	8月19日～9月20日	白 田 美奈子
	ファーストレベル	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	4月6日～9月27日 42日間	甲 斐 瑞 恵
	ファーストレベル	神奈川県看護協会	5月8日～9月4日 31日間	福 井 優 子
	ファーストレベル	北里大学看護キャリア開 発・研究センター	5月24日～9月20日 29日間	館 山 奈緒子
	看護部会研修会	全国自治体病院協議会	8月7日・8日・9日	千 島 美奈子
	看護部会研修会	全国自治体病院協議会	8月7日・8日・9日	小 海 照 美
	看護部会研修会	全国自治体病院協議会	8月7日・8日・9日	滝 沢 恵美子
	病院管理研修	公益法人神奈川県病院協会	9月17日	澁 谷 由紀子
	病院管理研修	公益法人神奈川県病院協会	9月20日	増 村 美津子
	病院管理研修	公益法人神奈川県病院協会	9月20日	白 井 佳 子
	病院管理研修	公益法人神奈川県病院協会	9月27日	綱 嶋 たかえ
	病院管理研修	公益法人神奈川県病院協会	9月27日	岡 本 朋 江
	病院管理研修	公益法人神奈川県病院協会	10月4日	小 林 信 子
	病院管理研修	公益法人神奈川県病院協会	10月15日	綱 嶋 たかえ
	病院管理研修	公益法人神奈川県病院協会	10月15日	千 島 美奈子
	病院管理研修	公益法人神奈川県病院協会	10月15日	稲 部 眞由美

	病院管理研修	公益法人神奈川県病院協会	10月15日	綱 嶋 たかえ
	看護管理研修	医療・病院管理研究協会	10月5日	原 田 直 子
	看護管理研修	医療・病院管理研究協会	10月5日	鈴 木 ゆかり
	看護管理研修	医療・病院管理研究協会	10月5日	菅 智 子
認定	認知症看護コース	日本赤十字看護大学武蔵野キャンパス	6月3日～12月4日	高 畑 良 子
多職種連携	多職種連携推進課程	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	4月6日～12月20日（毎週土曜日、金曜日2回）	石 井 和 子
	多職種連携推進課程	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	4月6日～12月20日（毎週土曜日、金曜日2回）	高 橋 美 樹
実習指導者	看護師実習指導者講習会	神奈川県・昭和大学保健医療学部共催	8月19日～12月19日	成 田 貴 子
	看護師実習指導者講習会	神奈川県立保健福祉大学実践センター	9月2日～11月8日	中 久 泰 樹
	臨地実習研修会	全国自治体病院協議会	9月25日・26日	今 野 麻衣子
	臨地実習研修会	全国自治体病院協議会	9月25日・26日	河 野 純 子
看護実践	看護必要度評価者 院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会	7 月 7 日	佐 藤 律 子
	看護必要度評価者 院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会	7月 7 日	山 本 く み
	看護必要度評価者 院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会	7 月 7 日	出 水 要 子
	看護必要度評価者 院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会	7 月 7 日	佐 藤 江利子
	看護必要度評価者 院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会	7 月 7 日	牧 野 弘 美
	看護必要度評価者 院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会	7 月 7 日	吉 崎 弘 之
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	出 水 要 子
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	土 屋 倫 恵
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	棟 方 美
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	佐 藤 律 子
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	甲 斐 瑞 恵
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	佐 藤 江利子
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	高 良 由美子
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	山 下 純 子
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	松 原 里 美
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	谷 澤 祥 子
	看護必要度ステップアップ研修	日本臨床看護マネジメント学会	2月16日	吉 崎 弘 之
	看護必要度評価者養成研修会	全国自治体病院協議会	11月 3 日	榎 原 弘 成

看護実践	看護必要度評価者養成研修会	全国自治体病院協議会	11月 3 日	千 島 美奈子
	栄養管理のアセスメントと実際	県看護協会A群	6月24日	武 本 侑 子
	看護記録の本質	県看護協会A群	6月11日	二本柳 佳奈子
	看護記録の本質	県看護協会A群	6月11日	上 田 ももこ
	看護記録の本質	県看護協会A群	6月11日	水 嶋 真 帆
	看護記録の本質	県看護協会A群	6月11日	松 本 志 保
	看護記録の本質	県看護協会A群	6月11日	川 上 ク ミ
	看護記録の本質	県看護協会A群	6月11日	山 本 く み
	褥瘡予防のケアの実際①	県看護協会A群	7月26日	真 砂 仁 美
	褥瘡予防のケアの実際①	県看護協会A群	7月26日	綿 佐智子
	わかる！出来る！自信がつく！手術看護	県看護協会A群	6月27日	葛 西 加菜沙
	糖尿病足病変看護従事者研修	県看護協会A群	6月28日、7月1日、7月2日	中 馬 香 織
	対人関係向上研修	県看護協会A群	7月8日 7月9日	伊 東 かつえ
	災害看護実務編①	県看護協会A群	7月18日 7月19日	深 澤 由 美
	ここが知りたい！転倒転落・誤薬の防止	県看護協会A群	7月29日	戸 嶋 佑 貴
	明日からできる退院支援と退院調整	県看護協会A群	6月17日	小 野 幸 子
	明日からできる退院支援と退院調整	県看護協会A群	6月17日	梶 麻 乃
	小児救急の現状と看護の実際	県看護協会B群	9 月 5 日、9月6日	高 岡 由 季
	進化する外来看護	県看護協会B群	9 月 7 日	栗 田 勝 子
	進化する外来看護	県看護協会B群	9 月 7 日	牛 込 志 乃
	リーダーナースのためのフィジカルアセスメント	県看護協会B群	9 月10日・11日	風 間 翠
	リーダーナースのためのフィジカルアセスメント	県看護協会B群	10月24日・25日	砂 田 有貴子

看護実践	リーダーナースのための フィジカルアセスメント	県看護協会B群	10月24日・25日	柳 田 杏 奈
	よくわかる高次脳機能 障害	県看護協会B群	9月13日	山 村 里 栄 子
	よくわかる高次脳機能 障害	県看護協会B群	9月13日	長 田 さ や か
	がん化学療法における 看護の役割	県看護協会B群	10月28日・29日	岩 見 信 恵
	がん化学療法における 看護の役割	県看護協会B群	10月28日・29日	花 房 香 織
	看護と倫理	県看護協会B群	10月24日	塚 田 千 代
	看護管理Ⅰ	県看護協会B群	9月19日・20日	末 次 美智子
	中堅看護職研修～いき いきと活躍し続けるための 仕事術	県看護協会B群	9月24日	小 針 幸 子
	医療安全管理者養成研 修	県看護協会B群	10月7日・8日・31日 11月1日・2日・18日 12月12日	小 林 信 子
	教育担当者研修	県看護協会B群	9月30日・10月4日・25日	滝 沢 恵美子
	リーダーナースのための フィジカルアセスメント②	県看護協会C群	11月11日・12日	松 田 香 奈
	リーダーナースのための フィジカルアセスメント②	県看護協会C群	11月11日・12日	皆 川 友 里
	リーダーナースのための フィジカルアセスメント②	県看護協会C群	11月11日・12日	中戸川 由 香
	リーダーナースのための フィジカルアセスメント②	県看護協会C群	11月11日・12日	志 水 亜 矢
	リーダーナースのための フィジカルアセスメント②	県看護協会C群	11月11日・12日	斉 藤 春 美
	リーダーナースのための フィジカルアセスメント②	県看護協会C群	11月11日・12日	田 尻 明日実
	リーダーナースのための フィジカルアセスメント②	県看護協会C群	11月11日・12日	馬 渡 悦 子
	リーダーナースのための フィジカルアセスメント②	県看護協会C群	11月11日・12日	武 田 明日香
	感染管理～リンクナース のための活動支援研 修	県看護協会C群	11月7日・8日	松 岡 輝美子
	感染管理～リンクナース のための活動支援研 修	県看護協会C群	11月7日・8日	内 山 佳 子
	めざせ！安全な医療現 場～ヒューマンエラー を防ごう	県看護協会C群	12月10日	仙 道 祐 美
	新人ナースのためのコ ミュニケーション～自 分を表現できるように なるためには～	県看護協会C群	12月6日	福 島 由美子

看護実践	新人ナースのためのコ ミュニケーション～自 分を表現できるように なるためには～	県看護協会C群	12月6日	三 塚 夏 美
	褥瘡予防のケアの実際 ②	県看護協会C群	11月5日	櫻 井 麻 美
	中堅看護職研修～いき いきと活躍し続けるた めの仕事術②	県看護協会C群	11月9日	柳 沼 沙弥香
	中堅看護職研修～いき いきと活躍し続けるた めの仕事術③	県看護協会C群	12月17日	小 山 喜美代
	新人ナースのためのコ ミュニケーション②	県看護協会D群	1月10日	元 麻 季
	新人ナースのためのコ ミュニケーション②	県看護協会D群	1月10日	倉 原 愛 美
	家族看護～家族をサポ ートするために～	県看護協会D群	2月19日	柏 木 まどか
	家族看護～家族をサポ ートするために～	県看護協会D群	2月19日	早 津 美 幸
	高齢者支援と認知症患 者の看護	県看護協会D群	1月20日・1月21日	榎 本 勇 司
	がん緩和ケアにおける 看護の役割	県看護協会D群	1月27日・1月28日	欄 賀 芽 衣
	がん緩和ケアにおける 看護の役割	県看護協会D群	1月27日・1月28日	渡 邊 いづみ
	看護管理Ⅰ～主任に求め られる看護管理～	県看護協会D群	2月13日・2月14日	牧 野 弘 美
	はじめて学ぶKYT～高め ようリスクセンス～	県看護協会D群	1月16日	寺 内 絵 巳
	災害看護 ―実務編―	県看護協会D群	2月3日・2月4日	山 崎 雅 子
	はじめての実地指導者研 修②	県看護協会D群	2月12日	星 野 夏 樹
	接遇トレーナー養成研 修	全国自治体病院協議会	8月21日～23日	菅 智 子
	新人看護職員研修責任 者研修	神奈川県看護協会	9月30日・10月4日・25日	滝 沢 恵美子
	接遇トレーナー養成研 修	全国自治体病院協議会	12月18日・19日・20日	田 中 君 枝
	医療安全基礎講座	医療国際リスクマネージ メント学会	6月26日～28日	森 田 純 子
	医療安全管理者養成研 修（実習編）	医療国際リスクマネージ メント学会	1月26日～28日	森 田 純 子
	栄養サポートチーム研 修	日本健康・栄養システム学 会	8月3日～6日	北 岡 順 子
	栄養サポートチーム研 修	日本健康・栄養システム学 会	8月3日～6日	中 津 小百合
	周産期医療研修会 NICU長期入院児の退院 支援	恩師財団母子愛育会	10月24日・25日	土 浜 敏 子

看護実践	周産期医療研修会 看護Aコース	恩師財団母子愛育会	11月20日～22日	星 野 夏 樹
	周産期医療研修会 看護Bコース	恩師財団母子愛育会	12月11日～13日	善 理 祐 子
	一般病院における認知 症看護のマネジメント	日本看護協会	1月30日・31日	増 村 美津子
	一般病院における認知 症看護のマネジメント	日本看護協会	1月30日・31日	田 中 君 枝
	一般病院における認知 症看護のマネジメント	日本看護協会	1月30日・31日	鈴 木 ゆかり
	一般病院における認知 症看護のマネジメント	日本看護協会	1月30日・31日	榎 原 弘 成
	産科マネジメントの基 本	日本看護協会	1月16日・17日	篠 山 薫
	神奈川県院内移植コー ディネーター研修（基 礎研修1）	日本臓器移植ネットワーク	6月26日・10月31日・ 2月28日	出 水 要 子
	神奈川県院内移植コー ディネーター研修（基 礎研修1）	日本臓器移植ネットワーク	6月26日・10月31日・ 2月28日	臼 田 美奈子
	これでナットク母乳育 児支援セミナー2013後 期	母乳育児学会	9月28・29日10月12日 13日12月14日・15日	田 中 礼 子
	第34回母乳育児学会研 修	母乳育児学会	6月29日・30日	坂 本 久美子
	第34回母乳育児学会研 修	母乳育児学会	6月29日・30日	八 畝 照 与
	第34回母乳育児学会研 修	母乳育児学会	6月29日・30日	岩 本 順 子

5. 各科別実習状況報告

科・部	学校名	人数	実習期間
内科・総合診療科 (循環器を含む)	三重大学	1名	平成25年4月5日
	琉球大学	1名	平成25年4月22日
	札幌医科大学	1名	平成25年4月22日
	獨協医科大学	1名	平成25年4月23日
	慶應義塾大学	1名	平成25年4月23日
	東京大学	1名	平成25年4月26日
	同愛記念病院	1名	平成25年4月26日
	東海大学	1名	平成25年4月30日
	大阪大学	1名	平成25年5月1日
	日本医科大学	1名	平成25年5月9日
	慶應義塾大学	1名	平成25年5月9日
	筑波大学	1名	平成25年5月13日～平成25年5月17日
	慶應義塾大学	1名	平成25年5月17日
	水戸協同病院	1名	平成25年5月24日
	順天堂大学	1名	平成25年5月24日
	慶應義塾大学	1名	平成25年5月28日
	慶應義塾大学	1名	平成25年5月30日
	聖マリアンナ医科大学	1名	平成25年5月30日
	慶應義塾大学	1名	平成25年6月3日
	慶應義塾大学	1名	平成25年6月4日
	東邦大学	1名	平成25年6月5日
	慶應義塾大学	1名	平成25年6月5日
	九州大学	1名	平成25年6月7日
	山梨大学	1名	平成25年6月11日
	山形大学	1名	平成25年6月14日
	茅ヶ崎市立病院	1名	平成25年6月14日
	慶應義塾大学	2名	平成25年6月20日
	東北大学	1名	平成25年6月24日
	聖マリアンナ医科大学	1名	平成25年6月24日
	漢陽大学校	1名	平成25年6月26日
	相模原協同病院	1名	平成25年6月28日
	慶應義塾大学	1名	平成25年7月5日
	東京慈恵会医科大学	1名	平成25年7月5日
	鳥取大学卒	1名	平成25年7月8日
	東京慈恵会医大	1名	平成25年7月8日
	産業医科大学	1名	平成25年7月10日
	慶應義塾大学	1名	平成25年7月10日
	東京慈恵会医科大学	1名	平成25年7月10日
	東京慈恵会医科大学	1名	平成25年7月11日
	富山大学	1名	平成25年7月12日
	山形大学	2名	平成25年7月16日
	千葉大学	1名	平成25年7月17日
	慶應義塾大学	1名	平成25年7月17日
	千葉大学	1名	平成25年7月18日
	名古屋市立大学	1名	平成25年7月19日
	聖隷横浜病院	1名	平成25年7月23日
	東京女子医科大学	1名	平成25年7月24日
	東北大学	1名	平成25年7月25日
	横浜市立市民病院	1名	平成25年7月26日
	新潟大学	1名	平成25年7月29日
	東京医科大学	1名	平成25年7月29日
	順天堂大学付属練馬病院	1名	平成25年7月30日
	北里大学	1名	平成25年7月30日
	島根大学	1名	平成25年7月31日
	慶應義塾大学	1名	平成25年7月31日
	弘前大学	1名	平成25年8月2日
	和歌山県立医大	1名	平成25年8月2日
	板橋中央総合病院	1名	平成25年8月2日
	札幌医科大学	1名	平成25年8月5日
	新潟大学	1名	平成25年8月5日
	昭和大学	1名	平成25年8月5日
	熊本大学	1名	平成25年8月7日
	順天堂大学	1名	平成25年8月7日
	獨協医科大学	1名	平成25年8月7日
	日本医科大学	2名	平成25年8月9日
	信州大学	1名	平成25年8月13日
	福井大学	1名	平成25年8月14日
	昭和大学	1名	平成25年8月15日
	順天堂大学附属清安病院	1名	平成25年8月15日
	名古屋徳洲会総合病院	1名	平成25年8月16日
	北里大学病院	1名	平成25年8月16日
	名古屋徳洲会総合病院	1名	平成25年8月19日

科・部	学校名	人数	実習期間
内科・総合診療科 (循環器を含む)	水戸協同病院	1名	平成25年8月30日
	飯塚病院	1名	平成25年9月4日
	鳥取大学	1名	平成25年9月4日～平成25年9月6日
	北里大学病院	1名	平成25年9月6日
	横浜市立みなと赤十字病院	1名	平成25年9月18日
	横浜市立大学附属病院	1名	平成25年9月24日
	熊本大学医学部附属病院	1名	平成25年9月26日
	沖縄南部徳洲会病院	1名	平成25年9月27日
	岩手県立大船渡病院	1名	平成25年9月30日
	島根県立中央病院	1名	平成25年10月2日
	東京女子医科大学	1名	平成25年10月18日
	北里大学病院	1名	平成25年11月15日
	北里大学病院	1名	平成25年11月22日
	山梨大学	1名	平成25年12月11日
	横浜市立市民病院	1名	平成25年12月13日
	浜松医科大学	1名	平成25年12月19日～平成25年12月20日
	東京慈恵医科大学	1名	平成25年12月24日～平成25年12月25日
	金沢大学	1名	平成25年12月25日
	岩手医科大学	1名	平成25年12月26日
	北里大学病院	1名	平成25年12月26日
	慶應義塾大学	2名	平成26年1月31日
	慶應義塾大学	2名	平成26年2月7日
	慶應義塾大学	3名	平成26年2月20日
	滋賀医科大学	1名	平成26年2月24日
	大阪大学	1名	平成26年3月6日
	聖マリアンナ医科大学	1名	平成26年3月6日
	日本医科大学	1名	平成26年3月7日
	新潟大学	1名	平成26年3月11日
	福井大学	1名	平成26年3月12日
	浜松医科大学	2名	平成26年3月12日
	東京慈恵医科大学	1名	平成26年3月14日
	日本医科大学	1名	平成26年3月17日
	山形大学	1名	平成26年3月19日
	東京慈恵医科大学	1名	平成26年3月19日～平成26年3月20日
	山形大学	1名	平成26年3月19日
	東北大学	1名	平成26年3月24日
	横浜市立大学	1名	平成26年3月24日
	金沢大学	1名	平成26年3月25日
	秋田大学	1名	平成26年3月26日
	東京慈恵医科大学	1名	平成26年3月27日
	東京女子医科大学	1名	平成26年3月28日
小児科	秋田大学	1名	平成25年5月1日
	福井大学	1名	平成25年5月31日
	産業医科大学	1名	平成25年6月21日
	慶應義塾大学	1名	平成25年6月21日
	群馬大学	1名	平成25年6月24日
	松戸市立病院	1名	平成25年7月3日
	横浜市立大学	1名	平成25年7月8日
	熊本大学	1名	平成25年7月12日
	横浜市立大学	1名	平成25年7月19日
	聖マリアンナ医科大学	1名	平成25年7月23日
	東京女子医科大学	1名	平成25年7月23日
	群馬大学	1名	平成25年7月29日～平成25年7月31日
	新潟大学	1名	平成25年8月8日
	滋賀医科大学	1名	平成25年8月19日
	山形大学	1名	平成25年11月7日
	富崎大学	1名	平成25年12月26日
	横浜市立大学	1名	平成25年12月26日
	昭和大学	1名	平成26年1月23日
	大阪大学	1名	平成26年3月19日
	東京慈恵医科大学	1名	平成26年3月24日
	琉球大学	1名	平成26年3月24日
	慶應義塾大学	1名	平成26年3月26日
新生児内科	慶應義塾大学	20名	平成25年4月16日～平成25年10月10日
婦人内視鏡科	大和市立病院	1名	平成25年4月9日
産婦人科	奈良県立医科大学	1名	平成25年5月20日
	慶應義塾大学	1名	平成25年6月21日
	奈良県立医科大学	1名	平成25年7月12日
	順天堂大学	1名	平成25年7月23日
	横浜市立大学	1名	平成25年8月6日
	横浜市立大学	1名	平成25年8月9日
	横浜市立大学	1名	平成25年8月27日
	滋賀医科大学	1名	平成26年2月25日
	東北大学	1名	平成26年3月11日

科・部	学校名	人数	実習期間
外科	千葉大学	1名	平成25年4月12日
	琉球大学	1名	平成25年4月22日
	東京慈恵医科大学	1名	平成25年5月1日
	千葉大学	1名	平成25年5月1日
	日本医科大学	1名	平成25年6月3日
	慶應義塾大学	1名	平成25年6月17日
	金沢大学	1名	平成25年7月19日
	名古屋市立大学	1名	平成25年8月5日～平成25年8月6日
	長崎大学	1名	平成25年8月19日
	新潟大学	1名	平成25年8月21日
	新松戸中央総合病院	1名	平成25年10月7日
	香川大学救急部	1名	平成25年10月9日
	久留米大学病院	1名	平成25年11月27日
	湘南鎌倉総合病院	1名	平成26年1月14日
	旭川医科大学	1名	平成26年3月14日
	神戸大学	1名	平成26年3月14日
精神科	滋賀医科大学	1名	平成25年5月2日
	大和市立病院	1名	平成25年9月26日
	横浜市立大学	1名	平成26年3月28日
整形外科	中京病院	1名	平成25年5月20日
	東海大学	1名	平成25年6月20日
形成外科	新潟大学	1名	平成25年8月20日
呼吸器外科	京都大学	1名	平成25年8月23日
脳神経外科	東京医科大学	1名	平成25年8月21日
	京都大学	1名	平成25年8月22日
泌尿器科	東京慈恵医科大学	1名	平成25年7月10日
救急科	横浜市立大学	1名	平成25年5月1日
	滋賀医科大学	1名	平成25年5月1日
	東海大学	1名	平成25年5月2日
	関西医科大学	1名	平成25年5月2日
	慶應義塾大学	1名	平成25年5月21日
	群馬大学	1名	平成25年5月28日
	帝京大学	1名	平成25年5月28日
	慶應義塾大学	1名	平成25年6月18日
	聖マリアンナ医科大学	1名	平成25年6月18日
	群馬大学	1名	平成25年6月25日
	聖マリアンナ医科大学	1名	平成25年6月25日
	東京慈恵医科大学	1名	平成25年7月2日
	富山大学	1名	平成25年7月2日
	東京慈恵医科大学	1名	平成25年7月9日
	日本医科大学	1名	平成25年7月9日
	千葉大学	1名	平成25年7月9日
	順天堂大学	1名	平成25年7月16日
	東京医科大学歯科大学	1名	平成25年7月16日
	京都府立医科大学	1名	平成25年7月16日
	日本大学	1名	平成25年7月23日
	東京医科大学	1名	平成25年7月23日
	新潟大学	1名	平成25年7月30日
	大分大学	1名	平成25年8月6日
	横浜市立大学	1名	平成25年8月6日
	熊本大学	1名	平成25年8月6日
	順天堂大学	1名	平成25年8月6日
	佐賀大学	1名	平成25年8月6日
	弘前大学	1名	平成25年8月6日
	横浜市立大学	1名	平成25年8月13日
	東京医科大学	1名	平成25年8月13日
	順天堂大学附属浦安病院	1名	平成25年8月13日
	熊本赤十字病院	1名	平成25年8月20日
	東京医科大学	1名	平成25年8月20日
	香川大学	1名	平成25年8月20日
	弘前大学	1名	平成25年8月20日
	東京女子医科大学	1名	平成25年8月20日
	東京女子医科大学	2名	平成25年8月27日
	横浜市立大学	1名	平成25年8月27日
	北里研究所病院	1名	平成25年9月12日
	東京女子医科大学四千代医療センター	1名	平成25年9月17日
	広島大学病院	1名	平成25年9月24日～平成25年9月25日
	群馬大学	1名	平成25年12月17日
	大分大学	1名	平成25年12月24日
	福井大学	1名	平成25年12月24日
	福井県立病院	1名	平成25年12月24日
	慶應義塾大学	1名	平成26年2月18日
	滋賀医科大学	1名	平成26年2月25日
	東北大学	1名	平成26年3月11日

科・部	学校名	人数	実習期間
救急科	日本医科大学	1名	平成26年3月18日
	東北大学	1名	平成26年3月25日
	金沢大学	1名	平成26年3月25日
	東京慈恵会医科大学	1名	平成26年3月25日
麻酔科	日本医科大学	1名	平成25年4月11日
	国立病院機構災害医療センター	1名	平成25年10月18日
放射線科	名古屋市立大学	1名	平成25年7月24日
	福井大学	1名	平成25年8月20日
	順天堂大学	1名	平成25年11月12日
眼科	慶應義塾大学	1名	平成25年6月6日

6 講師派遣実施状況

(1) 看護師

氏名	派遣場所	担当科目	期間	回数・時間
篠山 薫	川崎市立看護短期大学	病棟における看護管理	7月12日	1.5時間
神山 由美子	川崎市立看護短期大学	成人看護方法Ⅲ（急性期にある人の看護）	6月27日	6時間
松下 貴代子	川崎市立看護短期大学	成人看護方法Ⅲ（急性期にある人の看護）	6月27日	6時間
鈴木 見香	川崎市立看護短期大学	成人看護方法Ⅴ（周手術期にある人の看護）	9月18日	1回1.5時間
須貝 美弥	川崎市立看護短期大学	小児看護方法（NICUの紹介）	1月20日	1回1.5時間
舘山 奈緒子	川崎看護専門学校	成人健康支援論Ⅰ 糖尿病患者の看護	11月14日・21日	2回6時間
小澤 康子	川崎看護専門学校	成人健康支援論Ⅰ クリティカルケア	11月20日・27日	2回8時間
後藤 千尋	川崎看護専門学校	母性発達支援論Ⅱ （妊娠・分娩・産褥の異常に対する看護）	11月29日・ 12月13日・20日	3回12時間
牛込 志乃	川崎看護専門学校	老年健康支援論Ⅰ （人工肛門をもつ患者の看護）	10月7日	1回4時間
森田 純子	川崎看護専門学校	臨床看護技術Ⅰ（感染予防）	11月7日	1回4時間
稲部 眞由美	川崎看護専門学校	医療安全	10月29日	1回4時間
松下 貴代子	川崎看護専門学校	災害・国際看護	10月10日・17日・24日	3回12時間
亀井 敬子	川崎看護専門学校	災害・国際看護	10月23日	1回4時間
久間 明美	医師会准看護学校	臨床看護概論Ⅱ 手術室看護	4月～5月	5回10時間
西澤 友子	医師会准看護学校	運動器看護	5月28日・ 6月4日・11日	3回6時間
木村 一美	医師会准看護学校	女性生殖器看護	9月～10月	4回8時間
森本 夕子	医師会准看護学校	血液造血器感染症看護	4月～5月	5回10時間
小切 容子	医師会准看護学校	泌尿器疾患看護	11月19日	1回2時間
萩野 飛鳥	医師会准看護学校	腎疾患看護	10月22日・29日・ 11月12日	3回6時間
高橋 澄江	医師会准看護学校	感覚器看護	6月11日・18日・ 7月2日	5回10時間
小切 容子	医師会准看護学校	感覚器看護	7月22日	1回2時間
吉崎 弘之	医師会准看護学校	精神看護	4月～7月	12回25時間
岩見 裕司	医師会准看護学校	外科系看護（消化器）	10月～11月	4回8時間
新田 優子	医師会准看護学校	母子看護	11月～12月	7回15時間
臼田 美奈子	医師会准看護学校	小児看護	11月～12月	6回15時間
吉川 紀子	医師会准看護学校	低出生体重児看護	12月20日	1回1.5時間
	社会保険看護研修センター	演習（フットケア技術）	8月6日	1日
	社会保険看護研修センター	糖尿病の理解と看護Ⅰ	2月25日	半日
	川崎糖尿病懇話会	川崎糖尿病市民講座	4月13日	3.5時間
	川崎糖尿病懇話会	川崎糖尿病市民講座	4月18日	3時間
	川崎糖尿病懇話会	川崎糖尿病市民講座	3月15日	3時間
	静岡県看護協会	糖尿病看護「重症化予防のためのフットケア」	12月5日・6日	2日間
	川崎市キャリア開発センター	糖尿病足病変看護従事者研修（第一回）	6月1日・2日	2日間
	川崎市キャリア開発センター	糖尿病足病変看護従事者研修（第二回）	9月7日・8日	2日間

加藤 理賀子	川崎市キャリア開発センター	糖尿病足病変看護従事者研修（第三回）	12月7日・8日	2日間
	川崎市キャリア開発センター	糖尿病足病変看護従事者研修（第四回）	3月1日・2日	2日間
	川崎市キャリア開発センター	第60回「明日からの実践に役立つ川崎市糖尿病セミナー」	11月22日	2時間
	川崎市キャリア開発センター	第5回実践から看護の意義を考える川崎糖尿病看護研究会	2月23日	半日
	日本赤十字社医療センター	妊娠と糖尿病ケア研究会	10月27日	4時間
	神奈川県糖尿病協会	神奈川糖尿病デー2013市民講演会	11月17日	3時間
	日本糖尿病教育・看護学会	糖尿病療養指導士のためのファシリテーター研修会	1月25日	3時間
	神奈川県糖尿病対策推進会議	神奈川県糖尿病対策連絡会 糖尿病デー2013実行委員会	10月23日	2時間
	神奈川県糖尿病対策推進会議	神奈川県糖尿病対策連絡会	2月25日	2時間
	日本看護協会	実習指導者会議	7月23日	2時間
	ロジェ社	第2回妊娠糖尿病・糖尿病合併妊婦への支援セミナー ファシリテーター	4月27日	3時間
	ロジェ社	糖尿病看護セミナー 糖尿病看護に必要な基礎知識を得る	10月5日	2.5時間
臼田 美奈子	日本看護協会	実習指導者会議	7月26日	2時間
	日本看護協会	平成25年度ケースレポート発表会	11月27日	半日
神山 由美子	日本看護協会	実習指導者会議	7月26日	2時間
山根 順子	北里大学キャリア開発・研究センター	実習指導者連絡会	12月4日	2時間
	北里大学キャリア開発・研究センター	臨地実習事例発表会	3月5日	3時間
牛込 志乃	神奈川ストーマ研究会	第29回神奈川ストーマリハビリテーション講習会	6月22日・23日・ 29日	3日間
	日本オストミー協会	川崎区・幸区・中原区別研修会	2月16日	半日
土屋 千恵子	川崎市キャリア開発センター	第5回実践から看護の意味を考える川崎糖尿病看護研究会	2月23日	半日
大山 美和子	日本離床研究会	早期離床教育講座「術前に把握すべきリスクとその評価」	5月11日	1日
	日本離床研究会	早期離床教育講座「血液データの読み方」	1月25日	1日
稲部 眞由美	神奈川県看護協会	医療安全管理者の役割・暴力への対応	10月7日	1日
飯塚 千代	川崎市看護協会	平成25年度看護研究・活動報告会 座長	2月21日	1時間
吉崎 弘之	日本精神科看護技術協会	第38回日本精神科看護学術集会 座長	6月2日	1時間
	日本精神科看護技術協会	第19回日本精神科看護学術集会 専門Ⅱ座長	11月2日	1時間

(2) 医 師

派遣場所	川崎市立看護短期大学			学年学期	2 年次 前期・後期
科 目 名	病態治療学Ⅲ・Ⅳ	単 位 数	2 単位（選択）	科目区分	専門基礎科目
担 当 者	市東昌也 伊藤壮一 澤藤 誠 成松芳明 中道憲明 小柳和夫 今西智之 増田純一 森 厚夫 岩田壮吉 原 智 宮川俊一 重富征爾 寺内直毅				

「授業概要」

病態治療学Ⅲ・Ⅳでは、手術療法と血管塞栓術などの手術に準ずる治療、麻酔、救急・集中治療について教授します。それぞれの治療目的と適応、効果、治癒による生体への侵襲と回復過程について概説し、さらに具体的な治療方法や関連する検査・援助について代表的な状態や疾患を引用して解説します。

小児科は内科と重複する疾患が多いですが、年齢によって疾患の傾向が違います。それは、患者さんが成長していくからです。この講義の目的は、そのような特殊性を加味して、小児疾患を理解することにあります。

生殖器・特殊感覚器疾患については、手術療法と血管塞栓術など手術に準ずる治療、麻酔、救急・集中治療について教授する。それぞれの治療目的と適応、効果、治療による生体への侵襲と回復過程について概説し、さらに具体的な治療方法や関連する検査・援助について代表的な状態や疾患を引用して解説する。

「授業計画」

病態治療学Ⅲ	11 心臓外科	6 産科手術
1 手術学総論 適応	12 救急	7 婦人科手術
2 手術学総論 術前検査	13 麻酔	8 産科正常編
3 手術学総論 術後管理	14 心肺蘇生	9 産科異常編
4 内視鏡下手術 総論	15 まとめ	10 眼科
5 内視鏡下手術 各論	病態治療学Ⅳ	11 耳鼻科
6 I V R	1 小児 1	12 皮膚科
7 手術学各論 脳神経外科	2 小児 2	13 泌尿器科
8 外科	3 小児 3	14 まとめ 1
9 呼吸器外科	4 小児 4	15 まとめ 2
10 整形外科	5 小児 5	

(3) 薬剤部

講師派遣

氏 名	派遣場所	担当科目	期 間	回 数
阿 部 正 視	川崎看護専門学校	病態薬理学	4 月～6 月	7 回
早 川 和 宏	川崎市立看護短期大学	臨床薬理学	9 月～2 月	1 2 回
長谷川 圭 子	川崎市立看護短期大学	臨床薬理学	9 月～2 月	4 回

(4) 放射線診断科

講師派遣

氏 名	派遣場所	担当科目	期 間	回 数
引 地 利 昭	川崎市立看護短期大学	画像検査・診断	1 2 月 3 日	1 回
狩 野 真之介	川崎市立看護短期大学	画像検査・診断	1 2 月 3 日	1 回

VI 臨 床 研 修 概 要

1 経 緯

病院の沿革・特徴

昭和2年、伝染病組合病院が川崎市立病院に改称、昭和11年、大規模改築、昭和20年6月1日に総合病院となり、その後建物、設備、診療科の増設を逐次行い、市民の医療の中枢を担う病院に発展してきました。

昭和40年、救急指定病院となり、昭和42年には研修医制度が発足しました。それ以降、各学会の指定医の研修施設に指定され、昭和63年には、外国人医師等を対象とした臨床修練指定病院となりました。

また、平成10年4月から総合診療科を設置したことに伴い、新たに後期臨床研修も実施しています。

なお、平成7年から全面改築を進めてきましたが、平成10年11月病棟・中央診療棟が完成し、そして平成12年4月、新外来棟がオープンしたことにより、当院を取り巻く医療環境は、大幅に改善されたばかりでなく、導入された総合医療情報システムや搬送システムが完全に稼動し、機能面でも一段とアップしました。

初期臨床研修

当院の臨床研修制度は、昭和42年4月に発足し、既に40年が経過しています。最初の10年間は研修期間3年のレジデント制度として行われ、昭和52年からは2年間の臨床研修制度となりました。

また、当初の12年間は学制と同じく4月に始まり、3月に終わる制度でありましたが、研修医内定者のうち医師国家試験に不合格となるものがあり、厚生省の指導や欠員を配慮して昭和54年からは6月開始・5月修了に改められました。そして、平成5年に至り医師国家試験の期日が3月に変更されたことに伴い、5月開始・4月修了という新たな制度に生まれ変わりました。

昭和50年度までは単一専門科が専門科と関連する他の1から2科を研修するのみでありましたが、昭和51年度からは専門科に重点を置きながらも、広く各科を研修するローテイト方式を採用してきました。これは平成16年度から実施された卒後臨床研修制度を先取りしていたものであったといえます。

平成16年5月からは新たな卒後臨床研修制度義務化に伴って、単独型臨床研修病院として初期研修医各学年10名を受け入れ、更に川崎市立井田病院に対する協力型病院として各々2名（当院ローテイトは卒後2年目）を指導しています。

平成22年12月1日に卒後臨床研修評価機構の認定を受けました。

新制度実施後、多数の医学生から応募があるのは、当院がこれまで取り組んできた臨床研修制度が高く評価されたものと自負しつつも更に医療安全管理・倫理面も含めた教育内容を拡充し、優れた臨床医の育成を図りたいと考えています。

(1) 臨床研修医年度別 採用者数

年 度	応 募 者	採 用	修 了	備 考
昭和44	5	3		3年制→2年制度へ移行
45	14	7	3	
46	19	4	2	
47	18	6	8	
48	17	8	4	
49	24	6	3	
50	39	10	7	
51	37	5	5	
52	26	8	5	
53	23	10	11	
54	42	10	11	
55	17	10		
56	12	3	9	
57	9	5	8	
58	4	3	2	
59	11	5	5	
60	11	1	11	
61	9	5	1	
62	6	2		
63	8	2	4	
平成元	12	8	2	
2	9	6	1	
3	9	7	6	
4	13	10	6	
5	12	7	5	
6	10	9	8	
7	11	11	6	
8	21	10	7	
9	13	6	8	
10	12	9	10	
11	16	9	4	
12	16	11	5	
13	14	10	8	
14	11	10	8	
15	8	7	7	
16	84	10	6	
17	126	9	4	
18	83	9	9	
19	103	10	9	
20	83	9	9	
21	62	10	9	
22	67	10	10	
23	79	10	10	
24	96	10	10	
25	77	10	10	
計	1,398名	340名	276名	

(2) 専修医年度別 採用者数

年 度	応募者数	採 用	備 考
12	12	9	
13	13	12	
14	8	8	
15	10	10	
16	13	10	
17	11	11	
18	13	12	
19	27	25	
20	44	36	
21	38	34	
22	32	29	
23	34	27	
24	38	34	
25	31	30	
計	324名	287名	

(3) 臨床研修医出身校別採用者数

国・公立大学								私立大学								(平成25年4月1日現在)				
出身校	年度 S.42～ H.20	21	22	23	24	25	計	出身校	年度 S.42～ H.20	21	22	23	24	25	計					
北海道大	4						4	岩手医大	2						2					
札幌医科大	1						1	自治医大	7						7					
旭川医科大	0			1			1	埼玉医大	3						3					
弘前大	5						5	日本大	4						4					
秋田大	7						7	日本医大	2				2	1	5					
山形大	2						2	順天大	2						3					
東北大	2				2	1	5	慶應義塾大	64	3	3	1	5	2	82					
福島県医大	1						1	東京医科大	8				1		9					
群馬大	2		1				3	東京女子医大	7		1		1		9					
筑波大	1	1					2	慈恵医科大	24	1	2	1			28					
千葉大	12	1			1		14	昭和大大	6				1	1	8					
東京大	1					1	2	東邦大大	14	1					15					
東京医科歯科大	4						4	杏林大	7						7					
横浜市立大	3						3	聖マリアンナ大	14						14					
山梨大	1						1	北里大	5		1				6					
新潟大	3					1	4	東海大	11	1	1				13					
富山大	2						2	帝京大	1						1					
福井大	1	1					2	藤田保健大	9			1			10					
浜松医科大	4						4	愛知医科大	2						2					
岐阜大	2						2	関西医科大	3						3					
名古屋大	2						2	大阪医科大	2						2					
名古屋市大	3						3	兵庫医科大	1						1					
三重大	3						3	川崎医科大	2						2					
奈良県立大	1						1	産業医科大	5						5					
京都府医大	1						1	久留米大	2						2					
神戸大	3						3	金沢医大	2						2					
岡山大	2						2								0					
岡山根大	0		1				1								0					
山口大	2						2								0					
徳島大	2						2								0					
香川大	1						1								0					
長崎大	3	1					4								0					
佐賀大	1						1								0					
熊本大	2						2								0					
鹿児島大	1						1								0					
琉球大	2						2								0					
キングスレッジ大	0			1			1								0					
大阪大	0						0								0					
計	87	4	2	2	3	3	101	計	209	6	8	8	7	7	245					

(4) 初期臨床研修修了者(平成24年度生)

修了年月日	氏 名	出 身 校
平成26年3月31日	鈴木 詔子	東京女子医科大学
平成26年3月31日	山田 万里恵	慶應義塾大学
平成26年3月31日	河内 大輔	千葉大学
平成26年3月31日	赤羽 宏基	東北大学
平成26年3月31日	森田 寛	日本医科大学
平成26年3月31日	木村 祐美子	東京医科大学
平成26年3月31日	田中 佑資	東北大学
平成26年3月31日	倉持 智洋	日本医科大学
平成26年3月31日	鎌田 泰裕	昭和大学
平成26年3月31日	江藤 美菜実	慶應義塾大学

<3年間研修を受けた専修医>

・鈴木 毅

<2年間研修を受けた専修医>

・野口 啓 ・塩島 裕樹 ・三浦 康士郎 ・佐々木 裕人 ・樋口 格 ・石川 真由美
・三浦 孝政 ・井上 典子 ・安部 涼平 ・小野 雄大 ・怪部 健史 ・佐藤 順一朗

<1年間研修を受けた専修医>

・今村 友美 ・吉井 肇 ・宮内 安澄 ・猪野 絢子 ・金田 和也 ・本田 あやか
・武井 裕史 ・岡村 亮 ・碓井 遼 ・久保 敦子 ・土屋 佳子 ・西村 絵美
・徳田 敏樹 ・友坂 真理子 ・清野 七菜子 ・堂下 幹司 ・若宮 里恵 ・桑原 強

(5) 在籍する臨床研修医(平成26年4月1日現在)

2年次生(平成25年度生)				1年次生(平成26年度生)			
氏 名		出 身 校		氏 名		出 身 校	
安 東 一 樹	慶 應 義 塾 大 学	朝比奈 祐 一	東 京 大 学	高 聖 淵	慶 應 義 塾 大 学	有 田 祐 起	大 阪 大 学
郡 山 琴 絵	新 潟 大 学	小 川 卓 範	慶 應 義 塾 大 学	白 川 和 宏	慶 應 義 塾 大 学	木 下 水 葵	千 葉 大 学
竹 原 朋 宏	慶 應 義 塾 大 学	高 橋 香 菜	慶 應 義 塾 大 学	橋 本 麻 実	東 北 大 学	田 中 千 尋	慶 應 義 塾 大 学
花 田 亮 太	昭 和 大 学	津 軽 開	慶 應 義 塾 大 学	湊 田 幹 太	日 本 医 科 大 学	津 崎 盾 哉	慶 應 義 塾 大 学
前 田 裕 斗	慶 應 義 塾 大 学	脇 坂 悠 介	慶 應 義 塾 大 学				

(6) 在籍する専修医(平成26年6月1日現在)

4年次生以上			3年次生		
志望科	氏名	出身校	志望科	氏名	出身校
内科	有馬 聖永	千葉大学	内科	吉田 稔	順天堂大学
内科	荒井 亮輔	帝京大学	内科	米澤 栄里	琉球大学
内科	長谷川 司	日本大学	内科	大谷 慧	順天堂大学
内科	本橋 健史	金沢医科大学	内科	坂本 容規	日本医科大学
内科	布施 彰久	東邦大学	内科	安部 悠人	筑波大学
内科	藤澤 有希	東邦大学	内科	金子 厚	北里大学
内科	川口 隆久	慶應義塾大学	内科	須賀 裕樹	北里大学
外科	井上 和茂	信州大学	内科	遠藤 裕子	北里大学
外科	細田 篤志	北里大学	内科	乃木田 礼佳	北里大学
外科	切詰 和孝	香川大学	内科	鎌田 龍明	横浜市立大学
外科	堂本 佳典	岡山大学	内科	角 浩史	関西医科大学
小児科	本田 堯	慶應義塾大学	内科	大田 貴弘	旭川医科大学
小児科	江原 和美	キングスカレッジ	脳神経外科	岩井 貴洋	弘前大学
小児科	三谷 麻里絵	慶應義塾大学	小児科	白井 健一	帝京大学
婦人科	竹田 貴	慶應義塾大学	小児科	鳥居 健一	慶應義塾大学
婦人科	大河内 緑	日本大学	麻酔科	中村 泰輔	神奈川歯科大学
精神科	高橋 秀行	秋田大学	麻酔科	中島 淳	東京医科歯科大学
精神科	天貝 久	東邦大学	形成外科	西田 倫	旭川医科大学
精神科	米森 京子	東京女子	整形外科	西田 有正	九州大学
麻酔科	菅家 裕子	聖マリアンナ医科大学	耳鼻咽喉科	富岡 拓矢	慶應義塾大学
整形外科	平賀 聡	千葉大学	救急科	三吉 貴大	三重大学
眼科	大西 英之	慶應義塾大学			
放射線診断科	鴨志田 久美	東京女子医科大学			
放射線診断科	植松 敬子	旭川医科大学			
救急科	近野 祐介	信州大学			

2 初期臨床研修医プログラム

(1) 名 称

川崎市立川崎病院初期臨床研修プログラム

(2) 目的と特徴

当院の研修医制度は、昭和42年4月に発足し、その後教育指導部を設置して既に40年以上が経ちますが、この間多数の研修修了者を送り出して来ました。その後、幾度かの変遷を経て、現在では、毎年4月1日に研修開始して、2年後の3月31日に修了する方式を採っています。

ローテイトに当たっては、研修医と十分話し合いを持ち、それぞれに最も適した個別カリキュラムを組んで、限られた期間に充実した研修成果が上がるよう努めています。

また、各科の基礎的診断治療のための技能の習得のみならず、“病気を診るのではなく、悩める病人を診る”という、診療態度の修得やプライマリ・ケアを重視した研修を行っています。

医学の進歩に伴い医療の専門分化・高度化により各臓器疾患の専門医は増加し、これまで治療困難とされた疾患が克服できるようになりました。それに反して患者を全人的に診療できる医師（General Physician）は少なく、“病気のみを診るのではなく悩める病人を診る”ことのできるGeneral Physicianの養成が社会的に求められています。また、本当の意味での専門医はGeneral Physicianとしての素養を身につけた上で、自分の専門分野を追及していくべきと考えます。

そこで当院では、“臓器別専門医である前に、患者全体を診て適切な診療を行う”を基本方針の基に、臨床医としての基礎的臨床能力を養成することを主たる目標にしました。

(3) 指導者と研修施設

ア 指導者と研修プログラム責任者

教育指導部長 番場 正博

イ 研 修 施 設

診療各科及び検査科の施設、研究室、会議室

ウ 指導医リスト 〔医師免許取得後7年以上〕（平成26年6月1日現在）

内科	野崎 博之	有馬 功一郎	津村 和夫	井上 健太郎
	工藤 雄大	岡野 裕	大曾根 康夫	田口 博章
	東野 俊洋	玉井 博修	有泉 健	佐山 宏一
	大森 奈緒	田中 希宇人	加畑 宏樹	末吉 浩一郎
精神科	李 慧崇	高橋 賢至	東谷 卓美	高木 英恵
	坂本 光男	細田 智弘	西澤 健也	深江 智明
	齋藤 寿昭	根本 康	芹沢 亜沙子	
	番場 正博	安藏 慎	津村 由紀	檜林 敦
小児科	後藤 正之	荒木 耕生		
	森 和広	古川 律子	梶原 久美子	住友 典子
外科	掛札 敏裕	夏 錦言	星本 相淳	萬谷 京子
	松永 篤志	筒井 麻衣	市東 昌也	和多田 晋
内視鏡室	相浦 浩一			
救命救急センター	田熊 清継	伊藤 壮一	高橋 俊介	郷内 志朗
	大城 健一	齋藤 豊	竹村 成秀	榎森 智
	近藤 英樹	進藤 健	春成 学	荘司 清

	土井 賢治	金尾 邦生	塩島 裕樹		
脳神経外科	竹中 信夫	今西 智之			
脳血管外科	片山 真	植田 良			
整形外科	小柳 貴裕	中道 憲明	西脇 正夫	小宮 浩一郎	
	別所 祐貴	堀内 孝一	橘田 祐樹	磯貝 宜広	
心臓血管外科	森 厚夫	加島 一郎	石田 治		
呼吸器外科	澤藤 誠	江口 圭介			
皮膚科	宮川 俊一	渡邊 絵美子	栗原 佑一		
泌尿器科	原 智	武田 利和	金子 剛		
産婦人科	林 保良	岩田 壮吉	樋口 隆幸	金 善恵	
	染谷 健一	上野 和典			
眼 科	寺内 直毅				
耳鼻咽喉科	相馬 啓子	佐藤 陽一郎			
放射線診断科	成松 芳明	長谷川 市郎	佐藤 宏朗		
放射線治療科	栗林 徹	柏山 史穂			
形成外科	西脇 正夫	畑野 麻子			
歯科口腔外科	鬼澤 勝弘	安居 孝純			
麻酔科	増田 純一	森田 慶久	永井 美江	菅 規久子	
	安藤 嘉門	阪本 浩平			
検査科	杉浦 仁	入江 理恵			
リハビリテーション科	中道 憲明	伊藤 真梨			

日本救急医学会認定指定施設	日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本感染症学会認定研修施設
日本 I V R 学会専門医修練認定施設	日本臨床細胞学会認定施設
心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設基幹施設	日本精神神経学会精神科専門医研究施設
	呼吸器外科専門医合同委員会認定修練基幹施設
日本集中治療医学会専門医研修施設	日本緩和医療学会認定研修施設
日本呼吸器学会認定関連施設	

オ 指導体制

各科とも原則としてマンツーマン方式を取れ入れています。

(4) プログラム委員会

本院には、研修管理委員会が設置されており、その委員がプログラム委員を兼務します。

(5) プログラム管理体制

ア 研修管理委員会の組織・機能

(ア) 委員長：小宮 浩一郎 研修管理委員会委員長

(イ) 構成：委員は各研修カリキュラムの責任者、院長、事務局長、副院長、庶務課長、研修協力施設の研修実施責任者（指導医等）、外部委員（医師等）

(ウ) 業 務

a 研修プログラムの全体的な調整・管理

（研修プログラム作成方針の決定や、各研修カリキュラム間の相互調整など）

b 研修医の全体的な管理

（研修医の募集、他施設への出向、研修医の処遇、研修医の健康管理）

c 研修医の研修状況の評価

（研修目標の達成状況の評価、臨床研修修了の評価）

d 採用時における研修希望者の評価

e 指導医の評価と記録

f 研修後の進路について、相談等の支援を行う

g 院内カンファレンス、研修資料と教育機材の管理、指導医研修

イ 研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法

研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法は別途定める要綱によります。研修医は、毎年公募により採用されます。

ウ 研修プログラムの自己評価と改善体制

研修管理委員会では、研修医の研修成果や研修医・指導医の意見を踏まえ、常に研修プログラム自体の評価を行い、修正可能な点は速やかに修正します。また、大きなシステム上の問題は、関係各所と協議の上、適宜改善を行います。

エ 研修医からのフィードバック

エ 専門医（認定医）教育病院等学会の指定状況

外国人医師または歯科医師の臨床修練指定病院	日本医学放射線学会専門医総合修練機関
日本内科学会認定医教育病院	日本腎臓学会認定医研修施設
日本小児科学会専門医研修施設	日本リウマチ学会認定施設
日本外科学会外科専門医制度修練指定施設	日本循環器学会専門医研修施設
日本脳神経外科学会専門医研修施設	日本胸部外科学会教育施設協議会施設
日本整形外科学会専門医研修施設	日本アレルギー学会認定施設
日本皮膚科学会専門医研修施設	日本糖尿病学会認定教育施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設
日本周産期・新生児医学会専門医制度指定研修施設	日本核医学会専門医教育病院
日本産婦人科学会認定医卒後研修指導施設	日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設
日本眼科学会専門医研修施設	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	日本リハビリテーション医学会認定研修施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本放射線腫瘍学会認定協力施設
日本病理学会専門医研修認定施設	日本神経学会教育関連施設
日本消化器外科専門医認定施設	日本呼吸器内視鏡学会認定施設

研修医は、研修実行委員と定期的に面接を行い、研修プログラムや指導医に対する意見を述べる
ことができます。臨床研修委員会は、できるだけ研修医の要望を実現できるよう配慮します。

オ 研修の継続が困難な研修医に対する処置

身体的・社会的・経済的理由などにより、研修継続が困難な状態に陥った場合は、臨床研修委員
会及び研修責任者は、研修医個人の処遇を勘案し、適切な対応を行うものとします。

(6) 卒後臨床研修・ローテイトについて

ア 期間割り研修医予定配置

１年次の最初の月（４月）は、全員が救急科で研修を行います。厚生労働省の定める内科６
か月、救急科３か月、地域医療１か月を必修科目として計１０か月間研修します。選択必修は５科
（外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科）の中から２科を選択し、選択科（内科、外科、
救急科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科、整形外科、放射線科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉
科、泌尿器科、脳神経外科、心臓血管外科、リハビリテーション科、検査（病理）科、の中か
ら選択）と合わせて計１４か月の研修を行います。

選択科目の研修期間は、プログラムの特性を配慮し、最低１か月とします。

選択科目の研修に当たっては、研修医が各研修カリキュラムを選択し、積極的に研修に取り
組み、充実した研修ができるように留意します。

(7) 研修医定員及び処遇

研 修 医 定 員	： １年次１０名、２年次１０名
募 集 及 び 採 用 方 法	： 公募、小論文、集団面接及び集団討論にて選考、マッチングに参加
資 格	： 平成２７年度日本で医師免許取得見込みの者
処 遇	： 川崎市非常勤嘱託職員 地方公務員法（以下「地公法」という。）第３０条及び第３２条から第３５条を、 遵守する義務を負う。
待 遇	： 給与月額 ３６４,１００円 健康保険・厚生年金・雇用保険・労働災害補償あり レジデントハウス（単身者用）あり （病院から歩いて１分以内の範囲） （月額２９,０５０円程度） 病院個室なし、個人の机及びロッカー有り 定期健康診断年１回 医師賠償責任保険は病院として加入 学会及び研究会への参加は研修に支障のない範囲で可。ただし、公費負担なし
勤 務 時 間	： １週５日（月～金曜日） 月～金曜日：８時３０分～１７時まで 時間外勤務なし 研修以外の診療活動は認めない（地公法第３８条の改正による） 当直は配属科により変わるが、内科の場合に平日当直２日、休日当直１日が 目安である。
年 次 有 給 暇 等	： １年目１０日、２年目１１日付与 夏期休暇５日（６月１日～１０月３１日までの間に取得）

(8) 研修修了認定基準

臨床研修医に関する要綱中、第１０条の修了証書の授与に際しては、次の基準によるものとします。

ア 各研修医は、厚生労働省の指定した初期臨床研修到達目標の自己評価表に基づき、自己採点を行
い、研修責任者に提出する。

イ 研修責任者は、研修管理委員会を開催し、ローテイトした科の指導責任者の採点によるレジデ
ント評価表と研修医が採点した自己評価表を併せて審査し、その結果を院長に報告する。

ウ 院長は、報告に基づき研修が修了したと認定された研修医に対して、修了証書を授与する。

VII 業 績 目 録

		業 別 科												
科目	年度	科 別												
		内科・総合診療科	精神科	小児科	新生児内科	外科	呼吸器外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科
学 位 取 得	21							1	1					
	22													
	23													
	24					1							1	
	25													
賞	21													
	22													
	23					1							1	
	24													
	25													
研 究 助 成 研 究 共 同	21	2				2								
	22	2												
	23	2				1								
	24	1						1						
	25	1						1						
書 籍	21	14		2		(1)								1
	22	5							2					1
	23	5	3	1					4				1	
	24	3		2		24			23					
	25	4		11		1			1					
論 文	21	7				5			16		1	5	6	
	22	10	1			6			19					2
	23	3	1			33	1		24				2	3
	24	3				2	1		16			1	9	3
	25	10		2		8	2	2	20	2	6	1	2	
学 会	21			4		61		4	24		3	7	3	25
	22	38	1	9		40	10	9	38				3	19
	23	36	5	7		11	8	2	33			3	5	14
	24	22	4	4		1	8	1	18		3	6	13	31
	25	30	2	16	2	25	5	2	25	1		7	4	
研 究 会	21													
	22													
	23													
	24													
	25	15	1	2		5			9					
そ の 他	21	8							4					
	22	7	1						9				1	
	23	13	1	2		9		1					1	
	24	7											1	
	25	7	2	1					15					

※H 2 5 年度から業績目録の様式を変更。

※新生児内科・形成外科はH 2 5 年度から計上、放射線診断科・治療科はH 2 5 年度から分離。

※H 2 5 年度から研究会を新設。

績 統 計														
眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	放 射 線 治 療 科	放 射 線 診 断 科	麻 酔 科	救 急 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	歯 科 口 腔 外 科	検 査 科	薬 剂 科	看 護 部	地 域 医 療 部	感 染 対 策 室	食 養 科	合 計
									1					2 0 0 2 1
1	1	1								3				0 1 0 4 3
						1	1 1 1							4 2 5 3 3
		3 1		1	2 1 4 1 15	2	1 1	2	2			2	1	18(1) 14 26 56 35
2 1 1	5 5 2	4 2 4	4 3 3 7	4 7 3 5 19	1 2 2	3 4 10 2	5 1 12 6 4	2 3 1 4	8 3 1 4	8 4				71 62 99 60 94
2 3	12 6 22 17 6	25 13 15 7 14	11 20 18 16 16	22 24 20 24 26	3 3 4 5 1	4 2 4 5 2	10 9 11 12 8	4 3 7 4 3	4 3 7 4 3	1 6	1	1	1 2 2	241(17) 249 222 202 206
														0 0 0 0
	6	11	2	7	1			1		1			2	63
	1	3 8 8 4		1 5 1	6 14 48 5			4 4 3	2 3			3 3 5		25 36 58 90 23

1. 学位

外科

和多田 晋.博士(乙). 平成 26 年 3 月取得. Effect of sarpogrelate hydrochloride, a 5-hydroxytryptamine2 receptor antagonist, on allograft arteriosclerosis after aortic transplantation in rats. Transpl Immunol. 2013; 29:162–166.

2. 賞

看護部

吉崎弘之. 神奈川県精神科病院協会 優良職員被表彰. 平成 25 年 5 月.
藤平ひろ子. 川崎市病院協会 優良職員表彰. 平成 26 年 3 月.
高階和歌子. 川崎市病院協会 優良職員表彰. 平成 26 年 3 月.

3. 研究助成・共同研究

内科・総合診療科

津村和大. 平成 25 年度厚生労働科学特別研究事業. 厚生労働科学研究における戦略研究の課題抽出と評価に関する研究. 分担研究者(平成 25 年 11 月～平成 26 年 3 月).

脳神経外科

植田 良. 脳腫瘍新生血管を治療標的としたペプチドワクチン療法確立のための効果評価法の開発.

歯科口腔外科

安居孝純. 平成 25 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金 若手研究 B). 予期的に分離したヒト歯髄幹細胞の in vivo における評価と顎骨壊死治療への応用.(平成 25 年度～平成 27 年度).

4. 書籍の章

リハビリテーション科

尾原恵美他. “第 30 章 神経疾患による言語障害”. リハビリテーション 評価と治療計画. 編集:オサリバン／シュミツ, 総監訳:相川英三, 監訳:乗松尋道, 盆子原秀三,東京都, 西村書店, 2014; p.1007–1030.
伊藤真梨. “高次脳機能障害 失認(視覚失認)”. もう悩まない! 100 症例から学ぶ リハビリテーション評価のコツ. 里宇明元, 辻川将弘, 杉山 瑤, 堀江温子編. 東京都, 全日本病院出版会, 2013; Monthly Book Medical Rehabilitation. 163(11 月増刊号), p.94–98.

外科

萬谷京子. “第 2 章 外科療法 2. 特殊な状況下におけるセンチネルリンパ節生検の方法と安全性”. これからの乳癌診療 2013–2014. 監修:園尾博司, 編集:福田 護, 池田 正, 佐伯俊昭, 鹿間直人編. 東京都, 金原出版株式会社, 2013; 初版,P43–50.

感染対策室

駒場瑠美子. “部署(対象者)ごとの研修が行われている”. 結果が出せる感染対策いちから始める実践プログラム. INFECTION CONTROL 編. 大阪市, メディカ出版, 2013; 2013 年春季増刊号, p.167–169.

救急科

田熊清継. “重症熱傷患者救命のための感染対策・治療”. 熱傷治療マニュアル. 木所昭夫編. 東京都, 中外医学社, 2013; 改訂 2 版, p.177–184.

田熊清継. “急性腹膜炎”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.160–163.

田熊清継. “急性虫垂炎”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.168–170.

田熊清継. “軟部組織感染症(蜂巣炎、壊死性筋膜炎・ガス壊疽)、破傷風”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.225–229.

田熊清継. “熱傷”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.297–303.

田熊清継. “電撃傷”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.304–305.

田熊清継. “輪状甲状間膜穿刺・切開”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.395–396.

田熊清継. “気管切開”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.397–400.

田熊清継. “中心静脈カテーテル”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.414–417.

田熊清継. “肺動脈カテーテル(PAC、Swan–Ganz カテーテル)”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.418–420.

田熊清継. “注射用抗細菌薬一覧”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.488–491.

田熊清継. “経口抗細菌薬一覧”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.492–495.

田熊清継. “化学損傷”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.306–308.

田熊清継. “虫刺症・動物咬創”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.332–336.

田熊清継. “下肢深部静脈血栓症の治療”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京都, 医学書院, 2013; 第 5 版, p.484–485.

小児科

番場正博. “V.特殊例への副作用対策 1. 幼少児”. 医師・薬剤師のための医薬品副作用ハンドブック. 寺本民生編. 大阪府, 日本臨床社, 2013; 初版, p.247–250.

津村由紀. “第 5 章 学校生活”. 国立成育医療研究センターBook シリーズ こどものアレルギー アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・ぜんそく. 大矢幸弘編. 東京都, メディカルトリビューン, 2013; 初版, p.150–156.

津村由紀. “第 6 章 アレルギー性鼻炎・結膜炎”. 国立成育医療研究センターBook シリーズ こどものアレルギー アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・ぜんそく. 大矢幸弘編. 東京都, メディカルトリビューン, 2013; 初版, p.172–175.

津村由紀. “第 6 章 食物依存性運動誘発アナフィラキシー”. 国立成育医療研究センターBook シリーズ こどものアレルギー アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・ぜんそく. 大矢幸弘編. 東京都, メディカルトリビューン, 2013; 初版, p.178–180.

津村由紀. “第7章 Question 5”. 国立成育医療研究センターBook シリーズ こどものアレルギー アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・ぜんそく. 大矢幸弘編. 東京都, メディカルトリビューン, 2013; 初版, p.200-201.

津村由紀. “第7章 Question 8”. 国立成育医療研究センターBook シリーズ こどものアレルギー アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・ぜんそく. 大矢幸弘編. 東京都, メディカルトリビューン, 2013; 初版, p.204-205.

津村由紀. “第7章 Question 19”. 国立成育医療研究センターBook シリーズ こどものアレルギー アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・ぜんそく. 大矢幸弘編. 東京都, メディカルトリビューン, 2013; 初版, p.221-222.

津村由紀. “第7章 Question 20”. 国立成育医療研究センターBook シリーズ こどものアレルギー アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・ぜんそく. 大矢幸弘編. 東京都, メディカルトリビューン, 2013; 初版, p.223-224.

津村由紀. “第3章 B3 アトピー性皮膚炎”. 国立成育医療研究センター病院 小児臨床検査マニュアル. 編集主幹:松井 陽, 奥山虎之編. 東京都, 診断と治療社, 2013; 初版, p.171-173.

津村由紀. “第3章 B4 食物アレルギー”. 国立成育医療研究センター病院 小児臨床検査マニュアル. 編集主幹:松井 陽, 奥山虎之編. 東京都, 診断と治療社, 2013; 初版, p.174-177.

安藏 慎. “Q2. 肥満あるいは太ってきた”. 小児科学レクチャー第3巻5号 ワンランク上の小児の内分泌疾患 Q&A もうこわくない! 苦手意識を克服!. 長谷川奉延編. 東京都, 総合医学社, 2013; 初版, p.1041-1046.

整形外科

堀内行雄. “手の腱鞘炎、ばね指、ドケルバン腱鞘炎”. 今日の臨床サポート. 落合直之編. 東京都, エルゼビア・ジャパン株式会社, 2013; <https://clinicalsup.jp/contentlist/1922.html>.

内科・総合診療科

野崎博之. “サリン”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京, 医学書院, 2013; 第5版, p.342-343.

野崎博之. “炭疽”. 救急レジデントマニュアル. 監修:相川直樹, 編集:堀 進悟, 藤島清太郎編. 東京, 医学書院, 2013; 第5版, p.344-345.

佐山宏一. “バラコート肺(農薬中毒)”. 内科学書. 小川 聡, 伊藤 裕, 三嶋理晃, 三森経世, 山本和利, 塩沢昌英, 井廻道夫, 大田 健, 小澤敬也, 後藤 元, 祖父江 元, 千葉 勉, 花房俊昭, 伴 信太郎, 藤田敏郎編. 東京, 中山書店, 2013; 改訂第8版, p.418.

佐山宏一. “薬剤性肺障害”. 内科学書. 小川 聡, 伊藤 裕, 三嶋理晃, 三森経世, 山本和利, 塩沢昌英, 井廻道夫, 大田 健, 小澤敬也, 後藤 元, 祖父江 元, 千葉 勉, 花房俊昭, 伴 信太郎, 藤田敏郎編. 東京, 中山書店, 2013; 改訂第8版, p.419-420.

5. 論文

外科

和多田 晋. Effect of sarpogrelate hydrochloride, a 5-hydroxytryptamine2 receptor antagonist, on allograft arteriosclerosis after aortic transplantation in rats. Transplant Immunology. 2013 ; 29:162-166.

和多田 晋. ボストン留学帰朝報告. 血管外科. 2013 ; 32:226-227.

掛札敏裕. 第17回心臓血管外科専門医認定試験問題(模擬). 血管外科. 2013 ; 32:61-65.

掛札敏裕. 私の修業時代ベテランから. 血管外科. 2013 ; 32:76-77.

森 一洋, 小柳和夫, 平岩訓彦, 相浦浩一, 市東昌也, 壁島康郎, 星本相淳, 田中 求, 掛札敏裕, 大森 泰, 杉浦 仁. 食道アカシア術後の異時性・多発性食道表在癌の1例. Progress of Digestive Endoscopy. 2013; 82:102-103.

樋口 格, 小柳和夫, 相浦浩一, 市東昌也, 壁島康郎, 星本相淳, 小野滋司, 佐藤知美, 田中 求, 掛札敏裕, 大森 泰, 杉浦 仁. 胃 mixed adenoneuroendocrine carcinoma の1例. Progress of Digestive Endoscopy. 2013 ; 82:140-141.

石井誠一郎, 杉浦 仁. 若年者乳腺 glycogen-rich clear cell carcinoma の1例. 日本臨床外科学会雑誌. 2013 ; 74:2992-2996.

藤村 匠, 大森 泰, 平岩訓彦, 川久保博文, 入江理恵, 杉浦 仁. 内視鏡的治療を施行した喉頭蓋・舌根部表在癌の1例. Progress of Digestive Endoscopy. 2013 ; 83:80-81.

看護部

稲部眞由美. 無断離院・一次行方不明者への対応. 患者安全推進ジャーナル. 2013 ; 33:46-48.

小澤康子. 身近な医療機器 輸液ポンプ・シリンジポンプの使い方. エキスパートナース. 2013 ; 5月増刊号:44-63.

高良由美子. 看護研究過程における病院内図書室の役割. ほすびたるらいぶりあん. 2013 ; 38:198-200.

吉崎弘之. ベテラン看護師に聞くお悩み相談室(マクロとミクロの両視点で意識改革に取り組みましょう). Nursing Star. 2013; 649:10-10.

眼科

谷口 紫, 深川和己, 藤島 浩, 佐竹良之, 松本幸裕, 坪田一男. 重症アトピー性角結膜炎にMRSA 角膜炎を合併した1例. あたらしい眼科. 2013 ; 30:535-540.

救急科

丸藤 哲, 荒木恒敏, 池田弘人, 小倉裕司, 久志本成樹, 小谷穰治, 齋藤大蔵, 白石振一郎, 鈴木幸一郎, 鈴木 泰, 田熊清継, 武山直志, 鶴田良介, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 三木靖雄, 山下典雄, 山口芳裕, 相川直樹, (日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会). 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会報告 総論 Sepsis Registry の概要. 日本救急医学会雑誌. 2013 ; 24:247-262.

藤島清太郎, 丸藤 哲, 齋藤大蔵, 真弓俊彦, 久志本成樹, 白石振一郎, 小倉裕司, 田熊清継, 小谷穰治, 池田弘人, 山下典雄, 鈴木幸一郎, 鶴田良介, 武山直志, 荒木恒敏, 鈴木 泰, 三木靖雄, 山口芳裕, 相川直樹, (日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会). 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会報告 Severe sepsis に対する診療の質と死亡率の検証. 日本救急医学会雑誌. 2013 ; 24:263-269.

小倉裕司, 丸藤 哲, 齋藤大蔵, 武山直志, 久志本成樹, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 荒木恒敏, 池田弘人, 小谷穰治, 白石振一郎, 鈴木幸一郎, 鈴木 泰, 田熊清継, 鶴田良介, 三木靖雄, 山口芳裕, 山下典雄, 相川直樹, (日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会). 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会報告 Severe sepsis 疫学データ解析結果. 日本救急医学会雑誌. 2013 ; 24:270-277.

丸藤 哲, 齋藤大蔵, 小倉裕司, 久志本成樹, 武山直志, 荒木恒敏, 池田弘人, 小谷穰治, 白石振一郎, 鈴木幸一郎, 鈴木 泰, 田熊清継, 鶴田良介, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 三木靖雄, 山下典雄, 山口芳裕, 相川直樹, (日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会). 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会報告 Severe sepsis における急性期 DIC 診断基準の検証. 日本救急医学会雑誌. 2013 ; 24:278-282.

田熊清継, 藤島清太郎, 齋藤大蔵, 白石振一郎, 池田弘人, 荒木恒敏, 小倉裕司, 久志本成樹, 小谷穰治, 鈴木幸一郎, 鈴木 泰, 武山直志, 鶴田良介, 真弓俊彦, 三木靖雄, 山下典雄, 丸藤哲, 山口芳裕, 相川直樹, (日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会). 日本救急医学会

Sepsis Registry 特別委員会報告 Severe sepsis 症例からの分離菌の検討. 日本救急医学会雑誌. 2013 ; 24:283-290.

小谷穰治, 齋藤大蔵, 丸藤 哲, 鈴木幸一郎, 鶴田良介, 山下典雄, 荒木恒敏, 池田弘人, 小倉裕司, 久志本成樹, 白石振一郎, 鈴木 泰, 田熊清継, 武山直志, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 三木靖雄, 山口芳裕, 相川直樹, (日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会). 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会報告 Severe Sepsis 治療データ解析結果. 日本救急医学会雑誌. 2013 ; 24:291-296.

久志本成樹, 丸藤 哲, 齋藤大蔵, 真弓俊彦, 荒木恒敏, 池田弘人, 小倉裕司, 小谷穰治, 白石振一郎, 鈴木幸一郎, 鈴木 泰, 田熊清継, 武山直志, 鶴田良介, 藤島清太郎, 三木靖雄, 山下典雄, 山口芳裕, 相川直樹, (日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会). 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会報告 Severe sepsis における体温は重症度と転帰に関連する. 日本救急医学会雑誌. 2013 ; 24:297-304.

山下典雄, 丸藤 哲, 齋藤大蔵, 荒木恒敏, 池田弘人, 小倉裕司, 久志本成樹, 小谷穰治, 白石振一郎, 鈴木幸一郎, 鈴木 泰, 田熊清継, 武山直志, 鶴田良介, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 三木靖雄, 山口芳裕, 相川直樹, (日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会). 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会報告 Severe sepsis における Body Mass Index (BMI) の影響 日本救急医学会 Sepsis Registry 535 例の解析. 日本救急医学会雑誌. 2013 ; 24:305-309.

白石振一郎, 丸藤 哲, 田熊清継, 荒木恒敏, 池田弘人, 齋藤大蔵, 藤島清太郎, 小倉裕司, 久志本成樹, 小谷穰治, 鈴木幸一郎, 鈴木 泰, 武山直志, 鶴田良介, 真弓俊彦, 三木靖雄, 山下典雄, 山口芳裕, 相川直樹, (日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会). 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会報告 肺炎・膿胸による severe sepsis の血液・巣培養結果と重症度の関係についての検討. 日本救急医学会雑誌. 2013 ; 24:310-314.

樽井武彦, 山口芳裕, 鈴木幸一郎, 鶴田良介, 丸藤 哲, 荒木恒敏, 池田弘人, 小倉裕司, 久志本成樹, 小谷穰治, 齋藤大蔵, 白石振一郎, 鈴木 泰, 田熊清継, 武山直志, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 三木靖雄, 山下典雄, 相川直樹. 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会報告 Severe sepsis の早期予後予測指標の検討 septic shock と比較して. 日本救急医学会雑誌. 2013 ; 24:315-319.

Gando S, Saitoh D, Ogura H, Fujishima S, Mayumi T, Araki T, Ikeda H, Kotani J, Kushimoto S, Miki Y, Shiraishi S, Suzuki K, Suzuki Y, Takeyama N, Takuma K, Tsuruta R, Yamaguchi Y, Yamashita N, Aikawa N, (Japanese Association for Acute Medicine Sepsis Registry Study Group). A multicenter, prospective validation study of the Japanese Association for Acute Medicine disseminated intravascular coagulation scoring system in patients with severe sepsis. Crit Care. 2013 ; 24:111.

Kushimoto S, Gando S, Saitoh D, Mayumi T, Ogura H, Fujishima S, Araki T, Ikeda H, Kotani J, Miki Y, Shiraishi S, Suzuki K, Suzuki Y, Takeyama N, Takuma K, Tsuruta R, Yamaguchi Y, Yamashita N, Aikawa N, (Japanese Association for Acute Medicine Sepsis Registry Study Group). The impact of body temperature abnormalities on the disease severity and outcome in patients Crit Care with severe sepsis: an analysis from a multicenter, prospective survey of severe sepsis. 2013 ; 17:271.

齋藤大蔵, 池田弘人, 片平次郎, 佐々木淳一, 田熊清継, 樋口良平, 松村一, 田中克己, 安田浩, 山元康徳, 上山昌史, 楠本健司, 日本熱傷学会学術委員会. 日本熱傷学会「熱傷入院患者レジストリー」の現状(第2報). 日本熱傷学会機関誌. 2013 ; 40:65-78.

田熊清継. 【熱傷の救急医療 熱傷診療ガイドラインから】感染対策. 月刊レジデント. 2013 ; 6:63-71.

田熊清継. 【救急外来での外科的処置; コツとピットフォール】救急外来での外科的処置の実際 熱傷・化学損傷の外来創処置. 救急医学. 2013 ; 37:957-963.

土井賢治. 【この症状！絶対コール！Part2 もっと知りたい 異常の見抜き方】尿道留置カテーテル交換から2時間後、「血尿」「下腹部の膨隆」が… . Expert Nurse . 2013 ; 29:83-89.

齋藤大蔵, 池田弘人, 片平次郎, 佐々木淳一, 田熊清継, 樋口良平, 松村一, 田中克己, 安田浩, 山元康徳, 上山昌史, 楠本健司, 日本熱傷学会学術委員会. 日本熱傷学会「熱傷入院患者レジストリー」の現状(第2報). 日本熱傷学会機関誌. 2013 ; 40:65-78.

Fujishima S, Gando S, Saitoh D, Mayumi T, Kushimoto S, Shiraishi S, Ogura H, Takuma K, Ikeda H, Yamashita N, Suzuki K, Tsuruta R, Takeyama N, Araki T, Suzuki Y, Miki Y, Yamaguchi Y, Aikawa N, (Japanese Association for Acute Medicine Sepsis Registry Study Group). A multicenter, prospective evaluation of quality of care and mortality in japan based on the J Infect Chemother Surviving Sepsis Campaign guidelines. 2014 ; 20:115-120.

Ogura H, Gando S, Saitoh D, Takeyama N, Kushimoto S, Fujishima S, Mayumi T, Araki T, Ikeda H, Kotani J, Miki Y, Shiraishi S, Suzuki K, Suzuki Y, Takuma K, Tsuruta R, Yamaguchi Y, Yamashita N, Aikawa N. Epidemiology of severe sepsis in Japanese intensive care units: a prospective multicenter J Infect Chemother study. 2014 ; 20:157-162

形成外科

Hatano A, Kobayashi T, Fukuzumi S, Shirakashi Y, Nishimura C, Gomi H, Saiga H, Hayakawa K. Giant vascular eccrine spiradenoma mimicking calcifying epithelioma. J Dermatol. 2013 ; 40:853-854.

Hatano A, Nagasao T, Shimizu Y, Jin H, Kaneko T, Cho Y, Jiang H, Kishi K. A biomechanical study regarding the effect of tissue harvesting from the thorax on its movement during inspiration. Comput Aided Surg. 2013 ; 18:118-128.

呼吸器外科

青木耕平, 澤藤 誠, 神山育男, 江口圭介, 大森 泰, 成松芳明. 特発性線維性縦隔炎による上大静脈症候群に合併した Downhill esophageal varices の1例. 日呼外会雑誌. 2013 ; 27:642-649.

Eguchi K, Sawafuji M. Surgical management of a patient with bilateral multiple pulmonary epithelioid hemangioendothelioma: report of a case. Surgery Today. 2014 ; Epub ahead of print:

心臓血管外科

Mediastinal schwannoma diagnosed preoperatively as a cyst. Taguchi S, Mori A, Suzuki R, Hasegawa I, Sato H, Sugiura H, Irie R. Tex Heart Inst J. 2014 Feb; 41(1):76-9. doi:10.14503/THIJ-12-2760. PMID:24512408[PubMed-indexed for MEDLINE] Free PMC Article

Technique for using pedicled latissimus dorsi muscle flaps to wrap prosthetic in an infected thoracic aorta. Taguchi S, Mori A, Suzuki R, Ishida O. Ann Vasc Surg. 2013 Nov; 27(8):1223-7. doi:10.1016/j.avsg.2013.04.09. Epub 2013 Sep 5. PMID:24012091[PubMed-indexed for MEDLINE]

Simplicity, skills, and pitfalls of ascending aortic cannulation for type A aortic dissection. Taguchi S, Mori A, Suzuki R, Ishida O. J Cardiothorac Surg. 2013 Jun 26; 8:161. doi:10.1186/1749-8090-8-161. PMID:23803285[PubMed-indexed for MEDLINE] Free PMC Article

Intravenous Lobular Capillary Hemangioma Occurring after Needle Insertion during Routine Health Checkup. Taguchi S, Kakefuda T, Ono S, Matsuda S, Mori A, Narimatsu Y, Hasegawa I, Sato H, Tsukada J, Sugiura H, Irie R. Ann Vasc Dis. 2013; 6(1):102-5. doi:10.3400/avd. cr.12.00089. Epub 2013 Feb 28. PMID:23641295[PubMed] Free PMC Article

Resection of an intrapericardial lipoma with nonsustained ventricular tachycardia. Taguchi S, Mori A, Suzuki R, Isida O, Hasegawa I, Irie R. J Card Surg. 2013

May;28(3):268–70.doi:10.1111/jocs.12095Epub 2013May 28.PMID:23534611[PubMed-indexed for MEDLINE]

Malignant solitary fibrous tumor of the left ventricular epicardium.Taguchi S,Mori A,Yamabe K,Suzuki R,Nisizawa K,Hasegawa I,Irie R,Ann Thorac Surg 2013 Apr ;95(4):1447–50.doi:10.1016/j.athoracsurg.2012.08.033.PMID:23522212[PubMed-indexed for MEDLINE]

小児科

須原理恵子, 本田 堯, 一色恭平, 原 香織, 木津りか, 番場正博. 家族内発症がみられ、自宅の改築が有効であった夏型過敏性肺臓炎の1男児例. 日本小児呼吸器学会雑誌. 2013 ; 24:138–143.
原 香織, 本田 堯, 一色恭平, 安原理恵子, 木津りか, 番場正博, 広瀬宏之. ムコ多糖症Ⅱ型 (Hunter 症候群)重症型の3例. 小児科臨床. 2014 ; 64:421–426.

整形外科

Horiuchi Y, Tazaki K, Takayama S, Matsumura T. Surgical treatment of spontaneous anterior interosseous nerve palsy: a comparison between minimal incision surgery and wideincision surgery. J Plast Surg Hand Surg. 2013 ; 47:213–218.
Ochi K, Horiuchi Y, Tazaki K, Takayama S, Nakamura T, Satoh K. Slow progression predicts poor prognoses in patients with spontaneous posterior interosseous nerve palsy. J Plast Surg Hand Surg. 2013 ; 47:493–497.
Ochi K, Horiuchi Y, Morisue H, Harato K, Tanikawa H, Okubo M. Association between the disease severity and extraneural pressure induced by maximum elbow flexion in patients with cubital tunnel syndrome. J Plast Surg Hand Surg. 2013 ; 47:219–223.
堀内孝一, 堀内行雄, 越智健介, 河野友祐, 中道憲明. 偽性神経腫を伴った両側橈骨管症候群の1例. 日肘会誌. 2013 ; 20:239–241.
原藤健吾, 谷川英徳, 森重雄太郎, 小柳貴裕, 堀内行雄, 大谷俊郎. 変形性膝関節症に対する人工膝関節全置換術前に施行している糖尿病管理. 整形外科. 2013 ; 64:1357–1360.
堀内行雄. 専門医試験をめざす症例問題トレーニング 手関節・手疾患 (外傷を含む). 整形外科. 2013 ; 65:83–90.
越智健介, 堀内行雄, 堀内孝一, 河野友祐, 森田晃造, 森澤 妥, 佐藤和毅, 中村俊康. 肘部管症候群における尺骨神経伸張度—病態との関連—. Peripheral Nerve. 2013 ; 24:388–389.
堀内孝一, 越智健介, 須佐美知郎, 堀内行雄, 別所祐貴, 河野友祐. Von Recklinghausen 病に発症した悪性末梢神経鞘腫瘍の1例. Peripheral Nerve. 2013 ; 24:394–395.
堀内行雄. 母指 MP 関節ロッキング. 整形外科サージカルテクニック. 2013 ; 4:66–70.
堀内孝一, 堀内行雄, 越智健介, 河野友祐, 中道憲明, 別所祐貴. Heberden 結節のアンケート調査. 日手会誌. 2013 ; 30:776–778.
金田和也, 小柳貴裕, 梅津太郎, 浅野拓行, 磯貝宜広, 橋田祐樹, 堀内孝一, 別所祐貴, 金子康仁, 原藤健吾, 中道憲明, 堀内行雄. Crowned Dens Syndrome の小経験. 神奈川整形災害外科研究会雑誌. 2014 ; 26:117–119.

飯田 剛, 小柳貴裕, 金田和也, 清水英徳, 堀内孝一, 別所祐貴, 金子康仁, 原藤健吾, 中道憲明, 堀内行雄. ワーファリン内服患者で外傷性頸椎脱臼による硬膜外血腫を生じ、頸髄損傷を来した1例(原著論文). 神奈川整形災害外科研究会雑誌. 2014 ; 26:103–106.

Harato K, Yoshida H, Otani T. Asymmetry of the leg alignment affects trunk bending in the coronal plane after unilateral total knee arthroplasty. J Arthroplasty. 2013 ; 28:1089–93.

harato K, Ozaki M, Sakurai A, Kudo Y, Otani T. Stress fracture of the first metatarsal after total knee arthroplasty: two case reports using gait analysis. Knee. 2014 ; 21:328–331.

Harato K, Nagura T, Matsumoto H, Otani T, Toyama Y, Suda Y. Asymmetry of the knee extension deficit in standing affects weight-bearing distribution in patients with bilateral end-stage knee osteoarthritis. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 ; Epub ahead of print:

原藤健吾. 高齢者におけるAO/OTA 分類 41–C1 を呈した脛骨近位不顕性脆弱性骨折の経験. 整形外科. 2013 ; 64:421–423.

原藤健吾, 名倉武雄, 大谷俊郎. 人工膝関節置換術における矢状面アライメント:伸展制限が立位バランスへ及ぼす影響. 整形・災害外科. 2013 ; 56:1035–1041.

原藤健吾. 変形性膝関節症患者に対する人工膝関節全置換術前に施行している糖尿病管理. 整形外科. 2013 ; 64:1357–1360.

金子陽介, 森重雄太郎, 大久保 匡, 原藤健吾, 谷川英徳. 人工膝関節置換術における駆血使用方法が与える影響について. JOSKAS. 2013 ; 38:228–229.

Tanikawa H, Matsumoto H, Harato K, Kiriya Y, Suda Y, Toyama Y, Nagura T. Female recreational athletes demonstrate different knee biomechanics from male counterparts during jumping rope and turning activities.. J Orthop Sci. 2014 ; 19:104–111.

内科・総合診療科

福岡聖大, 宮川義隆, 鈴木貴博, 入江理恵, 栗原佑一, 岡野 裕, 秋月哲史. 全身の皮膚に浸潤した芽球形形質細胞様樹状細胞腫瘍の1例. 癌と化学療法. 2013; 40:1255–1258.

Nishizawa K, Yanagida S, Yamagishi T, Takayama E, Bessho M, Kusuhara M, Adachi T, Ohsuzu F. Continuous inhibition of poly (ADP-ribose) polymerase does not reduce reperfusion injury in isolated rat heart. J Cardiovasc Pharmacol. 2013; 62:99–105.

坂本光男. 【感染症症候群(第2版)[下]-症候群から感染性単一疾患までを含めて-】腹膜炎、肝・胆道系感染症、脾臓感染症、消化管感染症 消化管感染症 腸管感染症・食中毒 細菌性胃腸炎(解説/特集). 日本臨床. 2013; 別冊感染症症候群(下):317–320.

坂本光男. 【unified airway からみた鼻副鼻腔病変】気道疾患に対する治療戦略 抗ウイルス薬の使い方(解説/特集). JOHNS. 2013; 29:886–888.

Hasegawa Y, Sasaki N, Yamada K, Ono H, Kumai J, Tsumura K, Suzuki K, Nozaki H, Nakayama H, Takumi I, Nikaido H, Katabami T, Ueda T, Suzuki S, Iwai R, Takahashi H, Shigeno T. Prediction of thrombolytic therapy after stroke bypass transportation: the maria prehospita stroke scale score. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2013; 22:514–519.

Miyazaki M, Nakamura H, Chubachi S, Sasaki M, Haraguchi M, Yoshida S, Tsuduki K, Shirahata T, Takahashi S, Minematsu N, Koh H, Nakamura M, Sakamaki F, Terashima T, Sayama K, Jones PW, Asano K, Betsuyaku T, [Keio COPD Comorbidity Research (K-CCR) Group]. Analysis of comorbid factors that increase the COPD assessment test scores. Respir Res. 2014; 15:13-.doi:10.1186/1465-9921-15-13.

田中希宇人, 猶木克彦, 扇野圭子, 石岡宏太, 佐山宏一, 別役智子. 喀痰の鏡検で診断されたウエステルマン肺吸虫症の1例. 日呼吸誌. 2013; 2:633–636.

Miyata J, Tasaka S, Miyazaki M, Yoshida S, Naoki K, Sayama K, Asano K, Fujiwara H, Ohkusa K, Hasegawa N, Betsuyaku T. Bacillus cereus necrotizing pneumonia in a patient with nephrotic syndrome. Intern Med. 2013; 52:101–104.

Kamata H, Koh H, Okubo Y, Kunimoto H, Chiyotani A, Sayama K, Hasegawa N, Mukai M. Antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis involving diffuse alveolar hemorrhage, rapidly progressive glomerulonephritis and hypereosinophilia. Intern Med. 2013; 52:2253–2257.

津村和大. 日本糖尿病協会療養指導学術集会総合まとめセッション「職種間連携の象徴として」. DM Ensemble. 2013; 2:39-40.

脳神経外科

Kohanbash G, McKaveney K, Sakaki M, Ueda R, Mintz AH, Amankulor N, Fujita M, Ohlfest JR, Okada H. GM-CSF promotes the immunosuppressive activity of glioma-infiltrating myeloid cells through interleukin-4 receptor- α . Cancer Research. 2013 ; 73:6413-6423.

竹中信夫. 勤務医であり続けたわけ. 神奈川県医師会勤務医部会報. 2014; 14:48-49.

泌尿器科

Kaneko G, Miyajima A, Yuge K, Hasegawa M, Takeda T, Jinzaki M, Kikuchi E, Nakagawa K, Oya M. Periprostatic fat area is an independent factor that prolonged operative time in laparoscopic radical prostatectomy. Urology. 2013 ; 82:1304-1309.

中川 健, 宮嶋 哲, 金子 剛, 宮崎保匡, 服部盛也, 大家基嗣. 副腎疾患に対する単孔式腹腔鏡手術の検討. Japanese Journal of Endourology. 2013 ; 26:54-56.

皮膚科

栗原佑一, 田中京子, 宮川俊一, 早川和人. 汎発性限局性強皮症の1例. 臨床皮膚科. 2013 ; 67:965-970.

放射線診断科

Taguchi S, Mori A, Suzuki R, Hasegawa I, Sato H, Sugiura H, Irie R.. Mediastinal schwannoma diagnosed preoperatively as a cyst.. Tex Heart Inst J. 2014 ; 41:76-79.

Taguchi S, Kakefuda T, Ono S, Matsuda S, Mori A, Narimatsu Y, Hasegawa I, Sato H, Tsukada J, Sugiura H, Irie R.. Intravenous lobular capillary hemangioma occurring after needle insertion during routine health checkup. Ann Vasc Dis. 2013 ; 6:102-105.

Taguchi S, Mori A, Suzuki R, Ishida O, Hasegawa I, Irie R.. Resection of an intrapericardial lipoma with nonsustained ventricular tachycardia. J Card Surg. 2013 ; 28:268-270.

Taguchi S, Mori A, Yamabe K, Suzuki R, Nishizawa K, Hasegawa I, Irie R.. Malignant solitary fibrous tumor of the left ventricular epicardium. Ann Thorac Surg.. 2013 ; 95:1447-1450.

麻酔・集中治療部

増田香織, 豊永晋也, 若宮里恵, 鈴木武志, 森田慶久, 増田純一. 全身麻酔後に呼吸不全を呈し死亡に至った筋萎縮性側索硬化症患者の一例. 神奈川医学会雑誌 . 2013 ; 40:301-301.

増田純一, 福田瑠美, 高山 渉, 増田祐也, 森田慶久. アンケート調査にみる歯科麻酔科医師の医科麻酔科研修の現状. 臨床麻酔. 2013 ; 37:1661-1666.

安藤嘉門, 菊池亜矢, 竹口有美, 池上直行, 安藤英二, 窪 孝充, 玉井 直. 敗血症性ショック患者での心肺蘇生時における ScvO₂ の変化. 日本集中治療医学会誌. 2013 ; 20:635-636.

梶谷美砂, 三輪桜子, 菅 規久子, 高山 渉, 鈴木武志, 増田純一. リユースバイトブロックの内筒が気道内遺物となった1症例. 日本臨床麻酔学会誌. 2014 ; 34:81-85.

倉住拓弥, 鈴木武志, 森田慶久, 増田純一. 成人三心房心合併した僧房弁閉鎖不全患者の緊急手術において術中経食道エコー検査による診断が有用であった1症例. 麻酔. 2014 ; 63:333-337.

石川紗希, 山田達也, 坂口了太, 羽鳥英樹, 森崎 浩. もやもや病患者における僧帽弁形成術の麻酔経験. 麻酔. 2014 ; 63:341-345.

安藤嘉門, 増田純一. 硬膜外麻酔の晩期合併症. 日本医事新報. 2014 ; 4689:59-60.

薬剤部

小林 岳. 経営に貢献できる医療情報管理のあり方 第1回. 最新医療経営 Phase 3. 2014; 2014 年1月号:44-45.

小林 岳. 経営に貢献できる医療情報管理のあり方 第2回. 最新医療経営 Phase 3. 2014; 2014 年2月号:44-45.

小林 岳. 経営に貢献できる医療情報管理のあり方 第3回. 最新医療経営 Phase 3. 2014; 2014 年3月号:44-45.

小林 岳. 経営に貢献できる医療情報管理のあり方 第4回. 最新医療経営 Phase 3. 2014; 2014 年4月号:46-47.

6. 学会

リハビリテーション科

小島 厳, 佐藤栄司, 金田和也, 鎌田泰裕, 森重雄太郎, 原藤健吾. 人工膝関節置換術後患者の退院時における疼痛改善に影響する因子は何か?. 第44回日本人工関節学会. 2014年2月. 沖縄県宜野湾市.

外科

岡村 亮, 和多田 晋, 井上 和茂, 田中 求, 萬谷京子, 星本相淳, 壁島康郎, 小柳和夫, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 消化管出血のためショックをきたした小腸 GIST の1例. 第50回腹部救急医学会. 2014年3月. 東京都.

星本相淳. 早期癌を含めた乳頭部腫瘍局所切除の適応基準の検討—主膵管径からみた主膵管進展評価の妥当性—. 第68回日本消化器外科学会総会. 2013年7月. 宮崎市.

市東昌也. 膵頭十二指腸切除術後の合併症対策. 第25回日本肝胆膵外科学会. 2013年6月. 宇都宮市.

市東昌也. 膵頭十二指腸切除術後の短期・長期合併症に対する予防策. 第68回日本消化器外科学会. 2013年7月. 宮崎市.

和多田 晋, 岡村 亮, 掛札敏裕, 鳥飼幸秀, 成松芳明, 松原健太郎, 尾原秀明, 北川雄光. 回収可能型下大静脈フィルター抜去に難渋した1例. 第34回日本静脈学会. 2014年3月. 沖縄県名護市.

壁島康郎, 田中 求, 和多田 晋, 萬谷京子, 星本相淳, 小柳和夫, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 安全な腹腔鏡下低位前方切除術のための直腸解剖とcircular stapler 選択基準. 第114回日本外科学会. 2014年4月. 京都市. 抄録:日本外科学会雑誌. 2014(臨時増刊号); 115: 673.

小柳和夫, 田中 求, 壁島康郎, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 胸腔鏡下食道切除術における腹臥位と左側臥位の比較. 第114回日本外科学会. 2014年4月. 京都市. 抄録:日本外科学会雑誌. 2014(臨時増刊号); 115: 351.

桑原 強, 市東昌也, 田中 求, 和多田 晋, 萬谷京子, 星本相淳, 壁島康郎, 小柳和夫, 相浦浩一, 掛札敏裕, 田熊清継. 外傷性総腸骨動脈閉塞を合併した小腸およびS状結腸間膜損傷の一救命例. 第50回日本腹部救急医学会総会. 2014年3月. 東京都. 抄録: 日本腹部救急医学会雑誌. 34, (2); 559.

佐藤順一郎, 星本相淳, 田中 求, 和多田 晋, 萬谷京子, 壁島康郎, 小柳和夫, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 当科で経験した閉鎖ヘルニア9例の検討. 第50回日本腹部救急医学会総会. 2014年3月. 東京都. 抄録:日本腹部救急医学会雑誌. 34, (2); 554.

井上和茂, 市東昌也, 田中 求, 和多田 晋, 壁島康郎, 星本相淳,, 萬谷京子, 相浦浩一, 掛札敏裕. 広範囲胃切除術後 Braun 吻合部に生じた腸重積の1例. 第50回日本腹部救急医学会総会. 2014年3月. 東京都. 抄録:日本腹部救急医学会雑誌. 34, (2); 477.

壁島康郎, 田中 求, 和多田 晋, 萬谷京子, 星本相淳, 小柳和夫, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 当院における絞扼性腸閉塞に対する術前診断とその治療成績. 第50回日本腹部救急医学会総会. 2014年2月. 東京都. 抄録:日本腹部救急医学会雑誌. 34, (2); 381.

壁島康郎, 田中 求, 和多田 晋, 萬谷京子, 星本相淳, 小柳和夫, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 大腸癌に対する Reduced Port Surgery (3port) の安全性と有用性の検討. 第 26 回小切開・鏡視外科学会. 2013 年 10 月. 東京都. 抄録: 小切開・鏡視外科学会雑誌, 2013; 4: 45.

市東昌也, 相浦浩一, 星本相淳, 田中 求, 和多田 晋, 萬谷京子, 壁島康郎, 小柳和夫, 掛札敏裕. 術後腹腔内再発を認めながらも長期生存している肝原発巨大類上皮血管内皮腫の 1 例. 第 75 回日本臨床外科学会総会. 2013 年 10 月. 名古屋市. 抄録: 日本臨床外科学会雑誌. 2013; 74: 872.

樋口 格, 小柳和夫, 田中 求, 和多田 晋, 萬谷京子, 星本相淳, 壁島康郎, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕, 大森 泰. 胃 Neuroendocrine tumor 12 例の検討. 第 75 回日本臨床外科学会総会. 2013 年 10 月. 名古屋市. 抄録: 日本臨床外科学会雑誌, 2013; 74: 722.

壁島康郎, 掛札敏裕. 低位前方切除術における縫合不全減少を目指した切離吻合法. 第 75 回日本臨床外科学会総会. 2013 年 10 月. 名古屋市. 抄録: 日本臨床外科学会雑誌, 2013; 74: 429.

小柳和夫, 田中 求, 壁島康郎, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 細径鉗子を用いた上部食道牽引による腹臥位胸腔鏡下食道切除術リンパ節郭清の工夫. 第 75 回日本臨床外科学会総会. 2013 年 10 月. 名古屋市. 抄録: 日本臨床外科学会雑誌, 2013; 74: 345.

萬谷京子, 徳田敏樹, 西村絵美, 岡村 亮, 井上和茂, 佐藤順一郎, 樋口 格, 桑原 強, 田中 求, 和多田 晋, 星本相淳, 壁島康郎, 小柳和夫, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 若手外科医に腋窩リンパ節郭清術を伝える方法とその効果についての検討～自作の立体模型を併用して～. 第 75 回日本臨床外科学会総会. 2013 年 10 月. 名古屋市. 抄録: 日本臨床外科学会雑誌. 2013; 74: 317.

小柳和夫, 掛札敏裕, 大森 泰. 胃内視鏡的粘膜下層剥離術における糸付きクリップ牽引法の有効症例の検討. 第 86 回日本消化器内視鏡学会総会. 2013 年 9 月. 東京都. 抄録: Gastroenterol Endosc 2013; 55 (Suppl): 2728.

松田信作, 小野滋司, 掛札敏裕, 田口眞一. 健康診断時の針刺しが原因と考えられる Intravenous Lobular Capillary Hemangioma の 1 手術例. 川崎市医師会医学会. 2013 年 8 月. 川崎市. 抄録: 川崎市医師会医学会誌. 2013; 30: 21.

樋口 格, 小柳和夫, 相浦浩一, 市東昌也, 壁島康郎, 星本相淳, 小野滋司, 佐藤知美, 田中 求, 掛札敏裕, 杉浦 仁, 大森 泰. 胃 mixed adenoneuroendocrine carcinoma の 1 例. 第 96 回日本内視鏡学会関東支部地方会. 2013 年 6 月. 東京都. 抄録: Prog Dig Endosc 2013; 82: 140.

森 一洋, 小柳和夫, 平岩訓彦, 相浦浩一, 市東昌也, 壁島康郎, 星本相淳, 田中 求, 掛札敏裕, 杉浦 仁, 大森 泰. 食道アカラシア術後の異時性・多発性食道表在癌の 1 例. 第 96 回日本内視鏡学会関東支部地方会. 2013 年 6 月. 東京都. 抄録: Prog Dig Endosc 2013; 82: 102.

関本康人, 尾原秀明, 田中克典, 藤井 琢, 大田原正幸, 北川雄光, 掛札敏裕, 小野滋司, 内田智夫, 朝見淳規, 長崎和仁, 林 忍, 渋谷慎太郎, 秋好沢林, 大住幸司, 庄司高裕, 原田裕久. 抗血小板薬内服は遠隔期 Type2 エンドリークの発生に寄与するか?. 第 41 回日本血管外科学会. 2013 年 4 月. 大阪市. 抄録: 日本血管外科学会雑誌, 2013; 22: 234.

尾原秀明, 田中克典, 関本康人, 藤井 琢, 大田原正幸, 林 忍, 渋谷慎太郎, 北川雄光, 掛札敏裕, 小野滋司, 内田智夫, 朝見淳規, 長崎和仁, 秋好沢林, 大住幸司, 庄司高裕, 原田裕久. EVAR の治療成績と IFU の検証—ゼロからのスタートを振り返って—. 第 41 回日本血管外科学会. 2013 年 4 月. 大阪市. 抄録: 日本血管外科学会雑誌. 2013; 22: 203.

壁島康郎, 田中 求, 星本相淳, 小柳和夫, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 授動湾曲搭載細極細径大腸内視鏡 PCF-PQ260L/1 の挿入性の検討. 第 86 回日本消化器内視鏡学会総会. 2013 年 4 月. 東京都. 抄録: Gastroenterol Endosc 2013; 55 (Suppl) : 1280.

田中 求, 小柳和夫, 掛札敏裕, 相馬啓子, 杉浦 仁. 術前の DCF 療法により切除しえた進行食道癌と舌扁平上皮癌の同時性重複癌の 1 例. 第 67 回日本食道学会学術集会. 2013 年 6 月. 大阪市.

看護部

石田直樹. 行動制限最小化への取り組み. 第 38 回日本精神科看護学術集会. 2013 年 6 月. 仙台市.

西森春江. 患者から暴行行為を受けた看護師の援助要請と精神的健康. 第 44 回日本看護学会—精神看護—. 2013 年 6 月. 前橋市.

田中礼子. NICU における騒音調査. 第 52 回全国自治体病院学会. 2013 年 10 月. 京都市.

塚田千代. 救命救急センター看護師が語る救急看護. 第 15 回日本救急看護学会学術集会. 2013 年 10 月. 福岡市.

尾崎文人. 救命救急センター看護師心肺停止状態で搬送された患者家族へのケア. 第 44 回日本救急看護学会学術集会. 2013 年 10 月. 和歌山市.

坂本利恵子. インホームドコンセントツールにおける患者用クリニカルパスの有用性と活用の実例. 第 14 回クリニカルパス学会学術集会. 2013 年 11 月. 盛岡市.

眼科

Yaguchi Y, Negishi K, Saiki M, Torii H, Shimizu T, Tsubota K. Comparison of the accuracy of intraocular lens power calculations for cataract surgery in eyes that underwent phototherapeutic keratectomy.. The 31st The European Society of Cataract and Refractive Surgeons (ESCRS) 2013 Annual Congress. 2013 年 10 月. アムステルダム(オランダ).

大西英之, 鳥居秀成, 渡辺一弘, 清水 努, 佐伯めぐみ, 根岸一乃, 坪田一男. 2 種類のマーキング法による乱視矯正眼内レンズの治療成績の比較. 第 49 回日本眼光学学会. 2013 年 9 月. 京都市.

大西英之, 鳥居秀成, 渡辺一弘, 清水 努, 佐伯めぐみ, 根岸一乃, 坪田一男. 異なるマーキング法による乱視矯正眼内レンズの回旋誤差の比較. 第 28 回 JSCRS 学術総会. 2013 年 6 月. 千葉市.

救急科

田熊清継. Surviving Sepsis Campaign Guidelines 2012 抗菌化学療法. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

田熊 清継, 大城 健一, 箕輪良行, 和田崇文, 松田 潔, 黒川 顕, 阪田 歩, (川崎市メディカルコントロール協議会). シンポジウム: セーフティネットとしての救急医療 救命救急型と ER 型とのコラボレーション 川崎市の救命救急センター 3 施設における「救急車ダイバージョン (diversion)」施行の報告. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

伊藤壮一, 土井賢治, 齋藤 豊, 郷内志朗, 高橋俊介, 大城健一, 田熊清継. ER は初期研修医の Handoff 能力をトレーニングする最適な場所になりえるか?. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

高橋俊介, 伊藤壮一, 大城健一, 春成 学, 進藤 健, 近藤英樹, 権守 智, 竹村成秀, 齋藤 豊, 郷内志朗, 田熊清継. 市立 2 病院における共有カルテ導入を含めた救急医療に対する取り組み. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

郷内志朗, 進藤 健, 近藤英樹, 権守 智, 竹村成秀, 庄司 清, 齋藤 豊, 大城健一, 高橋俊介, 伊藤壮一, 田熊清継. Horse-related injury の 24 症例. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

大城健一, 齋藤 豊, 進藤 健, 近藤英樹, 権守 智, 竹村成秀, 郷内志朗, 高橋俊介, 伊藤壮一, 田熊清継. 全ての医療従事者で共有しうる緊急度評価法の開発 ARE U OK? アプローチ (R) による緊急度概念の構造化の試み. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

齋藤 豊, 春成 学, 進藤 健, 権守 智, 近藤英樹, 竹村成秀, 大城健一, 郷内志朗, 高橋俊介, 伊藤壮一, 田熊清継. 当院における子ども虐待症例スクリーニングの特徴と検討. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

竹村成秀, 金尾邦生, 近藤英樹, 権守 智, 進藤 健, 齋藤 豊, 郷内志朗, 大城健一, 高橋俊介, 伊藤壮一, 田熊清継. 川崎市南部地域における脱法ハーブ症例の特徴. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

権守 智, 伊藤壮一, 田熊清継, 宮崎 大, 田原良雄, 長尾 健, 矢口有乃, 森村尚登, (SOS KANTO 2012 study group). 心肺停止からアドレナリン投与までの時間と予後について (SOS KANTO 2012 study 中間解析報告). 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

近藤英樹, 伊藤壮一, 金尾邦生, 高橋俊介, 郷内志朗, 大城健一, 齋藤 豊, 竹村成秀, 権守 智, 進藤 健, 田熊清継. 当院における PCPS 導入症例の検討. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

進藤 健, 金尾邦生, 伊藤 壮一, 権守 智, 竹村成秀, 齋藤 豊, 大城健一, 郷内志朗, 高橋俊介, 春成 学, 田熊清継. より良い軽症頭部外傷のクリニカルパスを目指して GCS14 と 15 の差異を中心に. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

春成 学, 土井賢治, 齋藤 豊, 大城健一, 郷内志朗, 高橋俊介, 伊藤壮一, 田熊清継. 救急搬送された小児交通外傷の検討. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

土井賢治, 大城健一, 伊藤壮一, 高橋俊介, 郷内志朗, 齋藤 豊, 竹村成秀, 権守 智, 近藤英樹, 進藤 健, 田熊清継. 救急指向型初期臨床研修オリエンテーション 研修医ニーズ評価に基づいたプログラムによる救急医学への興味・学習の動機付け. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

金尾邦生, 進藤 健, 近藤英樹, 権守 智, 竹村成秀, 齋藤 豊, 大城健一, 郷内志朗, 高橋俊介, 伊藤壮一, 田熊清継. ER 滞在中に再出血を生じたと考えられた内因性くも膜下出血症例の検討. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

多村知剛, 鈴木 昌, 田熊清継, 堀 進悟. 大動脈緊急症における仰臥位胸部 X 線像の縦隔胸郭径比. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

佐々木淳一, 田熊清継, 藤島清太郎, 堀 進悟. 重症敗血症への挑戦 重症敗血症の予後改善を目指すために ER でできること 教育的視点で考える SSC bundle 感染項目の重要性. 第 16 回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 2013 年 7 月. 東京都.

樋口良平, 安田 浩, 楠本健司, 池田弘人, 齋藤大蔵, 上山昌史, 松村 一, 田熊清継, 猪口貞樹, (日本熱傷学会学術委員会). 熱傷レジストリー(報告1)登録概要・機能再建例. 第 39 回日本熱傷学会総会・学術集会. 2013 年 6 月. 沖縄県名護市.

池田弘人, 齋藤大蔵, 上山昌史, 松村 一, 樋口良平, 安田 浩, 楠本健司, 田熊清継, 猪口貞樹, (日本熱傷学会学術委員会). 熱傷レジストリー(報告2)新鮮熱傷手術例・同種植皮. 第 39 回日本熱傷学会総会・学術集会. 2013 年 6 月. 沖縄県名護市.

上山昌史, 松村 一, 樋口良平, 安田 浩, 楠本健司, 池田弘人, 齋藤大蔵, 田熊清継, 猪口貞樹, (日本熱傷学会学術委員会). 熱傷レジストリー(報告3)気道熱傷・小児・高齢者. 第 39 回日本熱傷学会総会・学術集会. 2013 年 6 月. 沖縄県名護市.

織田 順, 佐々木淳一, 春成伸之, 田熊清継, 鳴海篤志, 武田多一, 齋藤大蔵, 田中秀治, 塩野茂, (日本熱傷学会 ABLS 特別委員会). ABLS コース8回開催後のプロバイダー分析. 第 39 回日本熱傷学会総会・学術集会. 2013 年 6 月. 沖縄県名護市.

小倉裕司, 丸藤 哲, 齋藤大蔵, 武山直志, 久志本成樹, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 荒木恒敏, 池田弘人, 小谷穰治, 白石振一郎, 鈴木幸一郎, 鈴木 泰, 田熊清継, 鶴田良介, 三木靖雄, 山口芳裕, 山下典雄, 相川直樹, (日本救急医学会 sepsis registry 特別委員会). 敗血症(セブシス)治

療の標準化 日本における敗血症(セブシス)の疫学 海外との比較. 第 26 回日本外科感染症学会学術集会. 2013 年 11 月. 神戸市.

齋藤大蔵, 丸藤 哲, 藤島清太郎, 小谷穰治, 荒木恒敏, 池田弘人, 小倉裕司, 久志本成樹, 白石振一郎, 鈴木幸一郎, 鈴木 泰, 田熊清継, 武山直志, 鶴田良介, 真弓俊彦, 三木靖雄, 山下典雄, 山口芳裕, 相川直樹, (日本救急医学会 sepsis registry 特別委員会). 敗血症(セブシス)治療の標準化 日本における敗血症(セブシス)の治療 日本救急医学会多施設共同研究に基づいて. 第 26 回日本外科感染症学会学術集会. 2013 年 11 月. 神戸市.

田熊清継. シンポジウム: 重症皮膚軟部組織感染症 感染菌による所見の相違と治療戦略. 第 26 回日本外科感染症学会学術集会. 2013 年 11 月. 神戸市.

桑原 強, 市東昌也, 田中 求, 和多田 晋, 萬谷京子, 星本相淳, 壁島康郎, 小柳和夫, 相浦浩一, 田熊清継, 掛札敏裕. 外傷性総腸骨動脈閉塞を合併した小腸および S 状結腸間膜損傷の一救命例. 第 50 回日本腹部救急医学会総会. 2014 年 3 月. 東京都.

田熊清継. Surviving Sepsis Campaign Guidelines 2012. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

田熊清継. Surviving Sepsis Campaign Guidelines 2012: 日本救急医学会 sepsis registry の分離菌から考える抗菌化学療法. 第 64 回日本救急医学会関東地方会学術集会. 2014 年 2 月. 横浜市.

形成外科

畑野麻子. 胸部の正確な解剖学的個性を反映しうる、新しい漏斗胸手術シミュレーションシステムの開発. 第 22 回日本形成外科学会基礎学術集会. 2013 年 11 月. 新潟市.

検査科

垣本操男, 相馬響子, 金家明美. 発熱と肝脾病変を呈した猫ひつかき病の 1 例. 第 38 回日本超音波学会学術集会. 2013 年 6 月. 松山市.

中野夏子, 中澤温子, 入江理恵, 岡岡健太郎, 中村直哉. Alagille 症候群・肝移植症例の病理学的検討. 第 102 回日本病理学会総会. 2013 年 6 月. 札幌市.

横屋瀬里香, 坂井 瞳, 鈴木玲子, 鍋木友子, 入江理恵, 杉浦 仁. 心膜に発生した孤立性線維性腫瘍(solitary fibrous tumor)の 1 例. 第 54 回日本臨床細胞学会総会(春期大会). 2013 年 6 月. 東京都.

坂井 瞳, 横屋瀬里香, 杉山早絵, 鈴木玲子, 鍋木友子, 入江理恵, 杉浦 仁. 髄液検体における当院での取り組み—免疫染色の有用性. 第 32 回日本臨床細胞学会神奈川県支部学術集会. 2013 年 9 月. 相模原市.

大庭優希, 守屋久子, 金家明美, 澤野充明, 深江智明. 当院におけるトレッドミル運動負荷試験と安定型狭心症 の感度・特異度調査. 第 52 回全国自治体病院学会. 2013 年 10 月. 京都市.

筒井麻衣, 川久保博文, 中村理恵子, 高橋常浩, 和田則仁, 才川義朗, 大森 泰, 杉浦 仁, 竹内裕也, 北川雄光. 下咽頭表在癌における EMT 誘導因子 HOXB9 の免疫組織学的発現の検討. 第 51 回日本癌治療学会学術集会. 2013 年 10 月. 京都市.

横屋瀬里香, 杉山早絵, 坂井 瞳, 鈴木玲子, 鍋木友子, 入江理恵, 杉浦 仁. 術後脳転移を起こした乳癌に対する髄液細胞診において HER2 染色が有用であった 1 例. 第 52 回日本臨床細胞学会秋期大会. 2013 年 11 月. 大阪市.

杉山早絵, 横屋瀬里香, 坂井 瞳, 鈴木玲子, 鍋木友子, 入江理恵, 杉浦 仁. 細胞診が診断に有用であった子宮原発悪性リンパ腫の 1 例. 第 52 回日本臨床細胞学会秋期大会. 2013 年 11 月. 大阪市.

呼吸器外科

澤藤 誠, 奥井将之, 神山育男. 気管支動脈塞栓術後も咯血を繰り返し、左肺下葉切除を行った気管支拡張症の 1 例. 第 30 回日本呼吸器外科学会総会. 2013 年 5 月. 名古屋市.

神山育男, 澤藤 誠, 青木耕平. ハーモニックスカルペル(フックタイプ DH105)を用いた安全な肺門部露出法に関する考察. 第 30 回日本呼吸器外科学会総会. 2013 年 5 月. 名古屋市.

神山育男, 澤藤 誠. 巨大気腫性プラに対し TissueLink monopolar sealer を使用した 1 例. 第 30 回日本呼吸器外科学会総会. 2013 年 5 月. 名古屋市.

Eguchi K, Ab:ko T,Kohno M,Sawafuji M,Horio H,Hashizume T,Nakayama M,Kato R,Kawamura M. Intratumoral gene expression of 5-fluorouracil pharmacokinetics related enzymes in stage I and II non-small cell lung cancer patients treated with uracil-tegafur after surgery. The 49th American Society of Clinical Oncology (ASCO) 2013 Annual Meeting. 2013 年 5 月. シカゴ(米国).

江口圭介,堀尾裕俊,橋詰寿律,田島敦志,河野光智,山本学,堀之内宏久,中山光男,加藤良一,川村雅文.原発性非小細胞肺癌完全切除例に対する UFT 感受性因子の予後との関連性に関する検討. 第 54 回日本肺癌学会総会. 2013 年 11 月. 東京都.

歯科口腔外科

安居孝純, 鬼澤勝弘, 軽部健史, 森川 暁, 河奈裕正, 中川種昭. 定期的に分離した高純度歯髄幹細胞による骨形成能の評価. 第 57 回日本口腔外科学会総会. 2013 年 10 月. 福岡市.

軽部健史,安居孝純, 鬼澤勝弘. 増大傾向を示した舌下線による静止性骨空洞の 1 例. 第 57 回日本口腔外科学会総会. 2013 年 10 月. 福岡市.

耳鼻咽喉科

三浦康士郎, 相馬啓子, 坂田絢子. 外傷後の成人機能的難聴の検討. 第 114 回日本耳鼻咽喉科学会. 2013 年 6 月. 札幌市.

相馬啓子, 堀 明美, 國弘幸伸. 母娘ともに発症した交通事故後の機能的難聴例. 第 75 回耳鼻咽喉科臨床学会. 2013 年 7 月. 神戸市.

相馬啓子, 佐藤永通子. 交通事故後に発症した左半側空間無視を伴った機能的難聴の 1 例. 第 58 回日本聴覚医学会. 2013 年 10 月. 長野県松本市.

相馬啓子, 國弘幸伸. 画像上異常を認めない外傷後めまい症例の検討. 第 72 回めまい平衡医学会. 2013 年 11 月. 大阪市.

猪野絢子, 三浦康士郎, 前田俊一. 嗄声、咽喉頭出血をきたした水疱性類天疱瘡の 1 症例. 第 163 回日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会. 2013 年 6 月. 横浜市.

三浦康士郎, 相馬啓子, 猪野絢子. 開頭術後長期経過し、前頭道と交通する硬膜外膿瘍をきたした 1 例. 第 164 回日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会. 2013 年 9 月. 横浜市.

小児科

安藤枝里子, 磯崎 淳, 小張真吾, 菊池信行, 菅井和子, 遠藤順治, 古家 正, 中村陽一. SFC 導入による強制オキシレーション法における呼吸抵抗、リアクタンスの変化. 第 25 回日本アレルギー学会春季臨床大会. 2013 年 5 月. 横浜市.

一色恭平, 原 香織, 安原理恵子, 井手義顕, 木津りか, 本田 堯, 番場 正博. 保存的治療で軽快した挿管後声門下狭窄の 8 歳男児例. 第 323 回日本小児科学会神奈川県地方会. 2013 年 6 月. 横浜市.

Takuro K, Shiraishi M, Shigeki Y, Toshiki K. Efficacy of noncompliant balloon for postoperative pulmonary artery stenosis. 第 49 回日本小児循環器学会学術集会. 2013 年 7 月. 東京都.

石川真由美, 江原和美, 本田 堯, 安藤枝里子, 小島拓朗, 檜林 敦, 松岡 恵, 中尾 歩, 安藏 慎, 番場正博. 処女膜閉鎖による陰瘤血症・卵管瘤膿症の 1 症例. 第 324 回日本小児科学会神奈川県地方会. 2013 年 9 月. 横浜市.

Fuke T, Mizuno S, Nagai T, Hasegawa T, Horikawa R, Miyoshi Y, Muroya K, Kondoh T, Numakura C, Sato S, Nakabayashi K, Matsubara K, Kagami M, Yamazawa K, Ogata T. Molecular and Clinical

Studies in 138 Japanese Patients with Silver–Russell Syndrome. The 9th Joint Meeting of Pediatric Endocrinology. 2013 年 9 月. ミラノ(イタリア).

安藤枝里子, 磯崎 淳, 田中 晶, 小張真吾, 安藏 慎, 菊池信行, 中村陽一. 複数の果物が原因と考えられた食物依存性運動誘発アナフィラキシーの 1 例. 第 50 回日本小児アレルギー学会. 2013 年 10 月. 横浜市.

堀向健太, 津村由紀, 野村伊知郎, 成田雅美, 松本健治, 大矢幸弘. Grade 3 以上の症状発現予測に関するオボムコイド特異的 IgE 抗体価による閾値の検討. 第 50 回日本小児アレルギー学会. 2013 年 10 月. 横浜市.

川口隆弘, 二村昌樹, 世間瀬基樹, 森田久美子, 山本貴和子, 中里純子, 北沢 博, 津村由紀, 須田友子, 野村伊知郎, 成田雅美, 大矢幸弘. 当科での食物アレルギー初診時における食物除去の実態. 第 50 回日本小児アレルギー学会. 2013 年 10 月. 横浜市.

石川真由美, 安藏 慎, 長 秀男. 無意識にコード過剰摂取していた母体から出生した高 TSH 血症の 1 例. 第 47 回日本小児内分泌学会学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

安藏 慎. 教育講演:低出生体重児をどのように大きくすればよいのか? 栄養と成長ホルモン治療の側面からの考察一. 第 58 回日本未熟児新生児学会学術集会. 2013 年 11 月. 金沢市.

江原和美, 本田 堯, 石川真由美, 一色恭平, 小島拓朗, 檜林 敦, 津村由紀, 中尾 歩, 安藏 慎, 番場正博. V2R 遺伝子の全欠失を認めた腎性尿崩症の 1 例. 第 325 回日本小児科学会神奈川県地方会. 2013 年 11 月. 横浜市.

一色恭平, 原 香織, 安原理恵子, 木津りか, 安藏 慎, 番場正博. 保存的治療で軽快した挿管後声門下狭窄の 8 歳男児例. 第 46 回日本小児呼吸器学会. 2013 年 11 月. 佐賀市.

津村由紀, 世間瀬基樹, 二村昌樹, 成田雅美, 大矢幸弘. 食物アレルギー診療の医師教育プログラム運用のこころみ. 第 63 回日本アレルギー学会秋季学術大会. 2013 年 11 月. 東京都.

安藤枝里子, 磯崎 淳, 小張真吾, 菊池信行, 菅井和子, 遠藤順治, 古家 正, 橋場容子, 中村陽一. 気管支喘息患児におけるコントロール評価(C-ACT、JPAC、eNO、呼吸機能検査)の相互間の妥当性. 第 63 回日本アレルギー学会秋季学術大会. 2013 年 11 月. 東京都.

檜林 敦, 高橋弘充, 高口浩一, 木村博典, 松澤一郎, 小林敦史, 香西ひろみ, 小枝伸行, 下村一徳, 平田尚人. 多施設多職種のコラボレーションが協働して作成したカレンダー形式の入院処方ツール. 第 33 回医療情報学連合大会. 2013 年 11 月. 神戸市.

Takuro K, Hideaki S. Efficacy of RDW in the assessment of heart failure in congenital heart disease. The 5th Congress of Asia Pacific Pediatric Cardiac Society. 2014 年 3 月. デリー(インド).

食養科

亀山亜希夫. 当院における NST 活動と専従者としての活動報告. 第 52 回全国自治体病院学会. 2013 年 10 月. 京都市.

清水谷弘美, 金澤美穂, 長澤恵梨子, 内海俊一, 亀山亜希夫, 太田博子, 樋口直美, 伊藤真梨, 村岡香織, 津村和大. 栄養サポートチームによる医療介入が中途終了となった症例の分析. 第 17 回日本病態栄養学会. 2014 年 1 月. 大阪市.

新生児内科

梶原久美子, 住友典子, 金 隆根, 福家智子, 森 和広. 低体温療法導入時の神経学的重症度に変異を認めた重症新生児仮死 2 例の報告. 第 58 回日本未熟児新生児学会. 2013 年 11 月. 金沢市.

住友典子, 金 隆根, 梶原久美子, 福家智子, 森 和広. 新生児遷延性低血糖に無症候性脳出血を合併した 1 例. 第 58 回日本未熟児新生児学会. 2013 年 12 月. 金沢市.

整形外科

堀内行雄, 越智健介, 堀内孝一, 河野友祐, 川島秀一. 特別講演:へバーデン結節・ブシャール結節・母指 CM 関節症治療と予防. 第 56 回日本手外科学研究会学術集会. 2013 年 4 月. 神戸市.

越智健介, 堀内行雄, 田崎憲一, 中村俊康, 佐藤和毅, 桃原茂樹. 特別講演:特発性前骨間神経麻痺および特発性後骨間神経麻痺に対する神経束間剥離術とわれわれの試み. 第 86 回日本整形外科学会学術総会. 2013 年 5 月. 広島市.

越智健介, 堀内行雄, 中村俊康, 佐藤和毅, 松村崇史. 特別講演:長母指伸筋腱を切離しない母指伸展機能再建の試み. 第 56 回日本手外科学会学術集会. 2013 年 4 月. 神戸市.

越智健介, 堀内行雄, 田崎憲一, 中村俊康, 佐藤和毅. 特発性後骨間神経麻痺における麻痺の進行形式と予後との相関. 第 56 回日本手外科学会学術集会. 2013 年 4 月. 神戸市.

堀内孝一, 堀内行雄, 河野友祐, 越智健介, 中道憲明. Heberden 結節のアンケート調査. 第 56 回日本手外科学会学術集会. 2013 年 4 月. 神戸市.

森田晃造, Grunert J, 越智健介, 中村俊康, 堀内行雄. Polyaxial volar locking plating による橈骨遠位端骨折手術に伴う合併症の検討. 第 56 回日本手外科学会学術集会. 2013 年 4 月. 神戸市.

池上博泰, 堀内行雄, 眞宅崇徳, 金子卓雄, 武者芳朗. Stage 3、4 のキーンベック病に対する骨釘移植術—手術後 5 年以上経過例の中期成績—. 第 56 回日本手外科学会学術集会. 2013 年 4 月. 神戸市.

越智健介, 堀内行雄, 堀内孝一, 河野友祐, 森田晃造, 森澤 妥, 佐藤和毅, 中村俊康. 肘部管症候群における尺骨神経伸張度—病態との関連—. 第 21 回日本末梢神経学会. 2013 年 8 月. 新潟市.

堀内孝一, 越智健介, 須佐美知郎, 堀内行雄, 別所祐貴. Von Recklinghausen 病に発症した悪性末梢神経鞘腫瘍の 1 例. 第 21 回日本末梢神経学会. 2013 年 8 月. 新潟市.

高木岳彦, 関 敦仁, 小林由香, 石井崇之, 中村俊康, 池上博泰, 堀内行雄, 持田譲治, 戸山芳昭, 高山真一郎. 内反肘変形に対する Modified Step-cut Osteotomy の成績と Pit Fall. 第 26 回日本肘関節学会. 2014 年 3 月. 東京都.

越智健介, 堀内行雄, 中村俊康, 佐藤和毅, 松村崇史. 長母指伸筋腱を切離さない母指伸展機能再建の試み. 第 56 回日本手外科学会学術集会. 2013 年 4 月. 神戸市.

櫻井愛子. 人工膝関節置換術後早期の回復過程は年齢により差があるか?. 第 86 回日本整形外科学会学術総会. 2013 年 5 月. 広島市.

原藤健吾, 谷川英徳, 森重雄太郎, 河野友祐, 櫻井愛子, 工藤 優, 増本 項, 大谷俊郎. 前十十字靱帯再建術における駆血時間短縮とその評価. 第 5 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS). 2013 年 6 月. 札幌市.

金田和也. 人工膝関節置換術後早期に下肢脆弱性骨折を生じた非関節リウマチ患者の 5 例. 第 39 回日本骨折治療学会. 2013 年 6 月. 福岡県久留米市.

Sakurai A. Age-related recovery process following total knee arthroplasty in the early postoperative period. The International Society for Technology in Arthroplasty (ISTA) 2013 Annual Meeting. 2013 年 10 月. パームビーチ (米国).

Sakurai A. Efficacy and safety of the barbed suture during wound closure in total knee arthroplasty. The International Society for Technology in Arthroplasty (ISTA) 2013 Annual Meeting. 2013 年 10 月. パームビーチ (米国).

原藤健吾. 患者満足度の高い美しい術創部を目指して—人工膝関節置換術の場合—. 第 44 回日本人工関節学会. 2014 年 2 月. 沖縄県宜野湾市.

関 大輔, 原藤健吾, 森重雄太郎, 増本 項, 大谷俊郎. 人工膝関節置換術翌日の疼痛がリハビリテーションに及ぼす影響. 第 5 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS). 2013 年 6 月. 札幌市. 抄録:JOSKAS. 2013; 38: 275.

森重雄太郎, 原藤健吾, 金田和也, 金子陽介, 谷川英徳, 堀内孝一, 河野友祐. 駆血使用方法が人工膝関節置換術の出血量に与える影響について. 第 5 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS). 2013 年 6 月. 札幌市. 抄録:JOSKAS. 2013. 38:150.

金田和也, 原藤健吾, 谷川英徳, 森重雄太郎, 堀内孝一, 大谷俊郎. 大腿骨顆上骨折変形治癒後の変形性膝関節症に対して髄外ガイドを用いて人工膝関節置換術(TKA)を施行した 1 例. 第 5 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS). 2013 年 6 月. 札幌市. 抄録:JOSKAS. 2013. 38: 479.

金田和也, 原藤健吾. 第 5 中足骨粗面部骨端症 (Iselin 病) に対して Cannulated Cancellous Screw を用いて観血的治療を行った 1 例. 第 24 回日本臨床スポーツ医学会. 2013 年 10 月. 熊本市.

市村駿介, 櫻井愛子, 工藤 優, 長島正樹, 原藤健吾, 大谷俊郎. プロゴルファーのスイング解析ゴルフ動作時に膝不安定感が生じない陳旧性 ACL 機能不全症例の検討. 第 24 回日本臨床スポーツ医学会. 2013 年 10 月. 熊本市.

鎌田泰裕. 人工膝関節置換術 (TKA) 施行後に出現した大腿膝蓋関節外側の疼痛に対して膝蓋骨外側部分切除を施行した 1 例. 第 44 回日本人工関節学会. 2014 年 2 月. 沖縄県宜野湾市.

金田和也. 人工膝関節置換術 (TKA) および人工股関節置換術 (THA) 後早期に下肢に脆弱性骨折をきたした 6 例. 第 44 回日本人工関節学会. 2014 年 2 月. 沖縄県宜野湾市.

森重雄太郎. 人工膝関節全置換術後感染に対して Exafine を用いて作成したセメントコンポーネントを挿入した 2 例. 第 44 回日本人工関節学会. 2014 年 2 月. 沖縄県宜野湾市.

精神科

高橋達一郎, 黒田 葵, 野崎博之, 岡野 裕, 齋藤寿昭, 三村 将. 妊娠中に発症し、再発を認めた抗 NMDA 抗体脳炎の 1 例. 第 109 回日本精神神経学会学術総会 . 2013 年 6 月. 福岡市.

内田貴仁, 三村 将, 内田裕之. デボ剤を使用している統合失調症患者の 10 年転帰—系統的カルテ調査—. 第 23 回日本臨床精神神経薬理学会 第 43 回日本神経精神薬理学会 合同年会. 2013 年 10 月. 沖縄県宜野湾市.

内科・総合診療科

津村和大, 海瀬綾子, 四枚田耕平, 井上光子, 倉崎康太郎, 野崎博之, 伊藤大輔, 有馬功一郎, 岡野 裕, 秋月哲史. 救急搬送患者の耐糖能障害と臨床的背景の分析. 第 110 回日本内科学会講演会. 2013 年 4 月. 東京都.

津村和大. 特別シンポジウム:「慢性疾患の療養指導」 糖尿病療養指導の質向上に向けた取り組み. 第 17 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2014 年 1 月. 大阪市.

荒井亮輔, 佐山宏一, 田中希宇人, 大森奈緒, 神山育男, 岡野 裕, 野崎博之, 秋月哲史. 血痰で指摘された気管扁平上皮癌の 1 例. 第 599 回日本内科学会関東地方会. 2013 年 9 月. 東京都.

安部涼平, 宮川義隆, 山田悠史, 入江理恵, 岡野 裕, 野崎博之, 秋月哲史. 骨髄原発低悪性度 B 細胞リンパ腫の 1 例. 第 599 回日本内科学会関東地方会. 2013 年 9 月. 東京都.

武井裕史, 工藤雄大, 田口博章, 楠 芳恵, 大曾根康夫, 入江理恵, 岡野 裕. 筋膜炎類似の臨床像を呈した尿管癌の軟部組織転移の一例. 第 24 回日本リウマチ学会関東支部学術集会. 2013 年 12 月. 東京都.

佐山宏一. 肺癌治療に関する最近の話題—内科の立場から—. 川崎外科医会. 2013 年 12 月. 川崎市.

北原博一, 井上健太郎, 津村和大, 原 智, 野崎博之, 有馬功一郎, 岡野 裕, 杉浦 仁, 秋月哲史. 病理組織学的悪性度の判断に苦慮した褐色細胞腫の 1 例. 第 602 回日本内科学会関東地方会. 2013 年 12 月. 東京都.

柳橋 優, 北園久雄, 野崎博之. 当院における悪性腫瘍に伴う脳梗塞. 第 54 回日本神経学会学術大会. 2014 年 5 月. 東京都.

太田晃一, 長田高志, 篠原幸人, 鈴木則宏, 小張昌宏, 美原 盤, 森田陽子, 五十棲一男, 村松和浩, 白井俊孝, 高橋一司, 野崎博之, 後藤 淳, 山口啓二, 富田 裕, 佐藤秀樹, 安富大祐, 服部英典, 関 守信, 二瓶義廣. パーキンソン病で早期に低下し易い認知機能領域は何か? 多施設共同研究. 第 54 回日本神経学会学術大会. 2014 年 5 月. 東京都.

倉持智洋, 吉永怜史, 中島由紀子, 玉井博修, 坂本光男, 岡野 裕, 秋月哲史. イソニアジド単剤を内服中に重篤な薬剤性肝炎を発症した潜在性結核感染症の一例. 神奈川医学会. 2013 年 4 月. 横浜市.

海瀬綾子, 四枚田耕平, 井上光子, 倉崎康太郎, 野崎博之, 伊藤大輔, 有馬功一郎, 岡野 裕, 秋月哲史. 救急搬送患者の耐糖能障害と臨床的背景の分析. 第 110 回日本内科学会講演会. 2013 年 4 月. 東京都.

田口博章, 落合萌子, 水品研之介, 工藤雄大, 西 和男, 大曾根康夫, 岡野 裕, 秋月哲史. ニューモシスチス肺炎(PCP)を併発した関節リウマチ(RA)の臨床特徴. 第 58 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2013 年 4 月. 東京都.

工藤雄大, 西 和男, 落合萌子, 水品研之介, 田口博章, 大曾根康夫, 岡野 裕, 秋月哲史. リンパ増殖性疾患(LPD)を発症した関節リウマチ(RA)13 例の臨床特徴. 第 58 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2013 年 4 月. 東京都.

津村和大. シンポジウム:シンポジウム「糖尿病診療のスキルアップ」 糖尿病足病変のフットケア <人材育成からフットケアの実際まで>. 第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2013 年 5 月. 熊本市.

海瀬綾子, 四枚田耕平, 井上光子, 倉 康太郎, 伊藤大輔, 岡野 裕, 津村和大. 救急搬送患者における耐糖能異常の実態調査 . 第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2013 年 5 月. 熊本市.

井上典子, 野崎博之, 工藤雄大, 中島由紀子, 坂本光男, 伊藤大輔, 岡野 裕, 秋月哲史. 早期治療が奏功した HIV 感染症による脊髄炎の 1 例. 第 596 回日本内科学会関東地方会. 2013 年 5 月. 東京都.

山田万里恵, 工藤雄大, 田口博章, 楠 芳恵, 大曾根康夫, 岡野 裕, 野崎博之, 秋月哲史. トシリズマブが有効であったステロイド抵抗性成人 Still 病の 1 例. 第 597 回日本内科学会関東地方会. 2013 年 6 月. 東京都.

田中佑資, 中島由紀子, 樹神元博, 坂本光男, 佐山宏一, 野崎博之, 岡野 裕, 秋月哲史, 梅山隆. 咯血を繰り返し診断に難渋した Aspergillus viridinutans による肺アスペルギルス. 第 597 回日本内科学会関東地方会. 2013 年 6 月. 東京都.

田中佑資, 有泉 健, 井上健太郎, 高木英恵, 玉井博修, 野崎博之, 岡野 裕, 秋月哲史, 秋月哲史. 肝動注化学療法が奏功した胆嚢原発神経内分泌細胞癌の 1 例. 第 598 回日本内科学会関東地方会. 2013 年 7 月. 東京都.

久保敦子, 津村和大, 海瀬綾子, 井上健太郎, 玉井博修, 末吉浩一郎,, 野崎博之, 有馬功一郎, 岡野 裕, 秋月哲史. 重症低血糖とたこつぼ心筋症を合併した神経性食欲不振症の 1 例. 第 598 回日本内科学会関東地方会. 2013 年 7 月. 東京都.

Sawano M, Nishizawa K, Fukae T, Takahashi M, Namba T, Furuta A, Li H-C, Sueyoshi K. Giant peri-stent constant staining after drug-eluting stent implantation in post-Kawasaki disease coronary artery disease. 第 22 回日本心血管インターベンション治療学会; CVIT2013 学術集会. 2013 年 7 月. 神戸市.

木村祐美子, 田中希宇人, 長谷川 司, 荒井亮輔, 大森奈緒, 佐山宏一. 偶発的に発見された気管支内過誤腫の一例. 第 146 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会. 2013 年 9 月. 東京都.

小野雄大, 高橋賢至, 西澤健也, 末吉浩一郎, 鈴木 亮, 石田 治, 森 厚夫, 岡野 裕, 野崎博之, 秋月哲史. 心筋梗塞と感染性心内膜炎の鑑別に難渋した乳頭筋断裂、急性僧帽弁逆流症による心原性ショックの 1 例. 第 600 回日本内科学会関東地方会. 2013 年 10 月. 東京都.

安部涼平, 宮川義隆, 山田悠史, 藤村吉博, 岡野 裕, 野崎博之. 当施設で最近 2 年間に経験した TTP と補体制御 H 因子関連異常による非典型 HUS の 5 症例の検討. 第 75 回日本血液学会学術集会. 2013 年 10 月. 札幌市.

坂本光男, 中島由紀子, 吉井 肇, 田口博章, 野崎博之, 秋月哲史. 当院における成人風疹症例の検討. 第 62 回日本感染症学会東日本地方会学術集会. 2013 年 10 月. 東京都.

楠 芳恵, 日高悠葵, 工藤雄大, 田口博章, 大曾根康夫, 岡野 裕. 無菌性髄膜炎と後部ぶどう膜炎を併発した HLA-B27 関連脊椎関節炎の 1 例. 第 41 回日本臨床免疫学会. 2013 年 11 月. 山口県下関市.

竹原朋宏, 井上健太郎, 有泉 健, 高木英恵, 玉井博修, 岡野 裕, 野崎博之, 秋月哲史. 経過観察中に自然退縮した大静脈および右房浸潤を伴う肝細胞癌の 1 例. 第 603 回日本内科学会関東地方会. 2013 年 12 月. 東京都.

吉井 肇, 工藤雄大, 田口博章, 大曾根康夫, 野崎博之, 岡野 裕, 入江理恵, 杉浦 仁, 秋月哲史. 多発性硬化症の診断後 8 年目に新たに出現した皮疹の生検病理像から結節性多発動脈炎と診断した 1 例. 第 603 回日本内科学会関東地方会. 2014 年 2 月. 東京都.

長谷川 司, 佐山宏一, 安部涼平, 田中希宇人, 大森奈緒, 宮川義隆, 岡野 裕, 野崎博之, 秋月哲史. 縦隔発生のもトレキサート関連リンパ増殖性疾患の治療後、気管支食道瘻を呈した 1 例. 第 604 回日本内科学会関東地方会. 2014 年 3 月. 東京都.

井上健太郎, 相浦浩一, 星本相淳, 市東昌也, 壁島康郎, 小柳和夫, 玉井博修, 杉浦 仁. 膵管内腫瘍との鑑別を要し、内視鏡的治療で軽快した膵蛋白栓の 1 例. 第 97 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 2013 年 12 月. 東京都. 抄録:Prog Dig Endosc 2013; 83: 204.

脳神経外科

片山 真, 植田 良, 竹中信夫, 今西智之. Trastuzumab 髄注が奏功した”poor prognosis”癌性髄膜炎患者の 1 例. 第 31 回日本脳腫瘍学会学術. 2013 年 12 月. 宮崎市.

竹中信夫, 今西智之, 片山 真, 植田 良, 森田慶久, 佐藤宏朗. EBP を施行した”低髄圧症候群” 12 症例の検討. 第 37 回日本神経外傷学会. 2014 年 3 月. 東京都.

泌尿器科

Kaneko G, Miyajima A, Kosaka T, Mizuno R, Kikuchi E, Oya M. mTOR Pathway Regulates The Expression Of Angiotensin 2 Type 1 Receptor In Renal Cell Carcinoma. American Urological Association Annual Meeting. 2013 年 5 月. サンディエゴ(米国).

金子 剛, 宮嶋 哲, 弓削和之, 矢澤 聰, 長谷川政徳, 水野隆一, 菊地栄次, 陣崎雅弘, 中川 健, 大家基嗣. 淡明腎細胞癌に対する根治術後の非再発生存期間と内臓肥満の関連性. 第 51 回日本癌治療学会学術集会. 2013 年 10 月. 京都市.

金子 剛, 宮嶋 哲, 弓削和之, 長谷川政徳, 武田利和, 菊地栄次, 中川 健, 大家基嗣. 腹腔鏡下前立腺全摘術の手術成績へ与える患者側の因子は何か?. 第 101 回日本泌尿器科学会総会. 2013 年 4 月. 札幌市.

原 智, 金子 剛, 長谷川政徳. 尿管ステント拔去が困難であった 4 例. 第 27 回日本泌尿器内視鏡学会総会. 2013 年 11 月. 名古屋市.

皮膚科

栗原佑一, 土井亜希子, 宮川俊一, 落合萌子, 田口博章, 岡野 裕, 佐藤悋二. 甲状腺乳頭癌を合併した抗 CADM-140 抗体陽性皮膚筋炎の一例. 日本皮膚科学会第 848 回東京地方会. 2013 年 5 月. 川崎市.

栗原佑一, 土井亜希子, 宮川俊一, 入江理恵. Apocrine carcinoma を考えた 2 例. 第 112 回日本皮膚科学会総会. 2013 年 6 月. 横浜市.

栗原佑一, 土井亜希子, 宮川俊一, 山田悠史, 森山マサミ. 汗疱様皮疹で初発した成人 T 細胞白血病/リンパ腫の一例. 第 65 回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 2013 年 11 月. 鹿児島市.

佐藤美聡, 栗原佑一, 西尾有紀子, 宮川俊一. 多発性骨髄腫を合併し舌の多発丘疹を認めた全身性アミロイドーシスの 1 例. 第 77 回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2013 年 9 月. 大宮市.

栗原佑一, 田中京子, 渡邊絵美子, 宮川俊一. 仙骨前類表皮嚢腫の 1 例. 日本皮膚科学会第 852 回東京地方会. 2013 年 12 月. 横浜市.

渡邊絵美子, 栗原佑一, 宮川俊一, 田中 勝. Folliculo-sebaceous cystic hamartoma (FSCH) の 1 例. 日本皮膚科学会第 853 回東京地方会. 2014 年 1 月. 川崎市.

栗原佑一, 渡邊絵美子, 宮川俊一, 安倍涼平, 入江理恵, 若林満貴. 非白血病性皮膚白血病 (Aleukemic leukemia cutis) の 1 例. 第 77 回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 2014 年 2 月. 東京都.

放射線治療科

田中智樹, 栗林 徹, 花田剛士. 前立腺癌に対する IMRT の初期経験. 第 443 回日本医学放射線学会関東地方会定期大会. 2013 年 6 月. 東京都.

金田朋也, 栗林 徹, 相馬啓子, 三浦康士郎. 頭頸部癌放射線療法における味覚障害、唾液分泌障害の検討. 日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会. 2013 年 10 月. 青森市.

江里口貴久, 栗林 徹, 池本孝司, 小切孝洋, 三嶽秀介, 小林裕介. I～Ⅲ期下咽頭癌に対する根治的化学放射線療法の治療成績. 日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会. 2013 年 10 月. 青森市.
大橋幸也. シンポジウム: 実際どうなの? ワイヤレス FPD ポータブル ～ポータブル検査での運用例～. 第 15 回神奈川放射線学術大会. 2014 年 1 月. 横浜市.

小林 翔. ワイヤレス FPD「CALNEO flex」の使用経験と無線化. 平成 25 年度関東甲信越診療放射線技師学術大会. 2013 年 6 月. 横浜市.

南 雅之. 政令指定都市である川崎市における PET/CT 導入の効果—自治体病院としての役割を果たすために—. 第 52 回全国自治体病院学会. 2013 年 10 月. 京都市.

小林裕介. 位置照合時における X 線撮影画像と再構成画像 (DRR) との不一致について. 平成 25 年度関東甲信越診療放射線技師学術大会. 2013 年 6 月. 横浜市.

小林裕介. 位置照合時における X 線撮影画像と再構成画像 (DRR) との不一致について. 第 52 回全国自治体病院学会. 2013 年 10 月. 京都市.

小林水紀. 脳血流 SPECT におけるコリメータ開口補正処理の有用性について (定量画像に関する検討). 第 33 回日本核医学技術学会. 2013 年 11 月. 福岡市.

齋藤敦子. 個人被ばく線量管理における放射線管理の役割. 第 29 回日本診療放射線技師学術大会. 2013 年 9 月. 島根市.

小野欽也. 脳血流 SPECT におけるコリメータ開口補正処理の有用性について (定性画像に関する検討). 第 33 回日本核医学技術学会. 2013 年 11 月. 福岡市.

小野欽也. シンポジウム: 診療放射線技師会 (職能団体) としての災害対策 ～DMAT として～. 第 29 回日本診療放射線技師学術大会. 2013 年 9 月. 島根市.

桂嶽 亮. 関節変換型 FPD における解像特性の検討 (CsI と GoS の比較). 平成 25 年度関東甲信越診療放射線技師学術大会. 2013 年 6 月. 横浜市.

植松敬子, 佐藤宏朗, 成松芳明, 長谷川市郎, 塚田実郎, 横須賀公三, 入江理恵, 杉浦 仁. 非外傷性脾破裂を契機に見つかった IgG 関連疾患後腹膜線維症の 1 例. 平成 25 年度神奈川県放射線医学会例会. 2013 年 10 月. 横浜市.

麻酔・集中治療部

菅 規久子, 増田純一. 左開胸大動脈手術における左心バイパスによる酸素化改善の機序. 日本麻酔科学会第 60 回学術集会. 2013 年 5 月. 札幌市.

本田あやか, 阪本浩平, 増田祐也, 菅 規久子, 森田慶久, 増田純一. 真性多血症に対する周術期管理を必要とした一例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 53 回合同学術集会. 2013 年 9 月. 東京都.

Kurazumi T, Morita Y, Masuda J. Perioperative management of emergency abdominal surgery in a patient with left ventricular non-compaction. The 9th Meeting of the Asian Society of Cardiothoracic Anesthesia. 2013 年 9 月. 台北 (台湾).

Ishikawa S. Staircase phenomenon in pediatric neuromuscular monitoring. American Society of Anesthesiologists (ASA) 2013 Annual Meeting. 2013 年 10 月. サンフランシスコ (米国).

若宮里恵, 増田祐也, 石川紗希, 倉住拓弥, 菅規久子, 高山渉, 田中久美子, 増田純一. 潜在性甲状腺機能低下症の術前管理についての検討. 日本臨床麻酔学会第 33 回大会. 2013 年 11 月. 金沢市.

豊永晋也, 若宮里恵, 増田祐也, 増田純一. ドロペリドールの硬膜外投与により錐体外路症状を呈し、てんかん発作と誤診された症例. 日本臨床麻酔学会第 33 回大会. 2013 年 11 月. 金沢市.

増田祐也, 若宮里恵, 石川紗希, 安藤嘉門, 豊永晋也, 菅 規久子, 岡部久美子, 増田純一. 原発性中枢神経腫瘍に対する脳血液関門破壊とメソレキセート動注療法の麻酔管理について. 日本臨床麻酔学会第 33 回大会. 2013 年 11 月. 金沢市.

石川紗希. 喉頭気管食道裂 type3 の乳児における食道絞扼術・胃瘻増設術の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会第 33 回大会. 2013 年 11 月. 金沢市.

本田あやか, 菅 規久子, 高森修平, 中尾一俊, 森田慶久, 増田純一. 非脱色性二酸化炭素吸収剤の従来品との性能比較. 神奈川麻酔科医会第 45 回学術集会. 2014 年 2 月. 横浜市.

高山 渉, 菅 規久子, 増田祐也, 森田慶久, 増田純一. 新しい集中治療部門システム「CIS-ICU」の紹介 —病院電子カルテ・外部機器データ連携を強化したシステム—. 第 41 回日本集中治療医学会学術集会. 2014 年 2 月. 京都市.

菅 規久子, 阪本浩平, 増田祐也, 安藤嘉門, 高山 渉, 森田慶久, 増田純一. 2 度の開頭手術でマンニトール投与後に高カリウム血症となった一例. 第 41 回日本集中治療医学会学術集会. 2014 年 2 月. 京都市.

高森修平, 根津竹哉, 山口和哉, 中尾一俊, 森田慶久, 増田純一. 非脱色性二酸化炭素吸収剤の従来品との性能比較. 日本麻酔科学会第 60 回学術集会. 2013 年 5 月. 札幌市.

井汲康典, 門馬栄菜, 高森修平, 山口和哉, 中尾一俊, 森田慶久. 静脈用カテーテルアダプタ BD Q サイト TM が輸液回路に与える影響. 第 52 回全国自治体病院学会. 2013 年 10 月. 京都市.

井汲康典, 門馬栄菜, 高森修平, 山口和哉, 中尾一俊, 森田慶久, 増田純一. 静脈用カテーテルアダプタの比較検討. 第 41 回日本集中治療医学会学術集会. 2014 年 2 月. 京都市.

山口和哉, 門馬栄菜, 井汲康典, 高森修平, 中尾一俊, 森田慶久, 増田純一. 成人用人工呼吸器回路 Evaqua および Evaqua2 の性能評価. 第 41 回日本集中治療医学会学術集会. 2014 年 2 月. 京都市.

増田純一. 情報共有で変わる手術室運営. 第 16 回日本医療マネジメント学会学術大会. 2013 年 6 月. 盛岡市.

薬剤部

大室 綾, 小林 岳, 坂本光男. 抗 MRSA 薬の変更により軽快した 1 症例. 第 87 回日本感染症学会学術講演会・第 61 回日本化学療法学会総会 合同学会. 2013 年 6 月. 横浜市.

大室 綾, 小林 岳, 早川和宏, 飯島尚志, 坂本光男. パンコマイシン投与患者における腎機能発現に関するリスク因子の検討. 第 23 回日本医療薬学会年会. 2013 年 9 月. 仙台市.

井上彰大, 中野泰子, 飯島尚志. レボフロキサシン内服による腎機能障害調査. 日本薬学会第 134 年会. 2014 年 3 月. 熊本市.

7. 研究会

リハビリテーション科

久永 希. 橈骨遠位端骨折術後のリハビリテーション. 第 30 回リハビリテーション医療懇話会. 2013 年 7 月.

外科

掛札敏裕. 血管外科から診た下肢疼痛と歩行障害—特に閉塞性動脈硬化症について—. 川崎区医師会第 47 回ミートズスペシャリスト. 2013 年 11 月. 川崎市.

和多田 晋, 掛札敏裕. 末期癌患者の IFU 外感染性腹部大動脈瘤に対しハイブリッド手術を施行した 1 例. 第 157 回血管外科症例検討会. 2013 年 10 月. 川崎市.

和多田 晋, 掛札敏裕, 鳥飼秀幸, 成松 芳明. スtent グラフト内挿術術後 3 年無症状で特異な瘤径変化をきたした 1 例. 第 4 回川崎ステントグラフト研究会. 2014 年 1 月. 川崎市.

和多田 晋, 樋口 格, 掛札 敏裕. 自家静脈 distal bypass 閉塞に筋切断が有効であった 1 例. 第 17 回神奈川末梢血管治療研究会. 2014 年 1 月. 横浜市.

和多田 晋. 帰朝報告. 慶応外科フォーラム. 2014 年 1 月. 東京都.

看護部

吉崎弘之. 希死念慮のある患者の精神的変化. 平成 25 年度日本精神科看護技術協会神奈川県支部看護研究発表会. 2013 年 10 月. 横浜市.

救急科

田熊清継. Surviving sepsis campaign guidelines 2012—初期治療戦略と本邦における抗菌薬の使い方. 第 2 回神奈川敗血症セミナー. 2013 年 7 月. 横浜市.

田熊清継. 死に至る病態 危険回避と発生時の対応. 川崎市立川崎病院口腔外科病診連携セミナー. 2014 年 1 月. 川崎市.

大城健一. アクアライン内で発生した多数傷病者事案について. 神奈川県メディカルコントロール協議会症例発表会. 2013 年 10 月. 横浜市.

田熊清継. 講演: 救急医療と医療安全リスクの認識. 川崎市立川崎病院医療安全委員会. 2013 年 11 月. 川崎市.

大城健一. 羽田空港域外拠点における活動. 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業「災害時における医療チームと関係機関との連携に関する研究」. 2013 年 10 月. 東京都.

大城健一. 川崎市立川崎病院の災害医療体制・神奈川 DMAT 合同訓練について. 川崎区危機管理協議会医療救急部会. 2013 年 8 月. 川崎市.

大城健一. 川崎市立川崎病院病院災害対応訓練について. 川崎区危機管理協議会医療救急部会. 2013 年 11 月. 川崎市.

検査科

入江理恵, 中澤温子, 中野夏子, 大喜多肇, 松岡健太郎, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生. 乳幼児劇症肝不全例の病態に関する検討. 第 31 回日本肝移植研究会. 2013 年 7 月. 熊本市.

耳鼻咽喉科

坂田絢子, 相馬啓子. 両側顔面神経麻痺で発症した facial diplegia with paresthesia の 1 例. 第 36 回日本顔面神経研究会. 2013 年 4 月. 那覇市.

三浦康士郎, 猪野絢子, 前田俊一. Lemierre 症候群が疑われた 1 例. 第 53 回慶浜耳鼻科研究会. 2013 年 6 月. 横浜市.

重富征爾. ウェアラブルカメラを用いた頸部手術における動画撮影 <その可能性と限界>. 第 53 回慶浜耳鼻科研究会. 2013 年 6 月. 横浜市.

三浦康士郎. 治療に難渋している喉頭腫瘍の 1 例. 第 54 回慶浜耳鼻科研究会. 2013 年 9 月. 横浜市.

猪野絢子, 三浦康士郎, 小川裕介. 耳漏を繰り返した 1 例. 第 11 回慶應耳鼻咽喉科臨床懇話会. 2014 年 1 月. 東京都.

重富征爾. ウェアラブルカメラを用いた頸部手術における動画撮影 <その可能性と限界>. 第 11 回慶應耳鼻咽喉科臨床懇話会. 2014 年 1 月. 東京都.

小児科

本田 堯, 江原和美, 石川真由美, 一色恭平, 安藤枝里子, 小島拓朗, 檜林 敦, 津村由紀, 中尾歩, 安藏 慎, 番場正博. 肺炎球菌による化膿性股関節炎・骨髄炎を契機に診断された B 細胞欠損型低ガンマグロブリン血症の 1 歳男児例. 第 14 回神奈川小児血液・感染症フォーラム. 2013 年 9 月.

石川真由美, 江原和美, 本田 堯, 一色恭平, 安藤枝里子, 小島拓朗, 檜林 敦, 津村由紀, 中尾歩, 安藏 慎, 番場正博. 川崎病治療における、群馬スコアによる層別化の検討. 第 9 回神奈川県川崎病研究会. 2014 年 2 月. 横浜市.

食養科

金澤美穂. 教育講演: 当院における糖尿病透析予防指導について. 川崎市病院栄養管理部会研修会. 2013 年 6 月. 川崎市.

亀山亜希夫. 教育講演: チーム医療、糖尿病網膜症患者への各職種の関わり～栄養士の立場から～. 第 15 回神奈川県糖尿病療養指導研究会研修会. 2014 年 3 月. 川崎市.

整形外科

堀内行雄. 特別講演: 外来診療における手の外科診療のコツ. 第 359 回 MOC の会. 2013 年 6 月. 福岡市.

堀内行雄. 特別講演: 末梢神経損傷の診断と治療—より良き治療を目指して—. 第 15 回新潟創傷治療懇話会. 2013 年 8 月. 新潟市.

堀内行雄. 特別講演: CRPS の診断と治療. 備後運動器疼痛疾患研究会 (第 3 回). 2013 年 9 月. 広島県福山市.

堀内行雄. 特別講演: 手外科診療における工夫とコツ. 第 28 回東日本手外科研究会. 2014 年 2 月. 東京都.

金田和也, 小柳貴裕, 堀内行雄, 中道憲明, 原藤健吾, 金子康仁, 別所祐貴, 堀内孝一, 橋田祐樹, 磯貝宜広, 浅野拓行, 梅津太郎. Crownd dens syndromene 4 例. 第 149 回神奈川整形外科研究会. 2013 年 10 月. 横浜市.

堀内孝一, 堀内行雄, 別所祐貴, 中道憲明, 梅津太郎, 金田和也, 磯貝宜広, 橋田祐樹, 金子康仁, 原藤健吾, 小柳貴裕. Von Recklinghausen 病に発症した悪性末梢神経鞘腫瘍の 1 例. 第 19 回神奈川上肢外科研究会. 2013 年 10 月. 横浜市.

別所祐貴, 金田和也, 磯貝宜広, 橋田祐樹, 堀内孝一, 金子康仁, 原藤健吾, 中道憲明, 小柳貴裕, 堀内行雄. 神経再生誘導チューブ (ナーブリッジ) を用いて架橋した尺骨神経損傷の 1 例. 第 19 回神奈川上肢外科研究会. 2013 年 10 月. 横浜市.

木村祐美子, 堀内孝一, 別所祐貴, 中道憲明, 堀内行雄. 橈骨遠位端骨折・小菱形骨粉碎骨折・有鉤骨脱臼を伴った第 2-5CM 関節背側脱臼の 1 例. 第 28 回東日本手外科研究会. 2014 年 2 月. 東京都.

飯田 剛, 小柳貴裕, 金田和也, 森重雄太郎, 清水英徳, 堀内孝一, 大久保 匡, 別所祐貴, 金子康仁, 原藤健吾, 中道憲明, 堀内行雄. ワーファリン内服患者で頸椎脱臼骨折を起こした1例(会議録/症例報告). 第150回神奈川整形災害外科研究会. 2013年6月. 横浜市.

精神科

齋藤寿昭. 成人になってから自閉症スペクトラム障害を疑われた症例の検討. 第4回川崎子どもの心の健康研究会. 2013年9月. 川崎市.

内科・総合診療科

津村和大. 基調講演:糖尿病療養指導の“ちから”. 第32回関東甲信越糖尿病セミナー. 2013年11月. 横浜市.

岡野 裕. 関節リウマチの最近の話題～治療薬の進歩と課題～. 第25回荒川整形外科フォーラム21. 2013年6月. 東京都.

津村和大. 糖尿病患者の周術期管理におけるピットフォール. 第7回糖尿病看護に必要な基礎知識を得る研修会. 2013年6月. 川崎市.

津村和大. 最近の糖尿病治療と生活指導のポイント. 平成25年度神奈川県在宅保健師会研修会. 2013年9月. 横浜市.

津村和大. 戦略研究の意義と大規模臨床研究としての戦略研究の仕組み. 厚生労働省研究公募説明会. 2013年9月. 東京都.

岡野 裕. 強皮症の腎障害. 第2回膠原病の腎障害研究会. 2013年10月. 横浜市.

津村和大. 糖尿病患者における病歴・検査データの考え方. 第60回明日からの実践に役立つ川崎市糖尿病セミナー. 2013年11月. 川崎市.

楠 芳恵, 遠藤平仁, 川合眞一. 強皮症合併肺高血圧に対するPDEⅢ阻害薬併用の有用性. 第17回強皮症研究会議. 2014年1月. 東京都.

遠藤平仁, 楠 芳恵, 川合眞一. 強皮症消化管病変に対する治療介入基準の検討. 第17回強皮症研究会議. 2014年1月. 東京都.

津村和大. 糖尿病合併症における診療連携. 神奈川県健康福祉局第1回多職種連携推進部会. 2014年1月. 横浜市.

津村和大. 新しい食品交換表・新しい糖尿病治療薬. 神奈川県糖尿病協会第6回食事勉強会. 2014年2月. 横浜市.

津村和大. 糖尿病治療を取り巻く最近の話題. 第4回幸・川崎病診療Net. 2014年2月. 川崎市.

津村和大. 特別講演:糖尿病療養指導における人材育成～組織マネジメント・地域活動支援の実践～. Diabetes Care New Frontier. 2014年2月. 大阪市.

津村和大. 基調講演:多層的な糖尿病医療連携を目指して. 川崎市内科医会学術講演会. 2014年3月. 川崎市.

津村和大. 糖尿病の臨床データを考える. 第15回神奈川県糖尿病療養指導研修会. 2014年3月. 川崎市.

放射線治療科

栗林 徹. 特別講演:前立腺癌の放射線治療. 平成25年度川崎市放射線科医会講演会. 2014年2月. 川崎市.

成松芳明. 特別教育講演:歩んできた道そしてこれから PTRと腎動脈ステント. 第31回日本Metallic Stents & Grafts 研究会. 2013年5月. 長野県軽井沢町.

佐藤宏朗. 特別講演:小児急性性腹症の画像診断～腸重積と虫垂炎を中心に～. 川崎市小児科医会. 2013年5月. 川崎市.

佐藤宏朗. 特別講演:小児画像診断:領域別にポイントを押さえる. 神奈川放射線技師会. 2013年11月. 横浜市.

小菅友也. 学術講演:乳腺MRIの各施設における撮影法. 川崎市放射線技師会定例研究会. 2013年3月. 川崎市.

植松敬子, 佐藤宏朗, 成松芳明, 長谷川市郎, 横須賀公三, 入江理恵, 杉浦 仁, 塚田実郎. 非外傷性脾破裂を契機に見つかったIgG4関連疾患後腹膜線維症の一例. 第54回神奈川県放射線医学会例会. 2013年10月.

南 雅之. 技術講演:3検出器ファンビームコリメータ画像と2検出器パラレルホールコリメータのコリメータ開口補正付き再構成画像の比較. 第58回関東核医学画像処理研究会. 2014年2月. 東京都.

鳥飼秀幸, 佐藤宏朗, 長谷川市郎, 成松芳明. 転移性肝腫瘍破裂に対してTAEを施行した一例. 454回東京アンギオ・IVR会. 2013年6月. 東京都.

小林水紀. 脳血流SPECTにおけるコリメータ開口補正処理の有用性について(定量画像に関する検討). 第367回神奈川核医学研究会. 2014年1月. 横浜市.

小野欽也. 脳血流SPECTにおけるコリメータ開口補正処理の有用性について(定性画像に関する検討). 第367回神奈川核医学研究会. 2014年1月. 横浜市.

小野欽也. 特別講演:東日本大震災後に診療放射線技師として対応したこと. 茨城臨床核医学研究会. 2014年1月.

麻酔・集中治療部

倉住拓弥, 森田慶久, 増田純一. 成人三心房心患者の僧房弁形成術における人工心肺の確立に、経食道エコーによる評価が有用であった一症例. 第10回麻酔科学セミナー. 2013年6月. 沖縄県名護市.

増田純一. 日本におけるオピオイド使用の歴史. 第1回多摩臨床緩和ケア研究会. 2013年9月. 東京都.

8. その他

看護部

寺谷はる菜. 自然な形で逝きたいというエンドステージ患者に対する看護. 公益社団法人川崎市看護協会看護研究・活動報告会. 2014年2月.

倉原愛未. 早期流産・死産をした母親への支援～当院におけるグリーフケアの取り組みに向けて～. 公益社団法人川崎市看護協会看護研究・活動報告会. 2014年2月.

柴田 桜. 進行癌を告知された夫婦への援助～危機的状況乗り越えた過程～. 公益社団法人川崎市看護協会看護研究・活動報告会. 2014年2月.

救急科

大城健一. 災害看護学・国際看護学.川崎市看護専門学校.2013年10月

大城健一. 傷病者の緊急性・重症度判断について.川崎市消防局救急救命士再教育研修..2013年10月

大城健一. 川崎 DAMT 新規隊員養成研修 プログラムディレクター.川崎 DMAT 新規隊員養成研修.2014年1月

大城健一. 救急技術確認訓練.救急技術確認訓練.2014年2月

大城健一. 川崎市消防局事後検証会・川崎消防署合同勉強会.川崎市消防局事後検証会・川崎消防署合同勉強会.2013年5月から2014年2月

歯科口腔外科

鬼澤勝弘,安居孝純,軽部健史. こんな時の小手術. 第18回川崎病院症例検討会. 2013年6月. 川崎市.

年 報 編 集 部 会

部 会 長	事 務 局 長	柄 崎 智	部 会 員	薬 剤 部	坂 井 義 則
副部会長	看 護 部	千 島 美奈子	〃	教育指導部	津 村 和 大
部 会 員	〃	出 水 要 子	〃	食 養 科	樋 口 直 美
〃	〃	菅 智 子	〃	庶 務 課	高 橋 智 常
〃	リウマチ膠原病・痛風センター	田 口 博 章	〃	〃	鈴 木 和 文
〃	産科・婦人科	鈴 木 毅	〃	医 事 課	奥 知 子
〃	放射線診断科	狩 野 真之介	書 記	庶 務 課	矢 口 昌 枝
〃	検 査 科	坂 井 瞳			

年 報 編 集 後 記

２０１３年度は、風疹の流行、リウマチ膠原病・痛風センターの開設、眼科手術の再開、診療報酬改定準備、紹介外来制へ向けての準備、災害備蓄対応など、当院として例年通りの盛りだくさんの課題に取り組んできた１年でした。この１年が２０１４年度に本格的にスタートした地域医療支援病院承認へ向けての取り組みのスプリングボードになったのかと思います。

今後、都市部における急激な高齢化の進展により、益々、地域連携というキーワードが欠かせないものとなってきますが、その中で地域に貢献し、市民の皆様の期待に応え、地域の手本となるような病院を目指して、職員一同、一層の努力を重ねてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、２０１３年度の事業活動の集大成である病院年報発行に際し、資料作成等に御協力いただきました関係者の皆様をはじめ、編集作業に携わった多くの方々に、深く感謝を申し上げて巻末の辞とさせていただきます。

年報編集部会 部会長 柄 崎 智

川 崎 市 立 川 崎 病 院 年 報 第49号（平成25年度版） 平成26年9月12日発行 編集・発行 川 崎 市 立 川 崎 病 院 〒210-0013 川崎市川崎区新川通12番1号 電 話 044（233）5521代 F A X 044（245）9600 川崎病院ホームページ （ http://www.city.kawasaki.jp/83byoin/kawasaki/index.html ） 印 刷 所 株式会社 東邦プラン

鬼澤勝弘、川崎市立川崎病院口腔外科の紹介、口腔外科病診連携セミナー、2014年1月、川崎市。
鬼澤勝弘、安居孝純、軽部健史、知れば恐くないかかりつけ歯科医のための上顎洞疾患、第19回川崎病院症例検討会、2014年2月、川崎市。
鬼澤勝弘、口腔癌セミナー、川崎市中原区歯科医師会、2014年2月、川崎市。
鬼澤勝弘、口腔癌検診、川崎市、2013年12月、川崎市。

小児科

安藏 慎、教育講演：甲状腺と成長のおはなし、第12回川崎市子ども健康フォーラム、2013年6月、川崎市。

精神科

齋藤寿昭、かかりつけ医認知症対応力向上研修「認知症」、かかりつけ医認知症対応力向上研修、2014年3月、川崎市。
根本 康、精神障害者の病態とその治療、精神障害の在宅看護研修、2013年10月、川崎市。

内科・総合診療科

津村和大、糖尿病足病変の病態と治療～指導者としての心得～、平成25年度第1回糖尿病足病変の指導者研修、2013年6月、川崎市。
津村和大、糖尿病足病変の病態と治療～指導者としての心得～、平成25年度第2回糖尿病足病変の指導者研修、2013年9月、川崎市。
津村和大、糖尿病足病変の病態と治療～指導者としての心得～、平成25年度第3回糖尿病足病変の指導者研修、2013年12月、川崎市。
野崎博之、一過性脳虚血発作って何？、川崎市市民公開講座、2014年6月。
岡野 裕、リウマチを理解しよう、市民公開講座「リウマチ～よりよい明日のために」、2013年9月。
田口博章、リウマチの最新治療、市民公開講座「リウマチ～よりよい明日のために」、2013年9月。
岡野 裕、体調や健康管理と内科的トラブルの対処法、日本陸上競技連盟主催ランニングクリニック「市民ランナーのための長野マラソンレース直前対策講座とランニング相談会」、2013年4月。

9. 院内講演会

回	実 施 日	講 師	講 演 内 容
1	2013. 5.23	伊 藤 かつえ メディコン松本	C Vポートについて
2	2013. 6.6	清水谷 弘 美	嚥下食勉強会 嚥下食を実際に食べながら勉強しよう！
3	2013. 6.11,27	山 口 和 哉	人工呼吸器勉強会〈初級編〉
4	2013. 7.1	長 澤 恵梨子	褥瘡の栄養管理
5	2013. 7.1	井 上 義 治	「褥瘡の手術」
6	2013.7.7	坪 田 結 香	外用薬について
7	2013.10.8,22	山 口 和 哉	人工呼吸器勉強会〈中級編〉
8	2013.11.5	田 熊 清 勝	救急医療と医療安全
9	2014.2.10	南 雅 之	政令指定都市である川崎市におけるPET／CT導入の効果
10	2014.2.10	小 林 翔	病棟ポータブル撮影業務の改善